

第4次館山市総合計画策定

館山市 市民まちづくり アンケート報告書

平成27年3月

目 次

1. 調査の設計.....	5
(1) 調査の趣旨.....	5
(2) 調査の方法.....	5
2. 調査結果.....	6
(1) 回答者プロフィール.....	6
(2) 館山市のイメージや将来像について.....	20
(3) 郷土の誇り・宝.....	22
(4) 館山市全体について.....	28
(5) 42の施策に対する評価.....	38
(6) 館山市の防災について.....	54
(7) 近所づきあいについて.....	61
(8) 市民参加について.....	63
(9) 館山市の少子・高齢化対策について.....	65
(10) 行財政改革について.....	74
(11) 広報・情報発信について.....	78

1. 調査の設計

(1) 調査の趣旨

館山市の新しい総合計画を策定するにあたり、現行の総合計画やまちづくりに対する市民の評価や今後の課題、市政に対する期待や発展の方向性を明らかにし、新たな総合計画に反映させる。

(2) 調査の方法

① 調査対象

市内に居住する満 16 歳以上の市内在住者の中から、3,000 人を無作為抽出
(住民基本台帳からの無作為抽出、男女別、年齢別、地域別を考慮)

② 調査方法

郵送による発送・回収（無記名）

③ 調査時期

平成 26 年 8 月 11 日～9 月 1 日

④ 回収状況

- ・ 設計標本数：3,000 人
- ・ 有効回答数：1,324 人
- ・ 有効回答率：44.1%

⑤ 調査結果の見方

- ・ 集計結果は各設問の標本数を 100%とした百分比 (%) で表示した。原則として小数点第 2 位を四捨五入してあるため、その結果としてこの比率の合計が 100%にならないこともありうる。
- ・ 1 人の回答者に 2 つ以上の回答を認めた設問では、百分比 (%) の合計は、100%を上回る場合がある。
- ・ 本文中の「n」はその設問についての有効回答数を示している。
- ・ 文中の「SA」、「MA」は以下の略称である。
- ・ 「SA」(Single Answer)：単一回答形式
- ・ 「MA」(Multiple Answer)：複数回答形式
- ・ 本文中のグラフ、表中の選択肢標記は、見やすさに配慮するために、語句を簡略化してある場合がある。
- ・ 本文中のグラフは、見やすさを配慮し、複数のものをまとめてある場合がある。

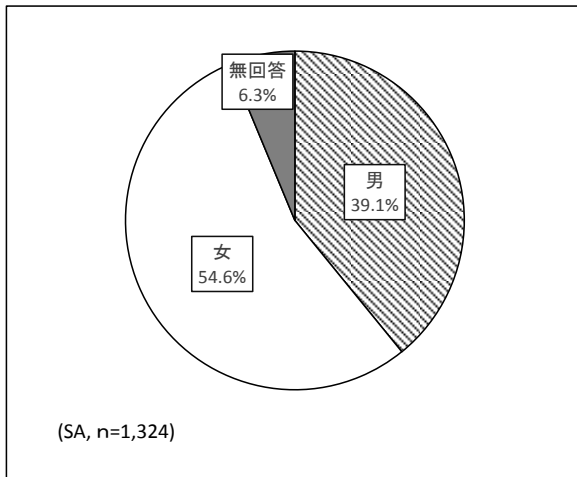
2. 調査結果

(1) 回答者プロフィール

① 性別

回答者の性別は、男性が39.1%、女性が54.6%となり、女性が半数を超えた。
ただし、調査票配布数は、人口構成を考慮し女性に多く配付している。

図表番号 1 性別



<参考：配布数と回答数の内訳>

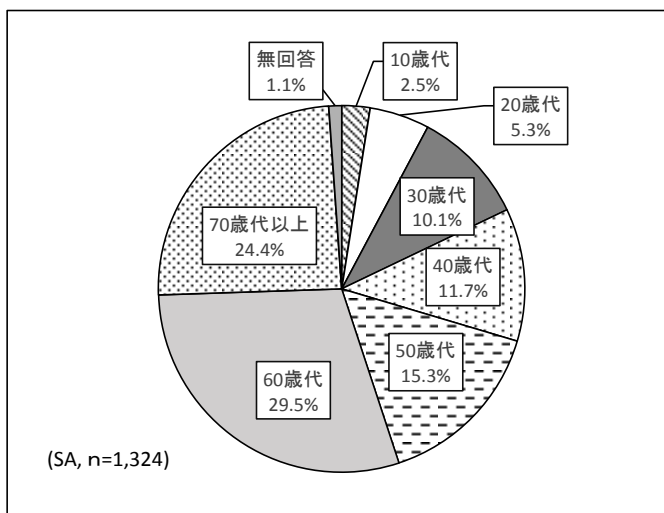
性別	配布数	回答数	回答率
男性	1,466	518	0.35
女性	1,534	723	0.47
合計	3,000	1,241	

(無回答 83)

② 年代

回答者の年代は、60歳代が最も割合が高く29.5%、次いで70歳代が24.4%、50歳代が15.3%となり、60歳以上が半数を超えた。

図表番号 2 年代



<参考：配布数と回答数の内訳>

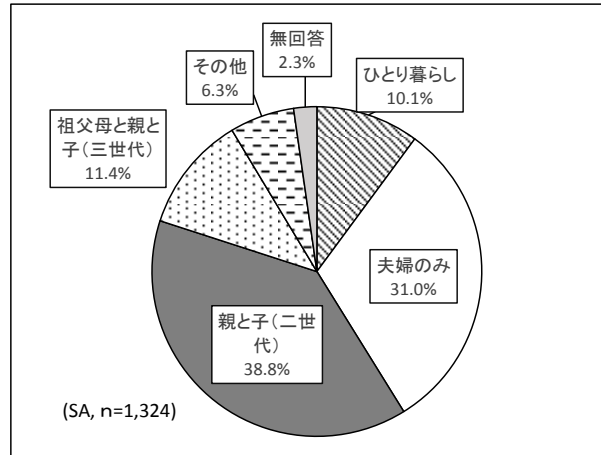
年代	配布数	回答数	回答率
10代	131	33	0.25
20代	274	70	0.26
30代	417	134	0.32
40代	468	155	0.33
50代	450	203	0.45
60代	710	391	0.55
70代以上	550	323	0.59
合計	3,000	1,309	

(無回答 15)

③ 家族構成

回答者の家族構成は、「親と子の二世帯」が最も割合が高く 38.8%、次いで「夫婦のみ」が 31.0%となった。

図表番号 3 家族構成



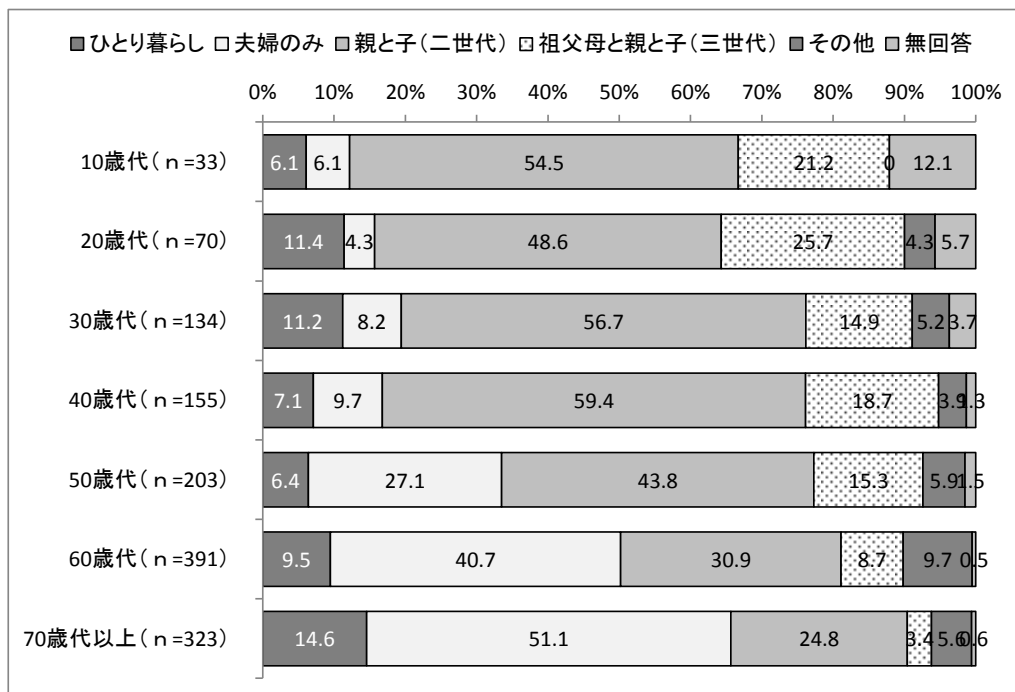
<年代別>

家族構成を年代別にみると、「一人暮らし」は 70 歳代以上が最も割合が高く 14.6%となっている。

また、「夫婦のみ」も 40 歳代までは 1 割に満たないが、50 歳代から割合は高くなり、70 歳代以上では 51.1%と半数を超える。

一方、「三世帯」は 20 歳代以下では 2 割を超えているが、年代が上がるにつれて割合は低くなり、60 歳代では 8.7%、70 歳代以上では 3.4%と少ない。

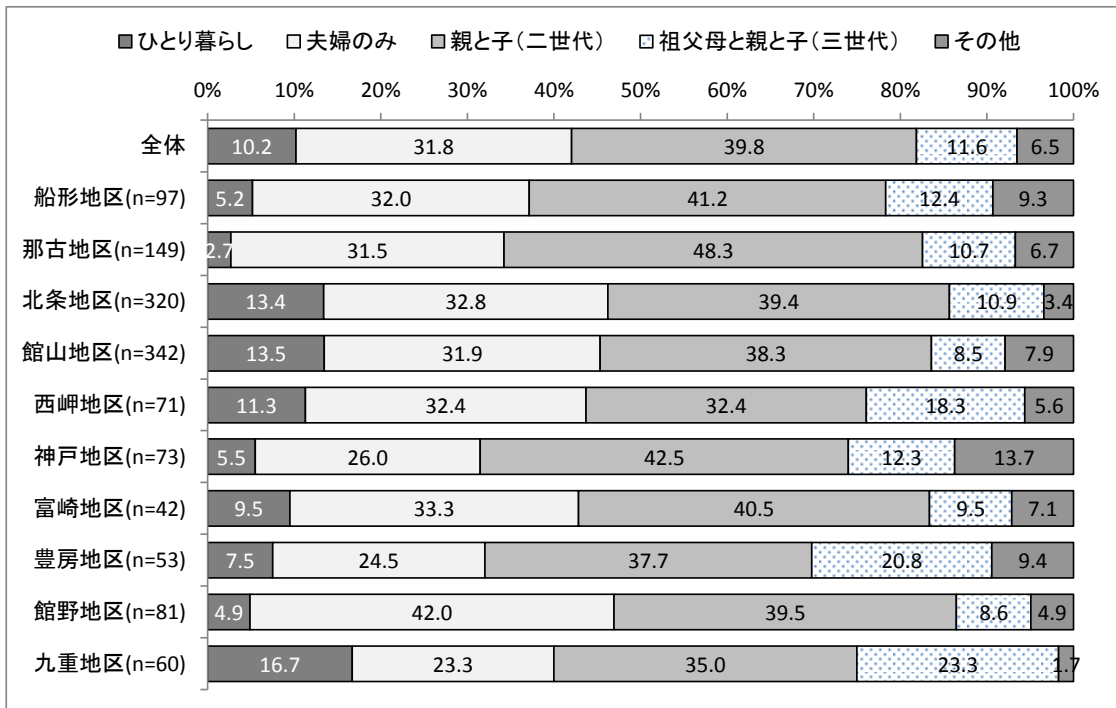
図表番号 4 家族構成(年代別)



<地域別>

家族構成を地域別にみると、「ひとり暮らし」は九重地区や館山地区、北条地区、西岬地区で割合が高く、「三世代」は九重地区や豊房地区で割合が高い。

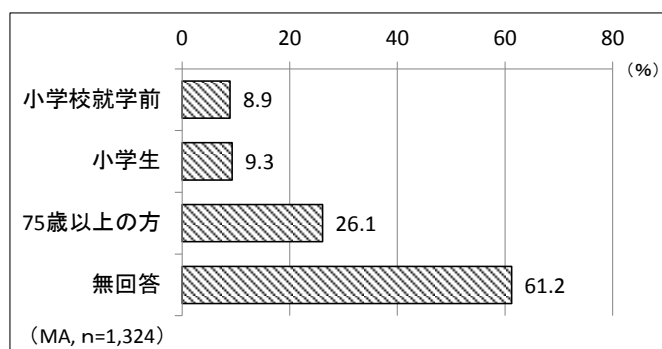
図表番号 5 家族構成(地域別)



④ 子どもや高齢者との同居状況

回答者のうち、「就学前の子ども」との同居は 8.9%、「小学生」との同居は 9.3%、「75歳以上の方」との同居は 26.1%となった。

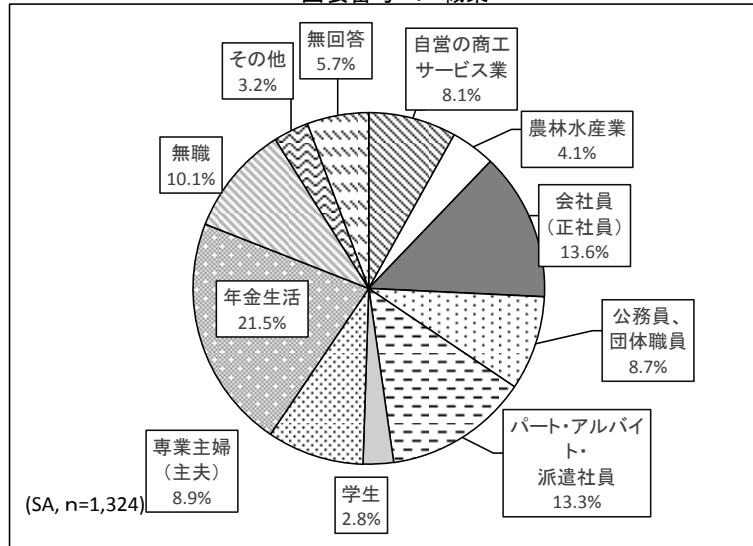
図表番号 6 子どもや高齢者との同居状況



⑤ 職業

回答者の職業は、「年金生活者」が最も割合が高く 21.5%、次いで「パート・アルバイト・派遣社員」が 13.3%、「会社員（正社員）」が 13.6%となった。

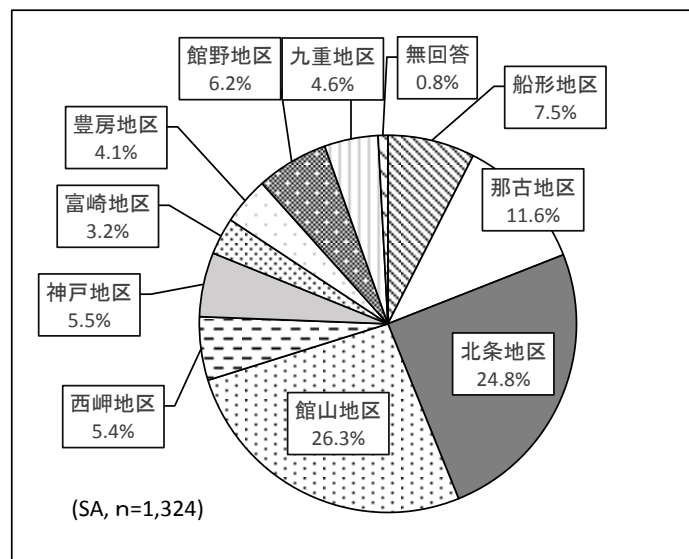
図表番号 7 職業



⑥ 居住地区

居住地区は、「館山地区」が最も割合が高く 26.3%、次いで「北条地区」が 24.8%、「那古地区」が 11.6%などとなった。最も割合が低いのは「富崎地区」（3.2%）となった。

図表番号 8 居住地区



⑦ 通勤・通学先とその手段

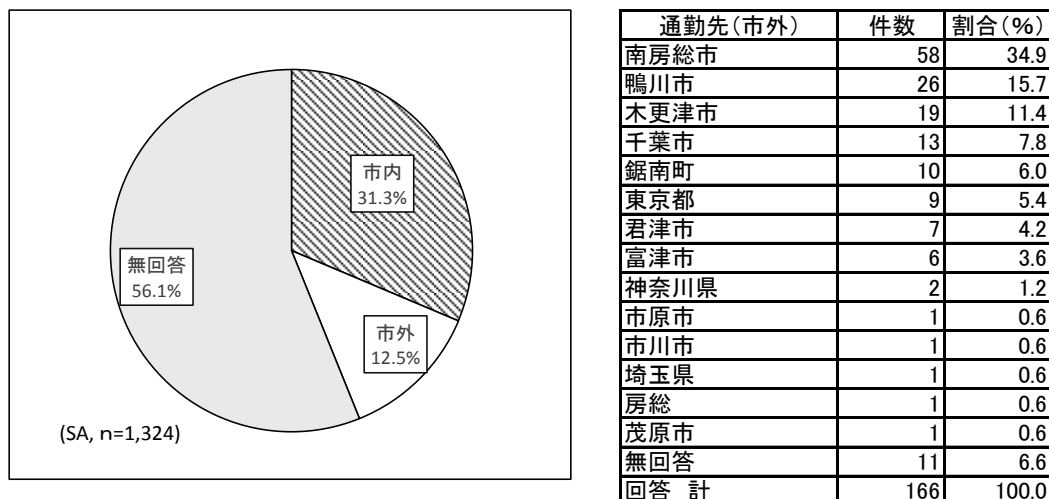
通勤・通学している回答者の通勤・通学先は、「市内」が71.4%、「市外」が28.6%となった。

市外の通勤先では、南房総市が最も多く、次いで鴨川市、木更津市となった。

市外の通勤先は、周辺市町（南房総市、鴨川市、鋸南町）で56.6%を占めるが、千葉市や東京都、埼玉県、神奈川県などの長距離通勤者も15.0%みられる。

※回答記入者のみ集計

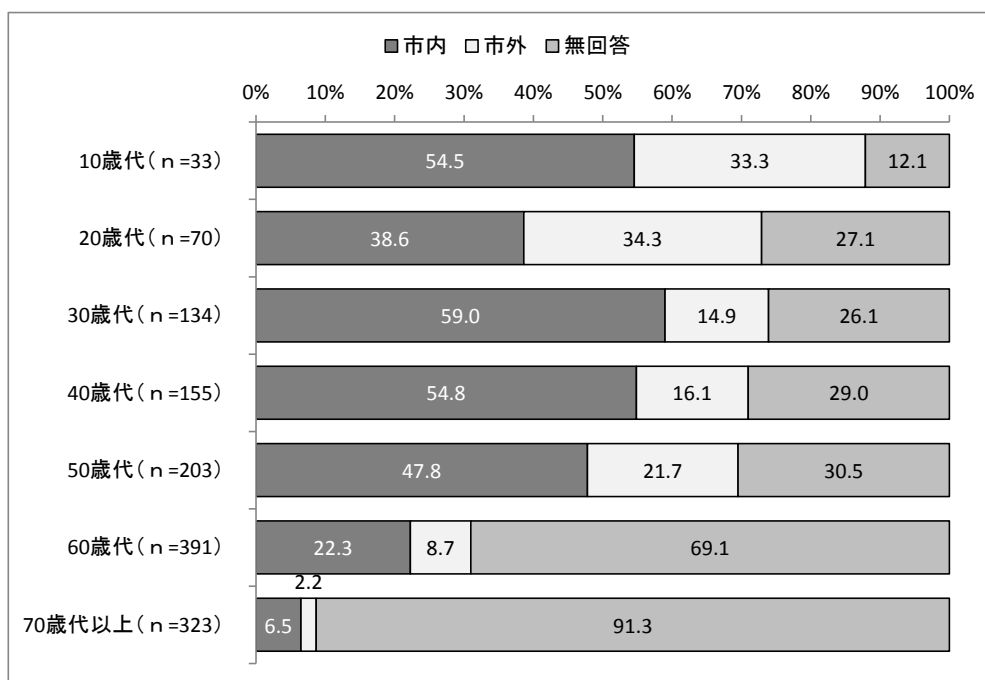
図表番号 9 通勤・通学先



<年代別>

通勤先を年代別にみると、市外への通勤・通学割合が最も高いのは20歳代で34.3%、次いで10歳代が33.3%、50歳代が21.7%となった。

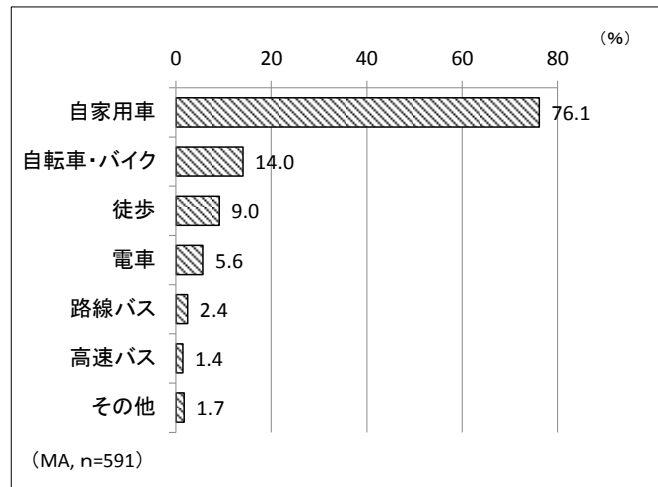
図表番号 10 通勤・通学先(年代別)



⑧ 通勤・通学手段

通勤・通学の手段は「自家用車」(76.1%)に回答が集中しており、「電車」(5.6%)、「路線バス」(2.4%)などの公共交通利用者は少数であった。

図表番号 11 通勤・通学手段



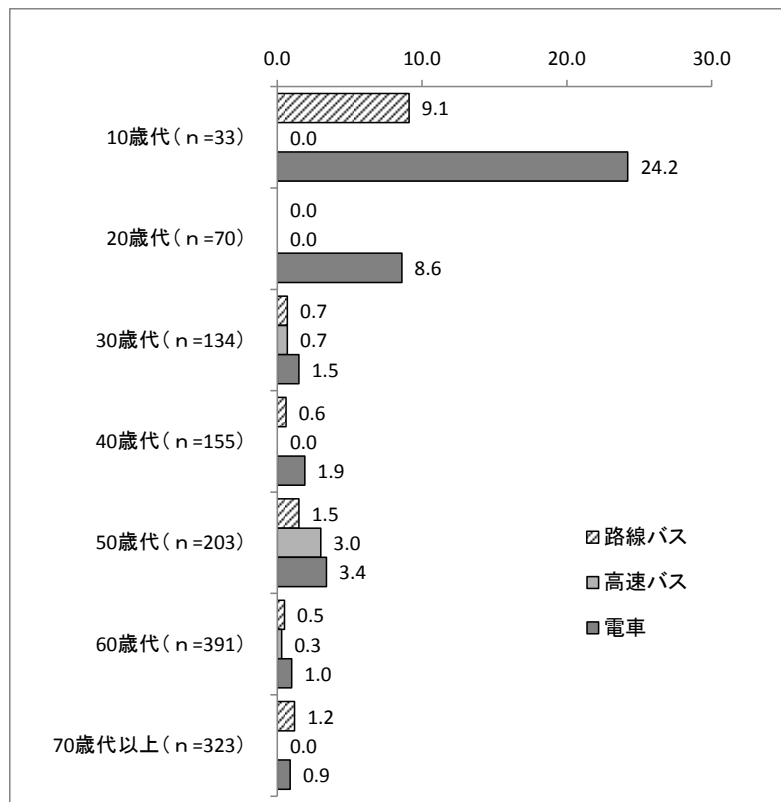
<年代別>

通勤・通学手段のうち、公共交通の利用状況を年代別にみると、10歳代では「電車」は24.2%、「路線バス」は9.1%と、他の年代に比べて利用割合が高い。

また、20歳代では「電車」は8.6%だが、路線バスの利用者はいなかった。

「高速バス」は全体として利用は少ないが、50歳代では3.0%のほか、30歳代、60歳代でわずかにみられるにとどまった。

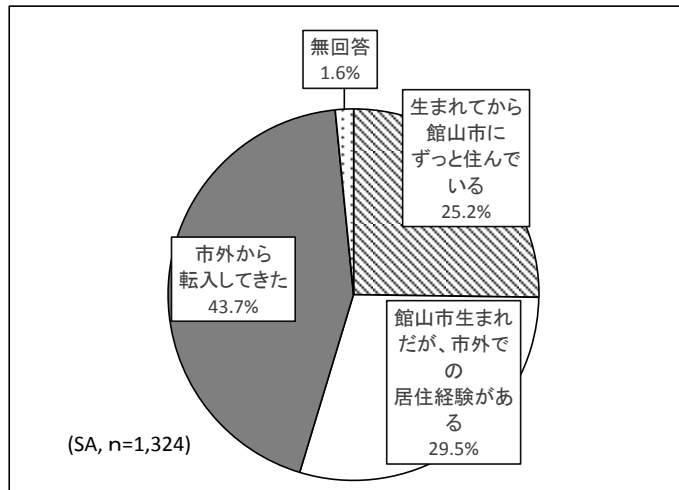
図表番号 12 通勤・通学手段(年代別:公共交通のみ)



⑨ 居住状況

居住状況は、「市外から転入してきた」が最も割合が高く 43.7%と半数近くを占めた。また、「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」と回答した、いわゆるUターンした者の割合は 29.5%となり、「生まれたから館山市にずっと住んでいる」(25.2%)を上回った。

図表番号 13 居住状況

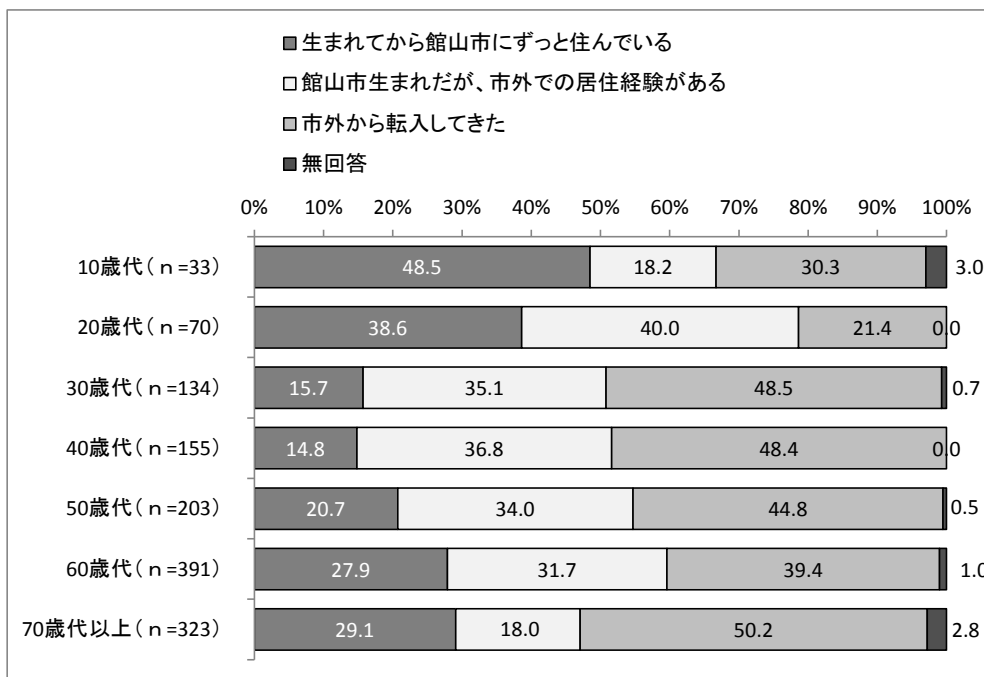


<年代別>

居住状況を年代別にみると、10歳代では「生まれてから館山市にずっと住んでいる」の割合が高いが、20歳代では「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」が最も高く 40.0%となり、30～60歳代では約3分の1を占めている。

「市外から転入してきた」は70歳代以上で最も割合が高く、50.2%と半数を占めた。

図表番号 14 居住状況(年代別)



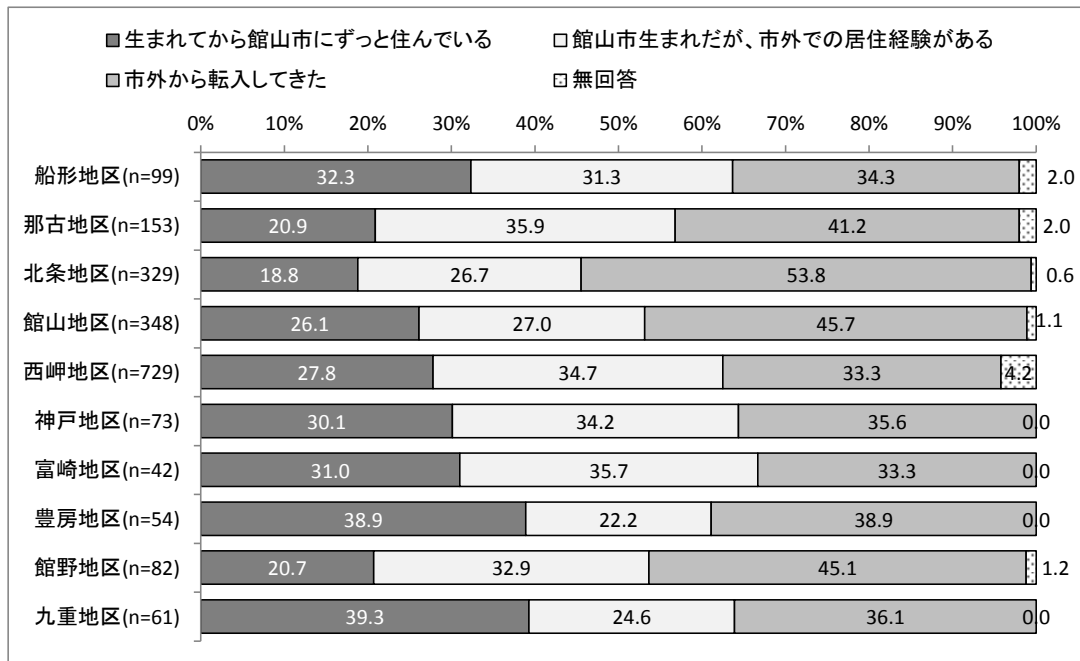
<地区別>

居住状況を地区別にみると、「生まれてから館山市にずっと住んでいる」は、九重地区と豊房地区で割合が高く、約4割を占めた。

「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」は、那古地区や富崎地区で高く、最も割合が低い豊房地区でも22.2%となった。

「市外から転入してきた」は、北条地区で最も割合が高く53.8%、次いで館山地区、館野地区などとなった。

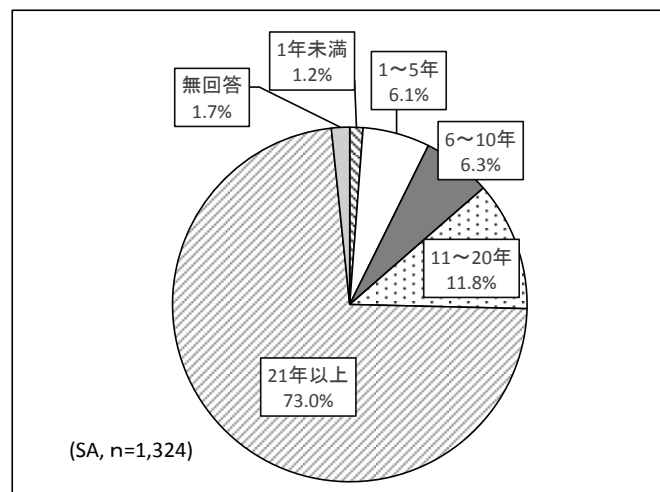
図表番号 15 居住状況(地区別)



⑩ 居住年数

居住年数は「21年以上」が最も割合が高く73.0%となった。

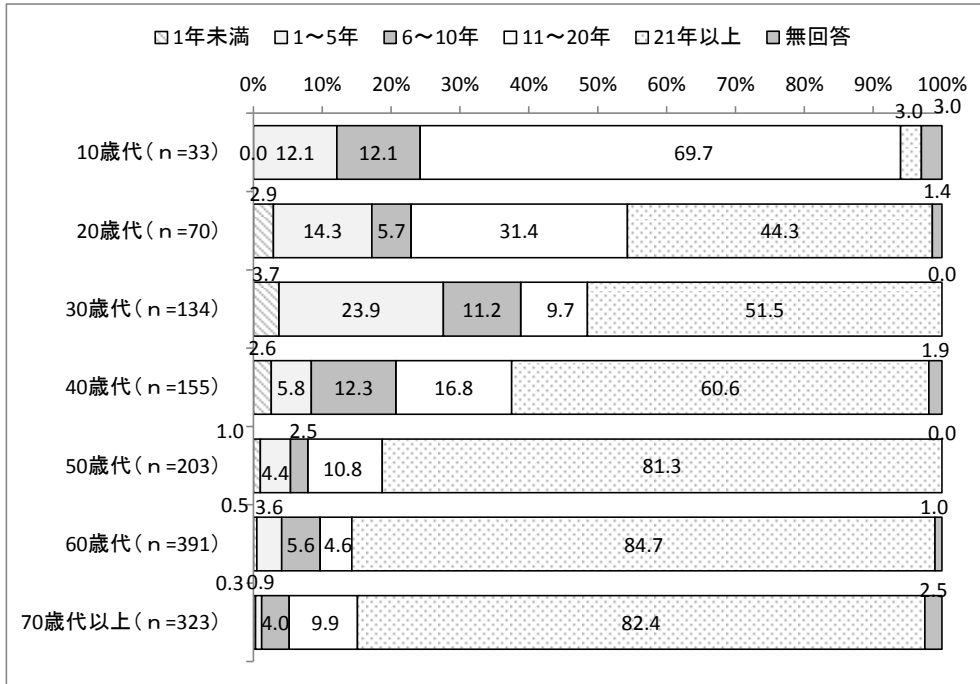
図表番号 16 居住年数



<年代別>

居住年数を年代別にみると、年齢が上がるにつれて居住年数も長くなる傾向にあるが、比較的居住年数の短い「1～5年」は30歳代で最も割合が高く23.9%、「6～10年」は40歳代で最も割合が高く12.3%となった。

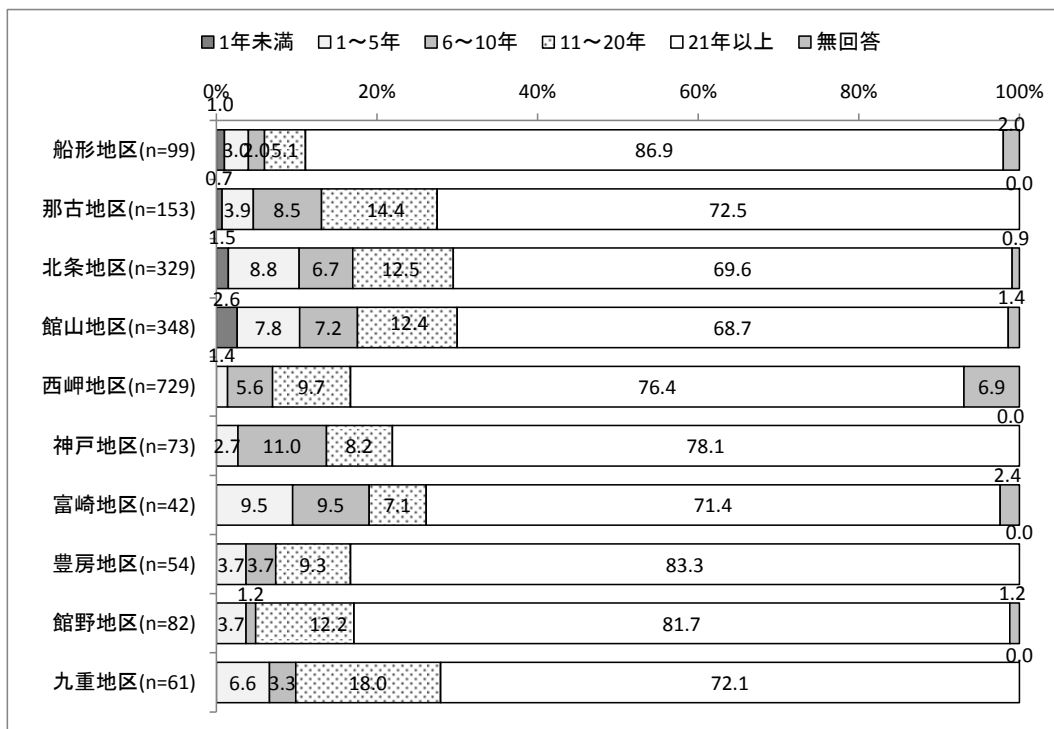
図表番号 17 居住年数(年代別)



<地区別>

居住年数を地区別にみると、「1～5年」は富崎地区や北条地区、館山地区で割合が高く1割程度みられる。また、居住年数が10年以下の割合が高いのは「富崎地区」(19.0%)、館山地区(17.6%)北条地区(17.0%)となった。

図表番号 18 居住年数(地区別)

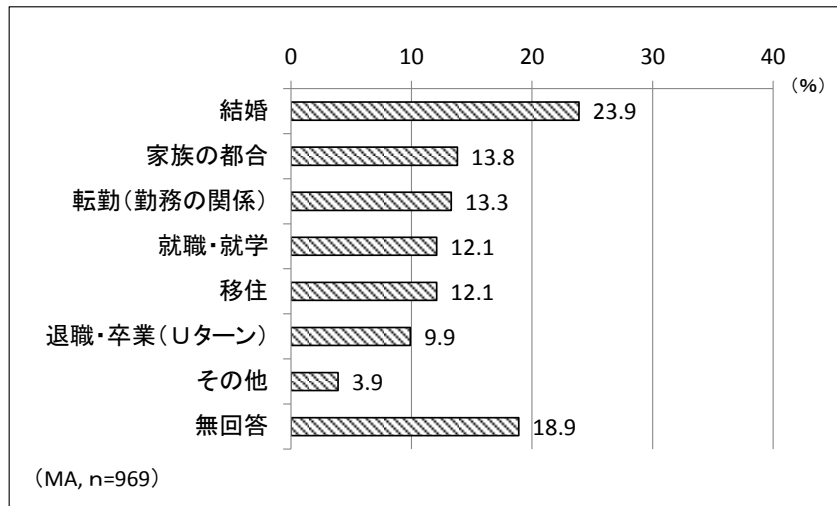


⑪ 転入理由

転入理由は、「結婚」が最も割合が高く 23.9%となったが、他の理由はほぼ同じくらいの割合であり、「移住」も 12.1%となった。

※転入者のみ集計

図表番号 19 転入理由

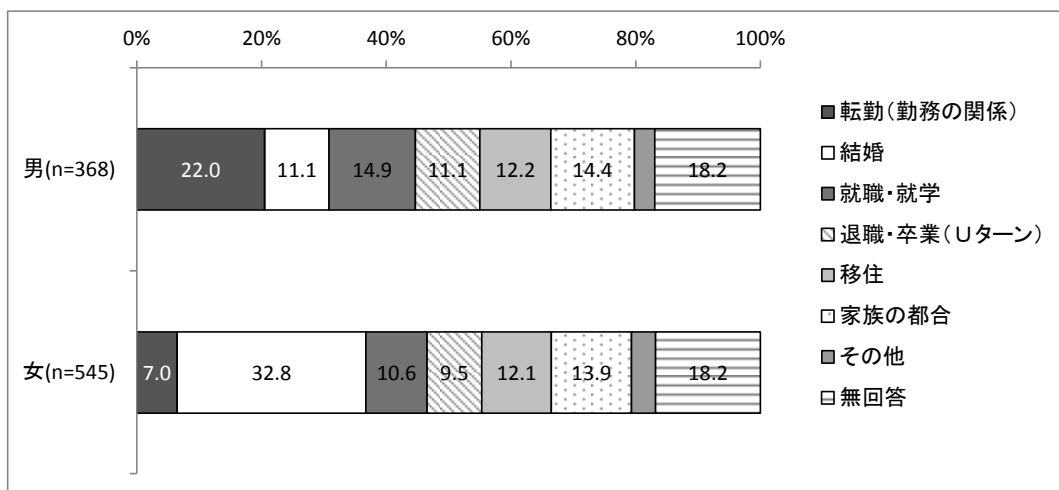


<性別>

転入理由を性別で見ると、男性は「転勤」が最も割合が高く 22.0%、次いで「就職・就学」、「家族の都合」などとなった。

女性では「結婚」が最も割合が高く 32.8%、次いで「家族の都合」、「移住」などとなった。

図表番号 20 転入理由(性別)



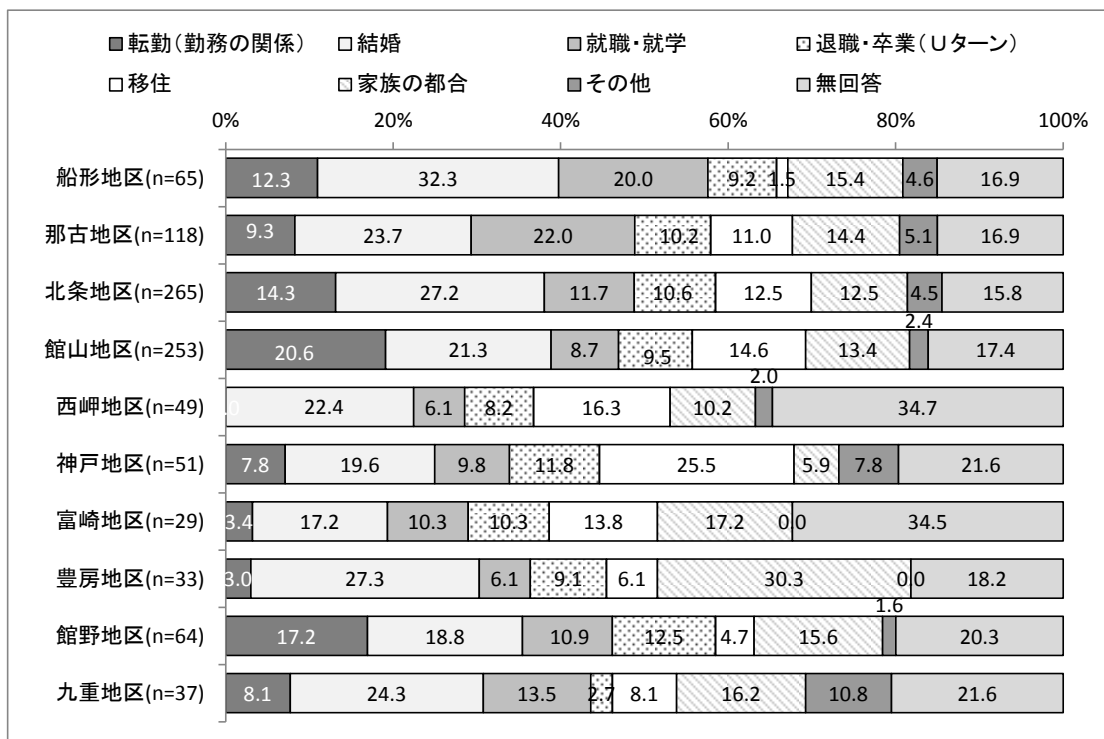
<地区別>

転入理由を地区別でみると、「転勤」は館山地区が最も割合が高く 20.6%、「結婚」は船形地区で最も高く 32.3%、次いで豊房地区、北条地区などとなった。

「移住」は神戸地区で最も高く 25.5%、次いで西岬地区 (16.3%)、館山地区 (14.6%) などとなった。

10 地区のうち「移住」の割合が 1 割を超えているのは、ほかに富崎地区 (13.8%)、北条地区 (12.5%)、那古地区 (11.0%) を加えた 6 地区となった。

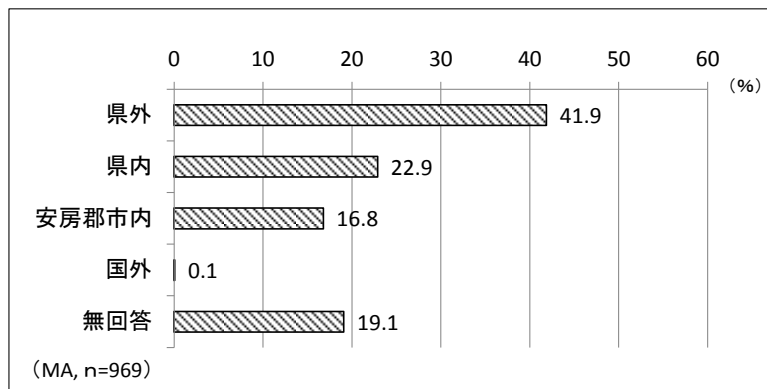
図表番号 21 転入理由(地区別)



⑫ 転入以前の居住地

転入以前の居住地は「県外」が最も割合が高く 41.9%となり、次いで「県内」(22.9%)、「安房郡市内」(16.8%となった。

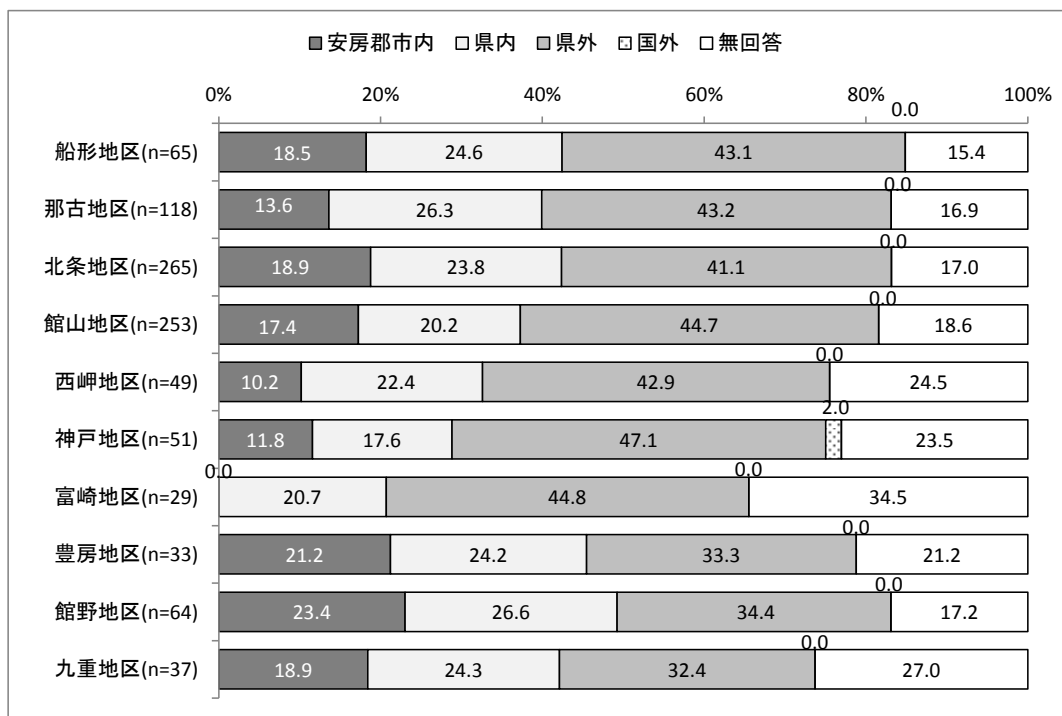
図表番号 22 転入以前の居住地



<地区別>

転入以前の居住地を地区別にみると、「県外」の割合が最も高いのは神戸地区で 47.1%、次いで富崎地区 (44.8%)、館山地区 (44.7%) となった。富崎地区では「安房郡市内」と回答する者はいなかった。

図表番号 23 転入以前の居住地(地区別)



<具体的な地域名>

以前の居住地で最も多い地域は東京都（184件）、次いで南房総市（123件）、神奈川県（86件）、千葉市（58件）などとなった。

安房郡市内では、南房総市が最も多く、鴨川市、鋸南町が続いている。

県内では、千葉市が最も多く、船橋市、市川市、君津市、柏市が続いている。

県外では、東京都が最も多く、神奈川県、埼玉県が続いている。

※回答記入者のみ集計

図表番号 24 以前の居住地(具体的地域名)

<安房郡市内>

以前の居住地	件数	割合(%)
南房総市	123	78.8
鴨川市	16	10.3
鋸南町	9	5.8
館山市	8	5.1
計	156	100.0

<県内>

以前の居住地	件数	割合(%)
千葉市	58	28.2
船橋市	19	9.2
市川市	18	8.7
君津市	14	6.8
柏市	14	6.8
富津市	13	6.3
木更津市	11	5.3
市原市	9	4.4
松戸市	7	3.4
習志野市	6	2.9
佐倉市	4	1.9
流山市	4	1.9
いすみ市	4	1.9
勝浦市	3	1.5
成田市	3	1.5
四街道市	2	1.0
野田市	2	1.0
袖ヶ浦市	2	1.0
旭市	1	0.5
印西市	1	0.5
印旛	1	0.5
浦安市	1	0.5
鎌ヶ谷市	1	0.5
御宿町	1	0.5
富里市	1	0.5
山武市	1	0.5
酒々井町	1	0.5
東金市	1	0.5
白井市	1	0.5
八街市	1	0.5
茂原市	1	0.5
計	206	100.0

<県外>

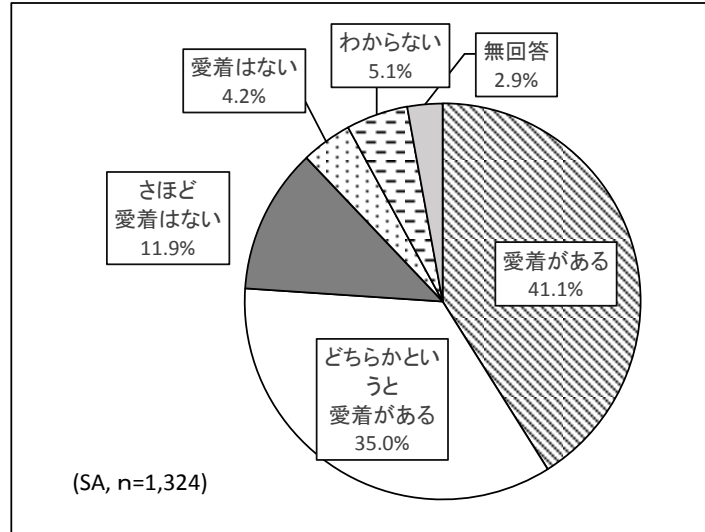
以前の居住地	件数	割合(%)
東京都	184	47.7
神奈川県	86	22.3
埼玉県	36	9.3
広島県	8	2.1
茨城県	6	1.6
京都府	5	1.3
新潟県	5	1.3
大阪府	5	1.3
栃木県	5	1.3
宮城県	4	1.0
山梨県	4	1.0
長崎県	4	1.0
長野県	4	1.0
愛知県	3	0.8
岩手県	3	0.8
鹿児島県	3	0.8
青森県	3	0.8
静岡県	3	0.8
三重県	2	0.5
福岡県	2	0.5
北海道	2	0.5
沖縄県	1	0.3
群馬県	1	0.3
高知県	1	0.3
山口県	1	0.3
秋田県	1	0.3
石川県	1	0.3
徳島県	1	0.3
富山県	1	0.3
兵庫県	1	0.3
計	386	100.0

(2) 館山市のイメージや将来像について

① 館山市への愛着

館山市への愛着では、「愛着がある」(41.1%)、と「どちらかというとな愛着がある」(35.0%)を合わせると、「愛着がある」は7割を超えた。

図表番号 25 館山市への愛着

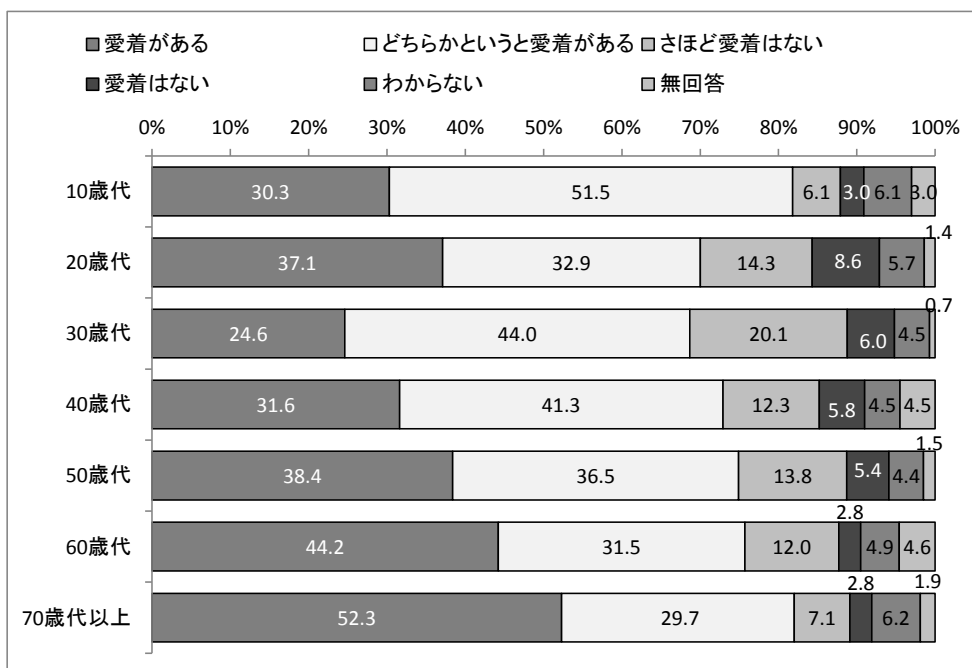


<年代別>

館山市への愛着を年代別にみると、「愛着がある」の割合が最も高いのは70歳以上であり、年代が上がるに従って愛着を持つ割合が高まる傾向にある。

一方、「愛着はない」は20歳代で最も割合が高く8.6%、「さほど愛着はない」は30歳代で最も高く20.1%となり、両者を合わせた「愛着はない」は26.1%となった。

図表番号 26 館山市への愛着(年代別)

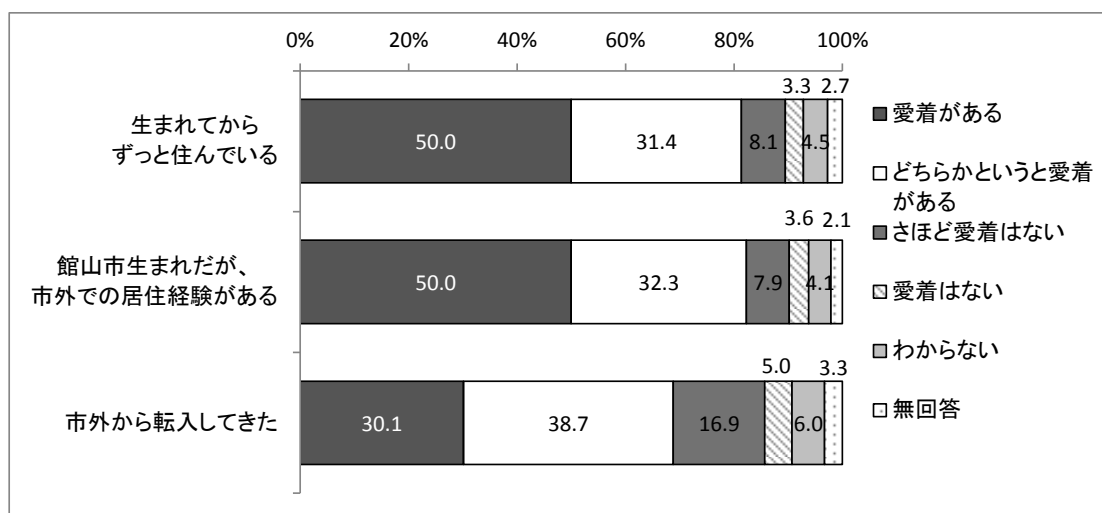


<居住状況別>

館山市の愛着を、居住状況別にみると、「生まれてからずっと館山市に住んでいる」や「館山市生まれだが、市外での居住経験がある」では、半数が「愛着がある」と回答し、「どちらかというとな愛着がある」と合わせると8割を超えており、館山市生まれの市民の愛着度が高いことがわかる。

一方、「市外から転入してきた」では「愛着がある」は3割にとどまり、館山市で生まれた市民に比べて割合が低い。

図表番号 27 館山市への愛着(居住状況別)



(3) 郷土の誇り・宝

① 場所・風景

郷土の誇り・宝として「来訪者に自慢したい場所・風景」を自由記入形式で回答してもらったところ、最も多いのは「海」で200件、次いで「城山(公園、城山からの景色、城山の花など)」が192件となり、この2か所は多くの市民の誇り・宝と認識されている。

また、「夕日(市内各所からの夕日の景色)」(145件)、「富士山(海岸を含めた富士山の景色)」(132件)も多くの市民が支持しており、「海岸」や「鏡ヶ浦」が続いていることから、海や海岸に関連した場所・風景は市民の誇り・宝であるといえる。

図表番号 28 郷土の誇り・宝(場所・風景)

	場所・風景	記入件数
1	海	200
2	城山(公園、城山からの景色、城山の花)	192
3	夕日(市内各所からの夕日の景色)	145
4	富士山(海岸を含めた富士山の景色)	132
5	沖ノ島	68
6	海岸	57
7	鏡ヶ浦	48
8	館山城	39
9	北条海岸	35
10	崖観音	34
11	平砂浦	32
12	風景	30
13	景色	16
14	自然	13
15	花	10
	山	10
17	温暖	9
18	安房神社	8
	フラワーライン	8
20	洲崎灯台	7
	栈橋	7
22	館山湾	6
	海岸通り	6
24	田園	5
25	那古寺	3
	里山	3
	祭	3
	野鳥の森	3
	館山駅西口	3
30	星空	2
	ホタル	2
32	里見城	1
	洲崎神社	1
	寺社仏閣	1
	記入計(延べ件数)	1,139
	未記入	352

② お土産・食べ物

郷土の誇り・宝として「お土産・食べ物」を自由記入形式で回答してもらったところ、最も多いのは「海産物（魚介類・海鮮・海の幸など）」で 172 件、次いで「魚（魚類、魚の呼称など）」が 162 件、「海鮮丼・刺身・寿司」が 133 件などとなった。

上位はいずれも海産物や関連する料理となった。

図表番号 29 郷土の誇り・宝(お土産・食べ物)

	お土産、食べ物	記入件数
1	海産物(魚介類、海鮮、海の幸など)	172
2	魚(魚、魚類、魚の呼称など)	162
3	海鮮丼・刺身・寿司	133
4	びわ	75
5	花菜っ娘	54
6	野菜	53
7	いちご	52
8	館山中村屋	51
9	くじらのタレ	37
10	落花生	36
11	さんが焼き	32
12	なめろう	30
13	ピーナツ	25
14	花(花、花畑など)	20
	干物	20
16	果物(イチジク、マンゴー、メロン、みかん)	17
17	わかめ	14
18	らっきょう	11
	アジ	11
	木村ピーナツ	11
21	牛乳煎餅・鯛せんべい	10
22	あわび	8
	伊勢エビ	8
	房州うちわ	8
25	ピースのチーズサブレ	4
26	はちみつ	3
	館山メンチ	3
28	唐ざん織	2
	天ぷら	2
30	海の家	1
	ところてん	1
	玉子焼き	1
	天草	1
	房洋堂	1
	里見焼	1
	みそ	1
	モカソフト	1
	ラーメン	1
	安房堂お菓子	1
	山本菓子屋	1
	芋花っ子	1
	千両	1
	伊勢屋のだんご	1
	ビーフシチュー	1
	ない	2
	なし	15
	特になし	18
	記入計(延べ件数)	1,079
	未記入計	418

③ イベント・行事

郷土の誇り・宝として「イベント・行事」を自由記入形式で回答してもらったところ、最も多いのは「花火大会」で445件、次いで「やわたんまち」が183件、「城まつり」が165件などとなった。

上位は祭に関連するイベントが多くなっているが、「若潮マラソン」や「トライアスロン」などスポーツに関する記入も複数みられた。

図表番号 30 郷土の宝(イベント・行事)

	イベント・行事	記入件数
1	花火大会	445
2	やわたんまち	183
3	城まつり(南総里見まつり)	165
4	祭り	104
5	若潮マラソン大会	43
6	フラメンコ	18
7	海のレジャー・スポーツ・イベント	14
8	トライアスロン	12
9	館山祭礼	9
10	マラソン大会	8
11	夕日棧橋のイベント	3
	船形ふれあい港祭	3
13	釣り	2
	菜の花マラソン大会	2
	寒中水泳大会	2
	海まちフェスタ	2
	城山公園	2
	青木繁のイベント	2
	いちご狩り	2
20	ウミホテル観察会	1
	フラダンス	1
	あわのネ	1
	ダッペエ	1
	館山観光まつり	1
	田のくろ大学校	1
	沼のサンゴ層	1
	花摘み	1
	民謡大会	1
	武者行列	1
	あわトレイン	1
	鏡ヶ浦駅伝	1
	航空基地祭	1
	赤山地下壕跡	1
	八犬伝	1
	里芋まつり	1
	海上自衛隊のイベント	1
	七夕	1
	花畑	1
	ヘリコプター祭	1
	四万六千日	1
	記入計	1,042
	未記入計	398
	ない、なし 計	28

④ 歴史・文化・芸術

郷土の誇り・宝として「歴史・文化・芸術」を自由記入形式で回答してもらったところ、最も多いのは「里見氏の歴史・南総里見八犬伝」で246件、次いで「祭り」が66件、「館山城・城山公園」が64件、「やわたんまち」が52件などとなった。

「戦争遺跡」や「赤山地下壕」など、近代の歴史に関連する記入もみられた。

図表番号 31 郷土の誇り・宝(歴史・文化・芸術)

歴史・文化・芸術		記入件数	歴史・文化・芸術		記入件数
1	里見氏の歴史・南総里見八犬伝	246	32	安房博物館	1
2	祭り	66		安房節	1
3	館山城・城山公園	64		いちご	1
4	やわたんまち	52		自衛隊	1
5	房州うちわ	41		地震断層	1
6	城まつり(南総里見まつり)	22		鷹の島	1
7	戦争遺跡	17		館山湾	1
8	赤山地下壕	17		伝統行事	1
9	花火大会	11		文化財	1
10	神社	10		稲村城跡	1
11	青木繁「海の幸」	9		海軍	1
12	唐棧織	9		鎌倉文化	1
13	フラメンコ	8		地名にまつわる解釈エピソード	1
14	三義民	6		綴錦織	1
15	那古観音	5		南総文化ホール	1
16	漁業	4		日本最初のパラシュート訓練	1
	寺院	4		布良星	1
20	神余のかっこ舞い	3		保養地としての館山	1
	踊り	3		芸術	1
22	沼サンゴ	2		さおりおり	1
	フラダンス	2		四万六千日	1
	房州弁	2		四面石塔	1
	絵画	2		仏閣	1
	博物館	2		捕鯨	1
	花のまち	2			
	音楽	2			
	X JAPAN	2			
				記入計	637
				未記入計	681
				ない、なし 計	44

⑤ 大切にしたい宝

郷土の誇り・宝として「大切にしたい宝」を自由記入形式で回答してもらったところ、最も多いのは「豊かな自然」で227件、次いで「海」が225件、「沖ノ島」、「人」、「館山城・城山公園」が34件となった。

「子ども」も20件となるなど、人に関する記述も複数みられていることが特徴である。

図表番号 32 郷土の誇り・宝「大切にしたい宝」

	宝物	記入件数
1	豊かな自然	227
2	海	225
3	沖ノ島	34
	人	34
	館山城・城山公園	34
6	祭り	27
7	海岸	25
8	子ども	20
9	風景	18
10	珊瑚	16
11	海ほたる(ウミホタル)	13
12	鏡ヶ浦	11
13	戦争遺跡	9
	農産物・農業	9
15	やわたんまち	8
16	温暖な気候	7
17	海の生物	6
18	砂浜	5
	北条海岸	5
	郷土の歴史の継承	5
21	里見	4
	里山	4
	花火大会	4
	館山湾	4
25	お年寄り	3
	崖観音	3
	家族の絆	3
	寺社	3
	澄んだ空気	3
	館山駅	3
	唐ざん織	3
	那古寺	3
	平砂浦海岸	3
	房州うちわ	3
	35	安房神社
川		2
観光		2
神社		2
花		2
富士山		2
仏閣		2
夕日		2
災害が少ない		2
市の文化財		2
商店		2
房州弁		2

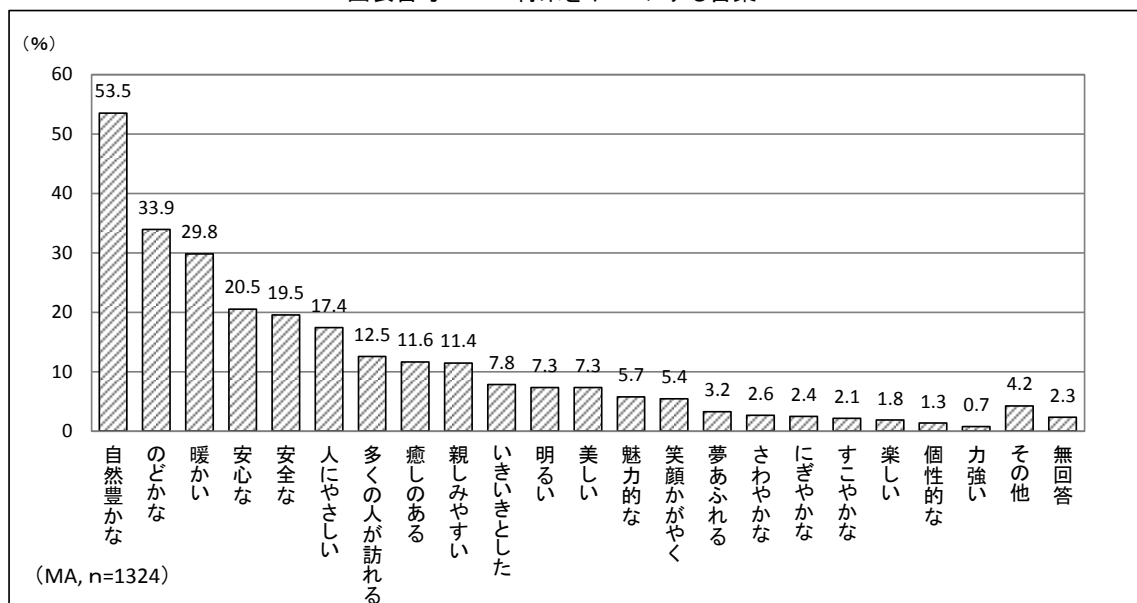
	宝物	記入件数
47	(夕方)5時のチャイム	1
	海の生き物の化石	1
	教育	1
	ゴルフ場	1
	植物	1
	田畑	1
	涅槃仏	1
	フラメンコ	1
	街並み	1
	昔ながらの生活	1
	野鳥の森	1
	安全な町	1
	ふるさと大使(さかなクン)	1
	郷土の誇り	1
	郷土芸能	1
	三義民	1
	住みやすさ	1
	鷹の島	1
	天気予報で館山が出てくること	1
	都会でも田舎でもない中くらいの良さ	1
	白砂青松	1
	平砂浦フラワーライン	1
	民家	1
	記入計	831
	未記入計	588
	ない、なし 計	34

⑥ 館山市の将来をイメージする言葉

館山市の将来をイメージする言葉では、「自然豊かな」が最も割合が高く 53.5%、次いで「のどかな」が 33.9%、「暖かい」が 29.8%などとなった。

半数を超えたのは「自然豊かな」のみだった。

図表番号 33 将来をイメージする言葉



<年代別>

将来をイメージする言葉を年代別にみると、10～50歳代では上位3項目に回答が集中するのに対して、60歳代や70歳代以上では「安心な」や「安全な」、「人にやさしい」などにも回答が分散している。

図表番号 34 将来をイメージする言葉(年代別)

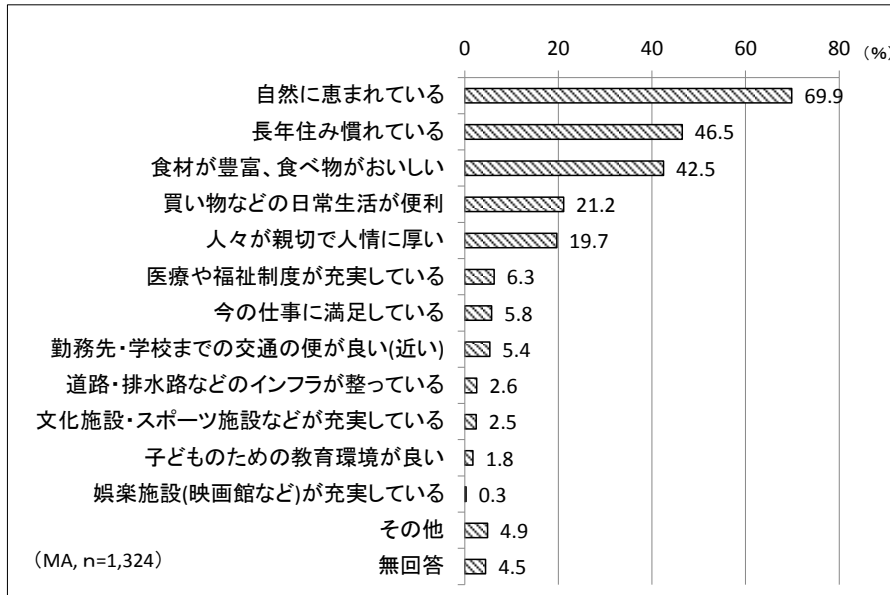
	50%以上	40%台	30%台	20%台		
全体 (n=1324)	自然豊かな 53.5		のどかな 33.9	暖かい 29.8	安心な 20.5	
10歳代	自然豊かな 45.5		のどかな 36.4	暖かい 33.3		
20歳代	自然豊かな 50.0	のどかな 41.4		暖かい 28.6		
30歳代	自然豊かな 56.7	のどかな 44.0	暖かい 32.1			
40歳代	自然豊かな 54.2	のどかな 40.0		暖かい 25.8		
50歳代	自然豊かな 50.2	のどかな 41.9		暖かい 28.1		
60歳代	自然豊かな 53.5		暖かい 30.2	のどかな 29.9	安心な 24.3	人にやさしい 21.5
70歳代以上	自然豊かな 55.7		暖かい 31.6	のどかな 25.4	安心な 24.5	安全な 23.5

(4) 館山市全体について

① 住みやすい点

館山市の住みやすい点では、「自然に恵まれている」が最も割合が高く 69.9%、次いで「長年住み慣れている」が 46.5%、「食材が豊富、食べ物がおいしい」が 42.5%などとなった。

図表番号 35 住みやすい点



<年代別>

住みやすい点を年代別にみると、上位 3 項目は年代によって大きな違いはみられないが、「人々が親切で人情に厚い」は 20～40 歳代で 2 割を超え、他の世代より割合が高い。

図表番号 36 住みやすい点(年代別:上位)

	50%台以上		40%台		30%台	20%台
	自然に恵まれている		長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい		買い物などの日常生活が便利
全体 (n=1324)	69.7		46.5	42.5		21.3
10歳代 (n=33)	60.6		48.5		39.4	24.2
20歳代 (n=70)	80.0		47.1		35.7	21.4
30歳代 (n=134)	70.9		36.6		36.6	20.1
40歳代 (n=155)	73.5		43.2		34.8	29.0
50歳代 (n=203)	69.0		47.3	42.9		20.7
60歳代 (n=391)	67.0	50.4	46.3			21.5
70歳代以上 (n=323)	69.7		47.1	46.7		24.8

<地区別>

住みやすい点を地区別にみると、富崎地区では「食材が豊富、食べ物がおいしい」は2番目に高く57.1%と半数を超えている。

また、「人々が親切で人情に厚い」は、神戸地区や富崎地区で高く、3割を超えている。

「買い物などの日常生活が便利」は、北条地区で高く3割を超えている。

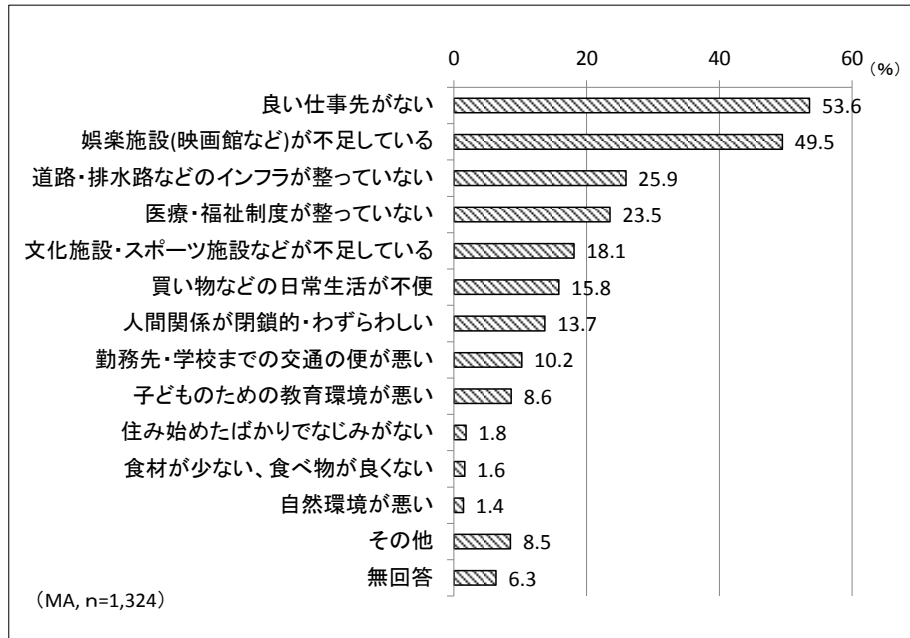
図表番号 37 住みやすい点(地区別)

	50%台以上		40%台		30%台	20%台
	自然に恵まれている	長年住み慣れている	長年住み慣れている	食材が豊富、食べ物がおいしい		買い物などの日常生活が便利
全体 (n=1324)	69.7		46.5	42.5		21.3
船形地区 (n=99)	62.6	62.6	40.4			22.2
那古地区 (n=153)	71.2		43.1	41.2		
北条地区 (n=329)	64.1		42.6	41.3	31.9	
館山地区 (n=348)	71.8		44.3	42.0		20.7
西岬地区 (n=729)	72.2	56.9	40.3			29.2
神戸地区 (n=73)	68.5	50.7	47.9		31.5	
富崎地区 (n=42)	88.1	57.1	47.6		35.7	
豊房地区 (n=54)	83.3		46.3	44.4		
館野地区 (n=82)	67.1		47.6	43.9		22.0
九重地区 (n=61)	75.4		44.3	41.0		21.3

② 住みにくい点

館山市の住みにくい点では、「良い仕事先がない」が最も割合が高く 53.6%、次いで「娯楽施設（映画館など）が不足している」が 49.5%となり、この2つに回答が集中した。

図表番号 38 住みにくい点



<年代別>

住みにくい点を年代別にみると、最も割合が高い項目は、10～30歳代では「娯楽施設が不足している」となり、10歳代では8割以上、20歳代では約7割と高い割合を示した。

一方、40歳代以上では「良い仕事先がない」が最も高く半数を超えているが、10歳代や30歳代では半数に満たないなど、違いがみられる。

また、10歳代では「文化施設・スポーツ施設などが不足している」が、他の年代と比較して割合が高く、約4割に達している。

「買い物などの日常生活が不便」は20歳代と70歳代以上で高くなっている。

図表番号 39 住みにくい点(年代別:上位)

	50%台以上		40%台	30%台		20%台		
	良い仕事先がない		娯楽施設(映画館など)が不足している			道路・排水路などのインフラが整っていない	医療・福祉制度が整っていない	
全体 (n=1324)	53.6		49.5			25.9	23.5	
10歳代 (n=33)	娯楽施設(映画館など)が不足している 81.8			良い仕事先がない 39.4	文化施設(博物館など)・スポーツ施設などが不足している 39.4	勤務先・学校までの交通の便が悪い 27.3		
20歳代 (n=70)	娯楽施設(映画館など)が不足している 68.6	良い仕事先がない 52.9				勤務先・学校までの交通の便が悪い 25.7	買い物などの日常生活が不便 21.4	道路・排水路などのインフラが整っていない 20.0
30歳代 (n=134)	娯楽施設(映画館など)が不足している 58.2		良い仕事先がない 45.5	医療・福祉制度が整っていない 30.6		道路・排水路などのインフラが整っていない 22.4		
40歳代 (n=155)	良い仕事先がない 61.9	娯楽施設(映画館など)が不足している 56.8				医療・福祉制度が整っていない 27.7	道路・排水路などのインフラが整っていない 20.6	
50歳代 (n=203)	良い仕事先がない 55.2	娯楽施設(映画館など)が不足している 52.7				医療・福祉制度が整っていない 28.1	道路・排水路などのインフラが整っていない 25.1	文化施設(博物館など)・スポーツ施設などが不足している 20.7
60歳代 (n=391)	良い仕事先がない 56.5		娯楽施設(映画館など)が不足している 48.3	道路・排水路などのインフラが整っていない 30.9		医療・福祉制度が整っていない 23.3		
70歳代以上 (n=323)			良い仕事先がない 49.8	娯楽施設(映画館など)が不足している 35.0		道路・排水路などのインフラが整っていない 26.3	買い物などの日常生活が不便 24.8	医療・福祉制度が整っていない 20.1

<地区別>

住みにくい点を地区別でみると、館野地区と九重地区では「娯楽施設が不足している」が最も割合が高く、西岬地区では「買い物などの日常生活が不便」が最も高いなど、地域によって違いがみられる。

西岬地区や九重地区では「道路・排水路などのインフラが整っていない」も3割を超えており、他の地域より高い割合を示している。

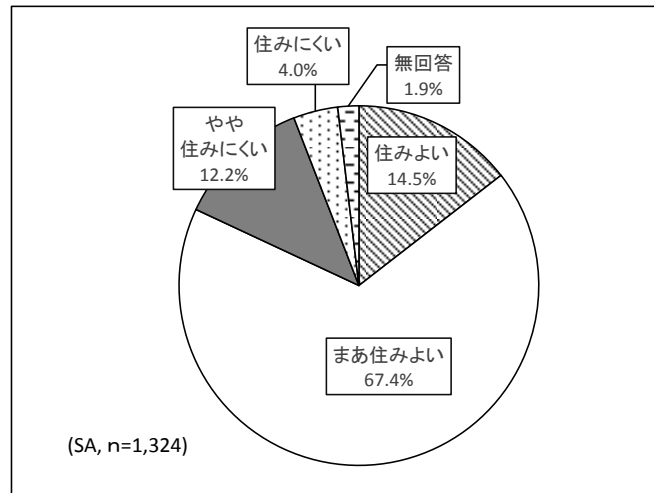
図表番号 40 住みにくい点(地区別:上位)

	50%台以上		40%台		30%台		
	良い仕事先がない	娯楽施設(映画館など)が不足している	良い仕事先がない	娯楽施設(映画館など)が不足している	良い仕事先がない	娯楽施設(映画館など)が不足している	道路・排水路などのインフラが整っていない
全体 (n=1324)	53.6	49.5					
船形地区 (n=99)	52.5	52.5					
那古地区 (n=153)	53.6	52.9					
北条地区 (n=329)	52.6	52.6					
館山地区 (n=348)	57.2	48.9					
西岬地区 (n=72)			47.2	45.8	38.9		34.7
神戸地区 (n=73)			45.2		37.0		
富崎地区 (n=42)	66.7	42.9			31.0	31.0	31.0
豊房地区 (n=54)	63.0	46.3					
館野地区 (n=82)	52.4	50.0					
九重地区 (n=61)	55.7	50.8			31.1		

③ 住みごち

館山市の住みごちでは、「住みよい」は 14.5%、「まあ住みよい」は 67.4%となり、両者を合わせた“住みよい”は 8 割を超えた。

図表番号 41 住みごち

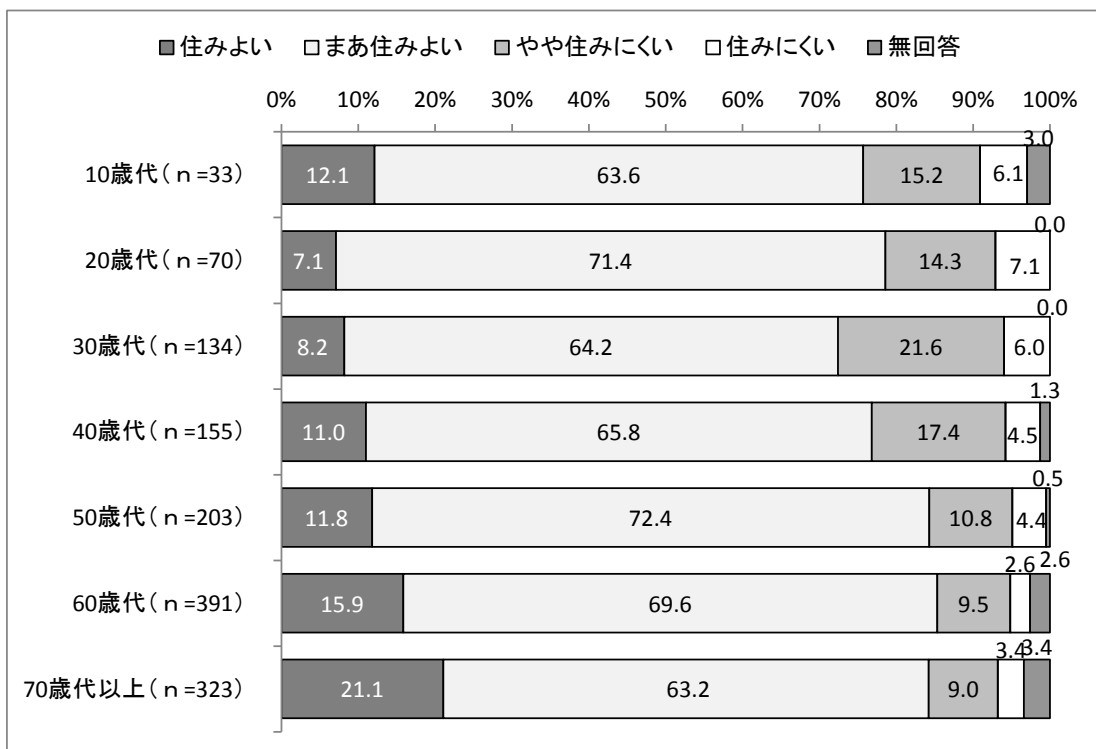


<年代別>

住み心地を年代別にみると、「住みよい」が最も高いのは 70 歳代以上で、若い世代になるほどその割合は減少するが、10 歳代では 12.1%と 3 番目に高い割合となっている。

「やや住みにくい」は 30 歳代で最も高く 21.6%、「住みにくい」は 20 歳代で最も高く 7.1%となった。

図表番号 42 住みごち(年代別)

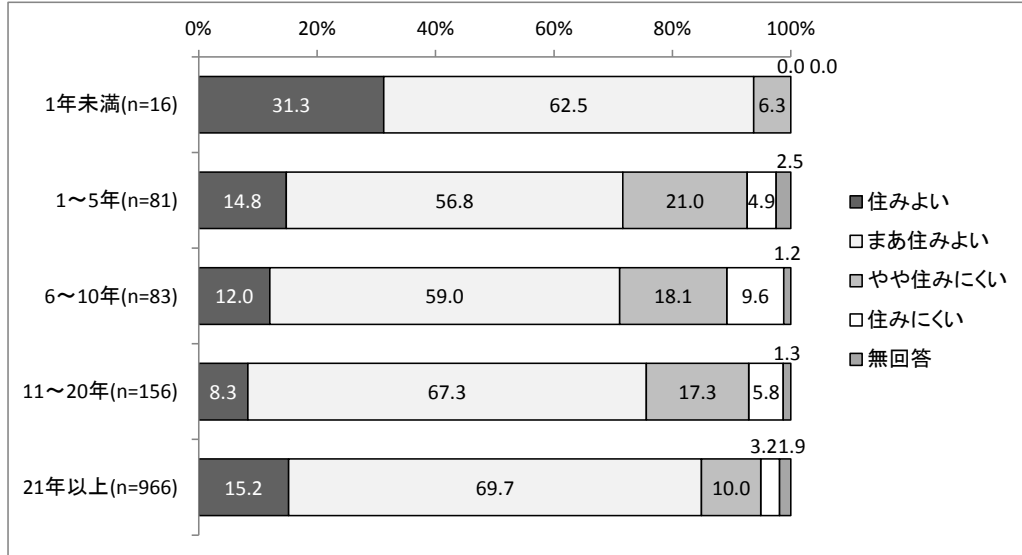


<居住年数別>

住みごちを居住年数別にみると、「住みよい」が最も高いのは「1年未満」で31.3%となり、「まあ住みよい」を合わせた”住みよい”も「1年未満」で最も高くなった。

しかし、「住みよい」は居住年数が長くなるに従って減少する傾向にあり、「21年以上」で増加するものの、「1年未満」より割合は少ない。

図表番号 43 住みごち(居住年数別)

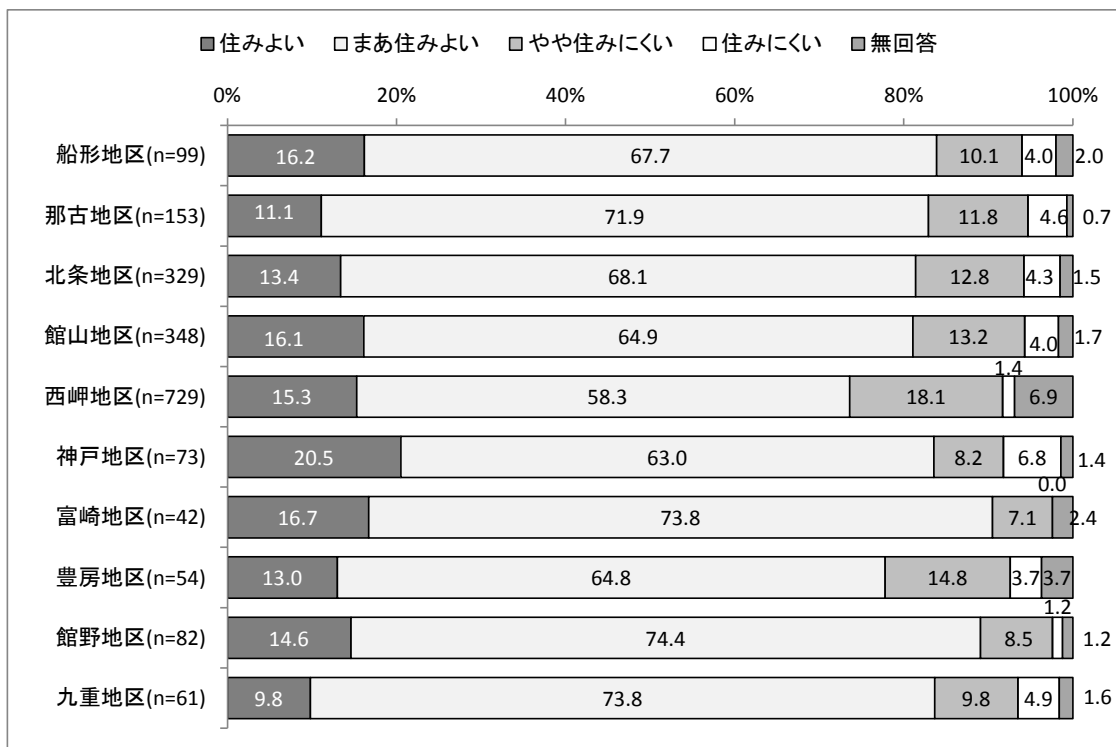


<地区別>

住みごちを地区別にみると、「住みよい」が最も高いのは神戸地区(20.5%)、次いで富崎地区(16.7%)、船形地区(16.2%)などとなった。

「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた“住みにくい”は西岬地区(19.5%)、豊房地区(18.5%)で高かった。

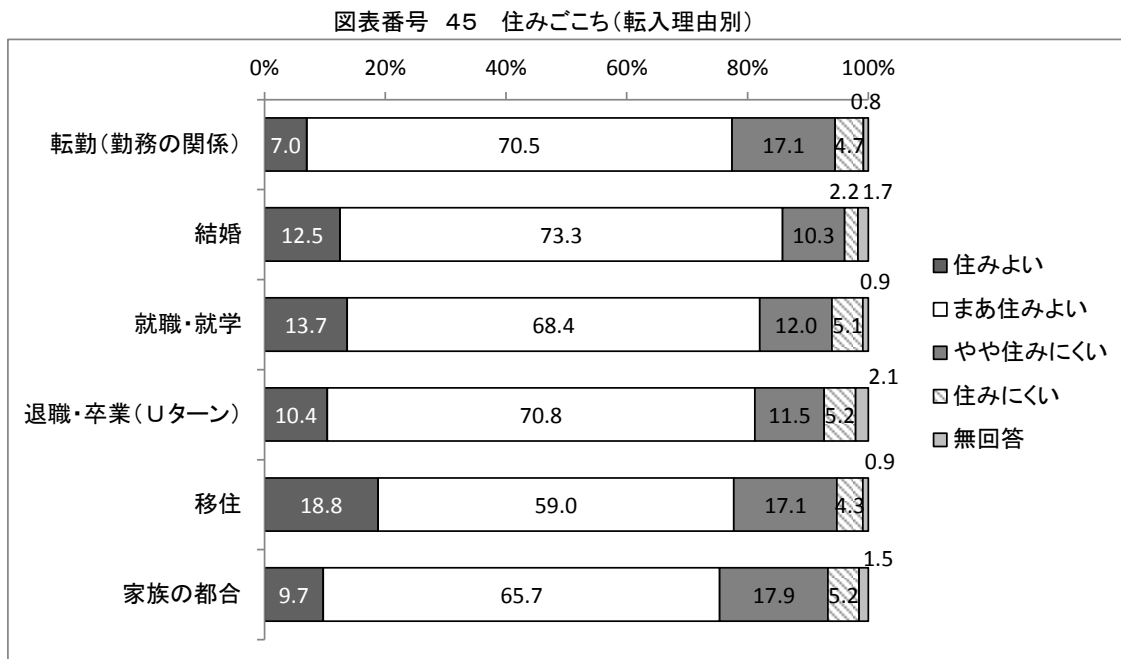
図表番号 44 住みごち(地区別)



<転入理由別>

住みごちを転入理由別にみると、「住みよい」の割合が最も高いのは「移住」で18.8%と他に比べて高い割合となったが、“住みよい”は「結婚」が最も割合が高くなった。

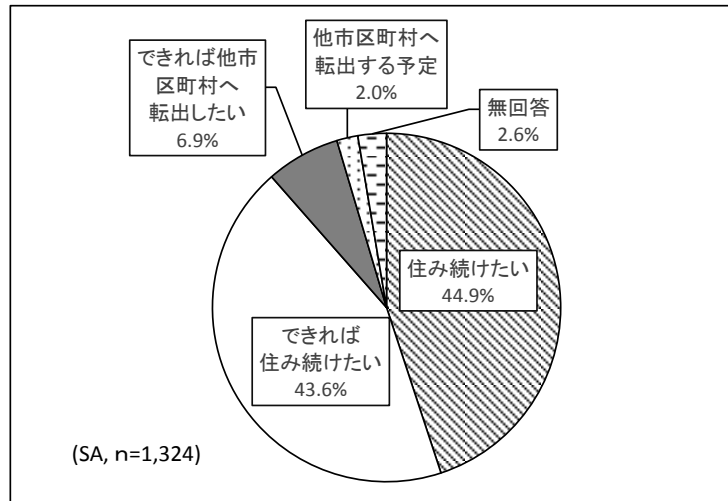
一方、“住みにくい”は「家族の都合」が最も割合が高く23.1%、次いで「転勤」が12.8%、「移住」が21.4%となり、「移住」では住みごちの評価は分かれている。



④ 居住意向

居住意向では、「住み続けたい」(44.9%)と「できれば住み続けたい」(43.6%)を合わせると、「住み続けたい」は約9割となった。

図表番号 46 居住意向



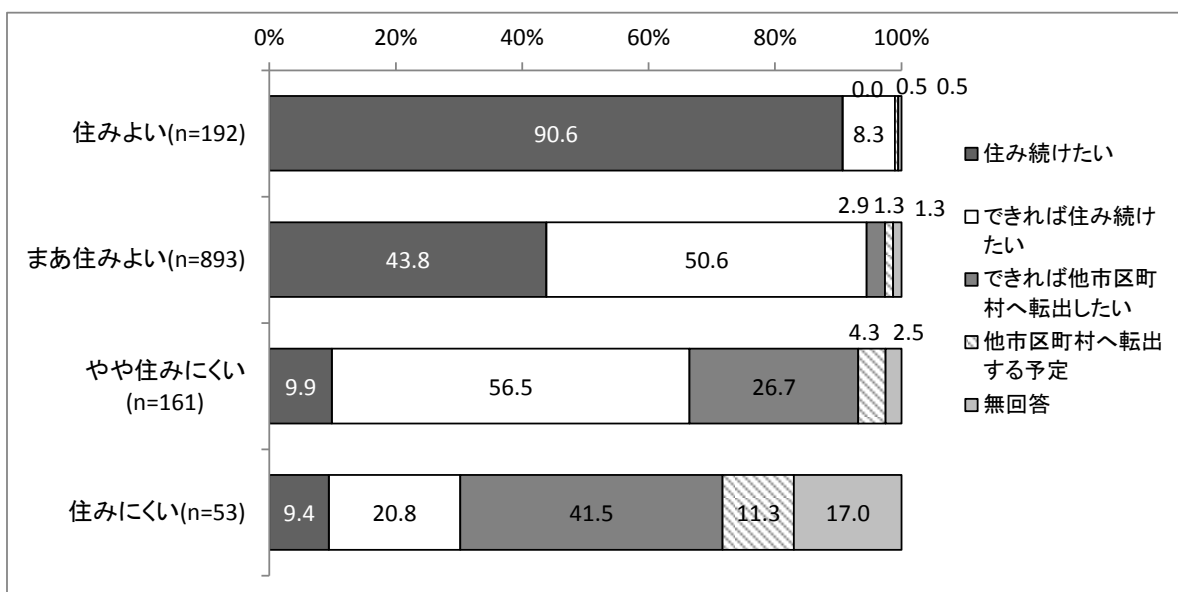
<住みごころ別>

居住意向を住みごころ別にみると、「住みよい」では9割以上が「住み続けたい」と回答しているが、「まあ住みよい」では「できれば住み続けたい」が半数を占める。

「やや住みにくい」では、「住み続けたい」が9.9%まで減少するものの、「できれば住み続けたい」は半数以上を占めている。

「住みにくい」では、「できれば他市区町村へ転出したい」が4割を超える。

図表番号 47 居住意向(住みごころ別)



⑤ 転出希望地域

「できれば他市区町村へ転出したい」、「他市区町村へ転出する予定」と回答した者の転出希望地域は、「特になし・未定」が17件と最も多く、次いで東京都が11件、神奈川県が9件、南房総市が6件、木更津市が7件などとなった。

※回答記入者のみ集計

図表番号 48 転出希望地域

転出希望先	件数	割合(%)
特になし・未定	17	19.1
東京都	11	12.4
神奈川県	9	10.1
南房総市	8	9.0
木更津市	7	7.9
県外	6	6.7
鴨川市	3	3.4
県内	2	2.2
千葉市	2	2.2
船橋市	2	2.2
都内	2	2.2
愛知県	1	1.1
宮城県	1	1.1
長崎県	1	1.1
埼玉県	1	1.1
山口県	1	1.1
山梨県	1	1.1
長野県	1	1.1
奈良県	1	1.1
青森県	1	1.1
都会	1	1.1
都市部	1	1.1
東京方面	1	1.1
関東圏内	1	1.1
千葉	1	1.1
故郷	1	1.1
館山市内	1	1.1
君津郡市	1	1.1
海岸より遠いところ	1	1.1
税金の安い市町村へ	1	1.1
仕事次第	1	1.1
	89	100.0

(5) 4 2の施策に対する評価

① 満足度

4 2の施策の満足度を指数化して比較すると、最も満足度の高い施策は「高速道路や高速バス網の整備」で、「消防体制の充実」、「検診や予防等の保健活動の充実」、「救急救命体制の充実」、「市からの情報提供」が続いている。

一方、満足度の最も低い施策は「雇用の創出」で、「商業の振興」、「工業の振興」、「農林業の振興」、「鉄道や生活バス路線の維持」が続いている。

満足度の高い施策は、安全・安心に関連する施策が多い。

また、満足度の低い施策は産業に関連する施策が多くみられる。

※指数化：満足＝2点、やや満足＝1点、やや不満＝－1点、不満＝－2点とし、回答者数で除して指数化

図表番号 49 満足度

順位	施策名	満足度(指数)
1	高速道路や高速バス網の整備	0.62
2	消防体制の充実	0.40
3	検診や予防等の保健活動の充実	0.28
4	救急救命体制の充実	0.27
5	市からの情報提供	0.14
6	防災対策	0.09
7	地域(コミュニティ)活動の支援	0.08
8	治安や防犯対策	0.07
9	生涯学習や体験活動の推進	0.04
10	文化・芸能の継承と振興	0.04
11	交通安全対策	0.03
12	ごみやし尿の収集の改善	0.02
13	緑地の保全や緑化の推進	0.01
14	海岸(ビーチ)の保全・利用	0.01
15	幼稚園、小・中・高校の教育環境	0.00
16	リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.02
17	図書館・公民館・博物館等の整備	-0.05
18	街並みの美しさや景観の形成	-0.05
19	消費者問題への対応	-0.07
20	館山市のPRの強化	-0.10
21	多様な情報発信手段の利活用	-0.10
22	スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.10
23	館山港・館山湾の利活用	-0.13
24	観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.13
25	医療の充実	-0.14
26	障がい者の福祉施策	-0.14
27	子育て支援施策	-0.16
28	高齢者の福祉施策	-0.17
29	海上交通の開設など多様な交通	-0.17
30	太陽光発電等エネルギー対策	-0.18
31	市民と行政の協働の推進	-0.20
32	市民の声の市政への反映	-0.24
33	行財政改革	-0.29
34	河川や海域等の浄化	-0.29
35	水産・水産加工業の振興	-0.34
36	通勤や通学、通院等の交通環境	-0.36
37	周辺の道路や排水路等の整備	-0.37
38	農林業の振興	-0.45
39	鉄道や生活バス路線の維持	-0.60
40	工業の振興	-0.66
41	商業の振興	-0.66
42	雇用の創出	-0.96

<前回調査との比較>

42の施策の満足度を、前回調査（平成21年度実施）と比較すると、2施策を除くすべての項目において指数は上がった。

また、指数がマイナスからプラスになった施策も9施策みられる。

図表番号 50 満足度(前回調査との比較)

	施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
1	高速道路や高速バス網の整備	0.43	0.62	0.19
2	海上交通の開設など多様な交通	-0.35	-0.17	0.18
3	鉄道や生活バス路線の維持	-0.48	-0.60	▲ 0.12
4	周辺の道路や排水路等の整備	-0.45	-0.37	0.07
5	通勤や通学、通院等の交通環境	-0.37	-0.36	0.01
6	館山市のPRの強化	-0.16	-0.10	0.06
7	多様な情報発信手段の利活用	-0.24	-0.10	0.14
8	海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.22	0.01	0.22
9	館山港・館山湾の利活用	-0.32	-0.13	0.19
10	街並みの美しさや景観の形成	-0.25	-0.05	0.21
11	観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.43	-0.13	0.30
12	商業の振興	-0.81	-0.66	0.15
13	工業の振興	-0.88	-0.66	0.23
14	農林業の振興	-0.61	-0.45	0.16
15	水産・水産加工業の振興	-0.52	-0.34	0.18
16	雇用の創出	-1.19	-0.96	0.23
17	緑地の保全や緑化の推進	-0.16	0.01	0.17
18	河川や海域等の浄化	-0.42	-0.29	0.13
19	リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.21	-0.02	0.19
20	ごみやし尿の収集の改善	0.12	0.02	▲ 0.10
21	太陽光発電等エネルギー対策	-0.35	-0.18	0.17
22	幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.02	0.00	0.02
23	スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.13	-0.10	0.03
24	生涯学習や体験活動の推進	-0.04	0.04	0.08
25	図書館・公民館・博物館等の整備	-0.08	-0.05	0.03
26	文化・芸能の継承と振興	-0.06	0.04	0.10
27	医療の充実	-0.41	-0.14	0.27
28	検診や予防等の保健活動の充実	0.03	0.28	0.25
29	高齢者の福祉施策	-0.32	-0.17	0.15
30	子育て支援施策	-0.21	-0.16	0.06
31	障がい者の福祉施策	-0.26	-0.14	0.12
32	地域(コミュニティ)活動の支援	-0.13	0.08	0.21
33	消防体制の充実	0.18	0.40	0.22
34	救急救命体制の充実	-0.03	0.27	0.30
35	防災対策	-0.27	0.09	0.36
36	交通安全対策	-0.50	0.03	0.53
37	治安や防犯対策	-0.19	0.07	0.26
38	消費者問題への対応	-0.22	-0.07	0.15
39	市からの情報提供	-0.06	0.14	0.21
40	市民の声の市政への反映	-0.36	-0.24	0.13
41	行財政改革	-0.38	-0.29	0.09
42	市民と行政の協働の推進	-0.32	-0.20	0.12

② 重要度

42の施策の重要度を指数化して比較すると、最も重要度の高い施策は「医療の充実」で、「雇用の創出」、「救急救命体制の充実」、「防災対策」、「高速道路や高速バス網の整備」が続いている。

一方、重要度の最も低い施策は「海上交通の開設など多様な交通」で、「生涯学習や体験活動の推進」、「地域（コミュニティ）活動の支援」、「文化・芸能の継承と振興」、「スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興」が続いている。

重要度の高い施策は、安全・安心に関連する施策が多い。

また、重要度の低い施策は、文化やレクリエーション、地域活動に関連する施策が多くみられる。

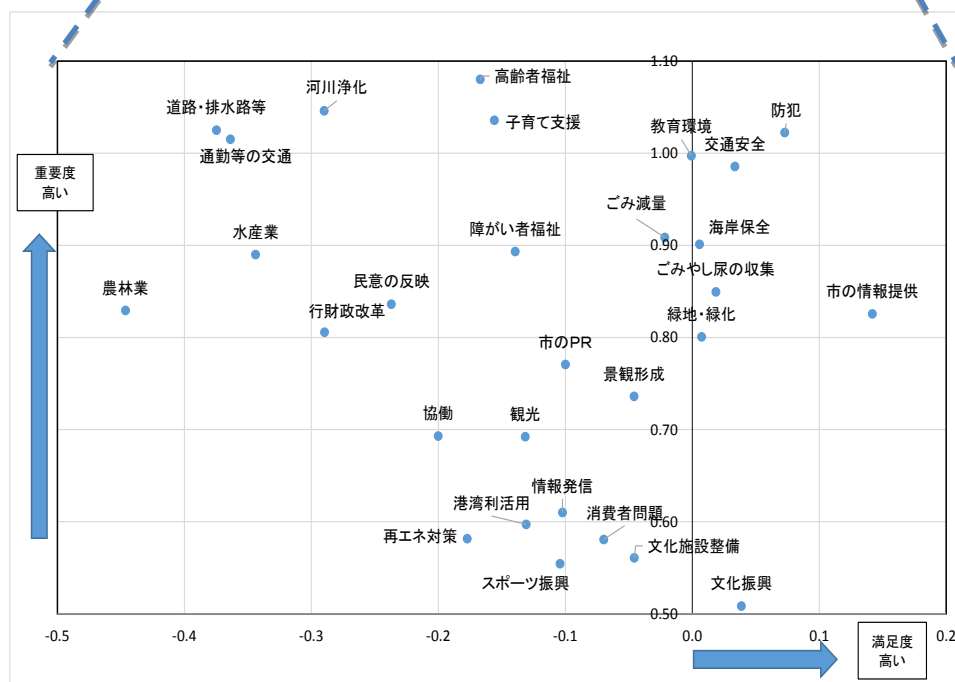
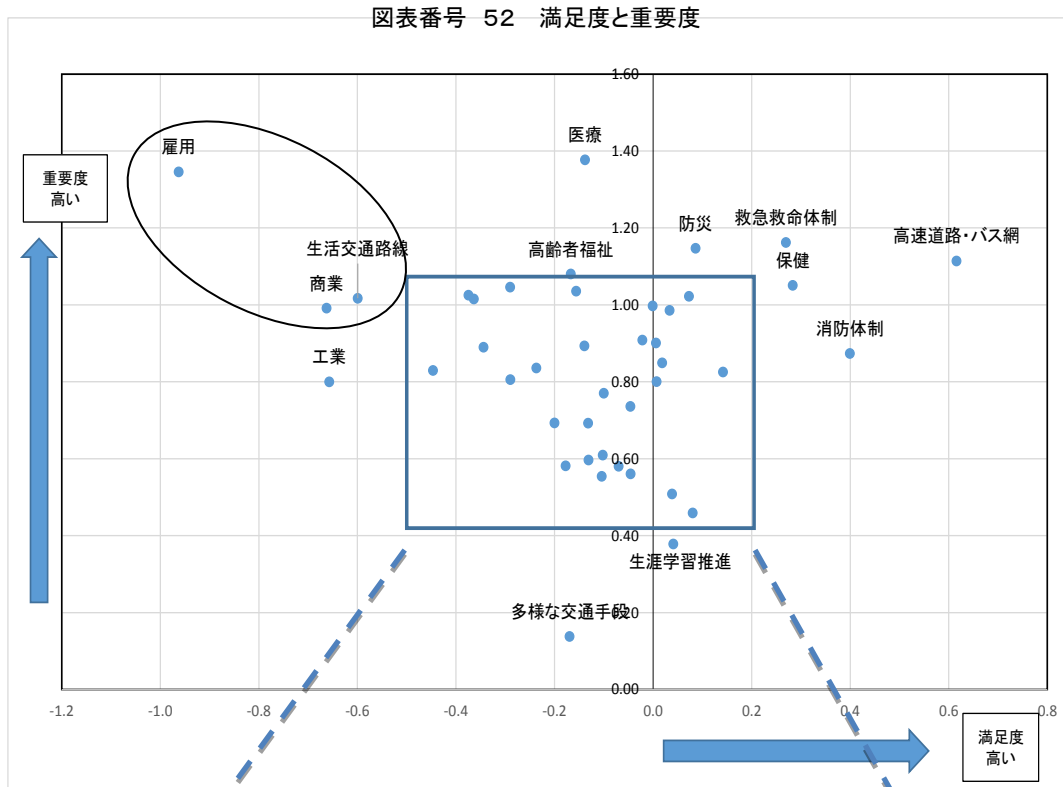
図表番号 51 重要度

順位	施策名	重要度
1	医療の充実	1.38
2	雇用の創出	1.35
3	救急救命体制の充実	1.16
4	防災対策	1.15
5	高速道路や高速バス網の整備	1.11
6	高齢者の福祉施策	1.08
7	検診や予防等の保健活動の充実	1.05
8	河川や海域等の浄化	1.05
9	子育て支援施策	1.04
10	周辺の道路や排水路等の整備	1.03
11	治安や防犯対策	1.02
12	鉄道や生活バス路線の維持	1.02
13	通勤や通学、通院等の交通環境	1.02
14	幼稚園、小・中・高校の教育環境	1.00
15	商業の振興	0.99
16	交通安全対策	0.99
17	リサイクル推進等、ごみの減量化	0.91
18	海岸（ビーチ）の保全・利用	0.90
19	障がい者の福祉施策	0.89
20	水産・水産加工業の振興	0.89
21	消防体制の充実	0.87
22	ごみやし尿の収集の改善	0.85
23	市民の声の市政への反映	0.84
24	農林業の振興	0.83
25	市からの情報提供	0.83
26	行財政改革	0.81
27	緑地の保全や緑化の推進	0.80
28	工業の振興	0.80
29	館山市のPRの強化	0.77
30	街並みの美しさや景観の形成	0.74
31	市民と行政の協働の推進	0.69
32	観光の振興（体験観光・スポーツ観光など）	0.69
33	多様な情報発信手段の利活用	0.61
34	館山港・館山湾の利活用	0.60
35	太陽光発電等エネルギー対策	0.58
36	消費者問題への対応	0.58
37	図書館・公民館・博物館等の整備	0.56
38	スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	0.55
39	文化・芸能の継承と振興	0.51
40	地域（コミュニティ）活動の支援	0.46
41	生涯学習や体験活動の推進	0.38
42	海上交通の開設など多様な交通	0.14

③ 満足度と重要度の関係からみた評価

重要度も満足度も高い施策は「高速道路・バス網」や「消防体制」、「保健」、「救急救命体制」であり、これらの施策は現状を維持・継続していくことが重要である。

一方、重要度が高く満足度の低い施策は「雇用」、「生活交通路線」、「商業」などであり、これらの施策については、今後重点的に実施していくことが必要であると考えられる。



④ 満足度の低い施策（地区別）

満足度の低い5施策を地区別にみると、多くの地区では全体で満足度の低い施策とほぼ同様となっているが、西岬地区や神戸地区、富崎地区では「通勤や通学・通院等の交通環境」が下位5施策に入っている。

また、豊房地区では「周辺の道路や排水路等の整備」が2番目に満足度の低い施策となっているほか、館野地区では「行財政改革」も下位5施策に入っていることが特徴である。

図表番号 53 満足度の下位5施策(地区別)

	1位	2位	3位	4位	5位
船形地区	雇用の創出	工業の振興	商業の振興	農林業の振興	鉄道や生活バス路線の維持
	-1.03%	-0.80%	-0.72%	-0.51%	-0.50%
那古地区	雇用の創出	商業の振興	鉄道や生活バス路線の維持	工業の振興	農林業の振興
	-1.00%	-0.68%	-0.63%	-0.57%	-0.43%
北条地区	雇用の創出	商業の振興	工業の振興	鉄道や生活バス路線の維持	農林業の振興
	-0.98%	-0.74%	-0.69%	-0.62%	-0.42%
館山地区	雇用の創出	工業の振興	商業の振興	鉄道や生活バス路線の維持	農林業の振興
	-0.96%	-0.68%	-0.64%	-0.56%	-0.43%
西岬地区	雇用の創出	鉄道や生活バス路線の維持	通勤や通学、通院等の交通環境	商業の振興	工業の振興
	-0.98%	-0.80%	-0.69%	-0.66%	-0.63%
神戸地区	雇用の創出	鉄道や生活バス路線の維持	工業の振興	商業の振興	通勤や通学、通院等の交通環境
	-0.82%	-0.64%	-0.64%	-0.62%	-0.59%
富崎地区	雇用の創出	鉄道や生活バス路線の維持	通勤や通学、通院等の交通環境	商業の振興	工業の振興
	-0.84%	-0.79%	-0.58%	-0.56%	-0.45%
豊房地区	雇用の創出	周辺の道路や排水路等の整備	商業の振興	鉄道や生活バス路線の維持	工業の振興
	-1.04%	-0.81%	-0.73%	-0.73%	-0.70%
館野地区	雇用の創出	工業の振興	商業の振興	行財政改革	農林業の振興
	-0.88%	-0.57%	-0.47%	-0.37%	-0.37%
九重地区	雇用の創出	鉄道や生活バス路線の維持	工業の振興	商業の振興	農林業の振興
	-0.98%	-0.69%	-0.66%	-0.55%	-0.46%

⑤ 重要度の高い施策（地区別）

重要度の高い5施策を地区別にみると、船形地区では「防災対策」が2番目に高く、他の地域より重要度が高い。

全体の重要度では上位5施策に入っていないが、「高齢者の福祉施策」は船形地区や那古地区、富崎地区では上位になっている。同様に「鉄道や生活バス路線の維持」が館山地区で上位となるほか、「通勤や通学、通院等の交通環境」は西岬地区や九重地区で上位となっている。

また、神戸地区では「健診や予防等の保健活動の充実」が上位となっており、豊房地区では「河川や海域等の浄化」が、九重地区では「子育て支援」が重要な施策となっていることが特徴である。

図表番号 54 重要度の上位5施策(地区別)

	1位	2位	3位	4位	5位
船形地区	医療の充実	防災対策	救急救命体制の充実	雇用の創出	高齢者の福祉施策
	1.40%	1.32%	1.27%	1.24%	1.16%
那古地区	医療の充実	雇用の創出	高齢者の福祉施策	高速道路や高速バス網の整備	防災対策
	1.38%	1.33%	1.13%	1.10%	1.09%
北条地区	医療の充実	雇用の創出	高速道路や高速バス網の整備	救急救命体制の充実	防災対策
	1.42%	1.39%	1.20%	1.20%	1.17%
館山地区	医療の充実	雇用の創出	救急救命体制の充実	高速道路や高速バス網の整備	鉄道や生活バス路線の維持
	1.37%	1.33%	1.14%	1.10%	1.10%
西岬地区	雇用の創出	医療の充実	救急救命体制の充実	防災対策	通勤や通学、通院等の交通環境
	1.38%	1.29%	1.27%	1.13%	1.11%
神戸地区	医療の充実	雇用の創出	検診や予防等の保健活動の充実	防災対策	救急救命体制の充実
	1.46%	1.31%	1.27%	1.25%	1.23%
富崎地区	医療の充実	雇用の創出	防災対策	鉄道や生活バス路線の維持	高齢者の福祉施策
	1.41%	1.35%	1.26%	1.24%	1.24%
豊房地区	雇用の創出	医療の充実	高速道路や高速バス網の整備	防災対策	河川や海域等の浄化
	1.45%	1.27%	1.12%	1.08%	1.08%
館野地区	雇用の創出	医療の充実	救急救命体制の充実	高速道路や高速バス網の整備	防災対策
	1.27%	1.25%	1.18%	1.17%	1.16%
九重地区	雇用の創出	医療の充実	子育て支援施策	通勤や通学、通院等の交通環境	防災対策
	1.41%	1.33%	1.16%	1.12%	1.07%

⑥ 満足度の前回調査との比較（地区別）

<船形地区>

船形地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「交通安全対策」、「防災対策」、「治安や防犯対策」「消防体制の充実」では、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査でも「不満」であり、今回さらに満足度が低下した施策は「通勤や通学、通院等の交通環境」や「周辺の道路や排水路等の整備」、「河川や海域等の浄化」などとなった。

図表番号 55 満足度指数(前回調査との比較:船形地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.23	-0.44	▲ 0.21
周辺の道路や排水路等の整備	-0.31	-0.47	▲ 0.16
ごみやし尿の収集の改善	0.13	0.04	▲ 0.09
河川や海域等の浄化	-0.32	-0.38	▲ 0.07
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	0.08	0.03	▲ 0.04
工業の振興	-0.77	-0.80	▲ 0.03
幼稚園、小・中・高校の教育環境	0.06	0.03	▲ 0.03
行財政改革	-0.25	-0.24	0.01
商業の振興	-0.73	-0.72	0.02
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.06	-0.04	0.02
子育て支援施策	-0.16	-0.14	0.02
生涯学習や体験活動の推進	0.06	0.09	0.02
雇用の創出	-1.06	-1.03	0.03
市民の声の市政への反映	-0.21	-0.15	0.06
街並みの美しさや景観の形成	-0.15	-0.09	0.07
太陽光発電等エネルギー対策	-0.31	-0.25	0.07
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.29	-0.21	0.08
農林業の振興	-0.59	-0.51	0.09
鉄道や生活バス路線の維持	-0.59	-0.50	0.09
市民と行政の協働の推進	-0.27	-0.16	0.11
緑地の保全や緑化の推進	-0.12	0.00	0.12
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.15	-0.02	0.13
障がい者の福祉施策	-0.18	-0.04	0.13
市からの情報提供	-0.03	0.14	0.17
消費者問題への対応	-0.15	0.02	0.18
水産・水産加工業の振興	-0.62	-0.44	0.18
高速道路や高速バス網の整備	0.43	0.62	0.18
館山市のPRの強化	-0.35	-0.16	0.19
高齢者の福祉施策	-0.37	-0.18	0.19
文化・芸能の継承と振興	-0.21	0.04	0.25
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.10	0.16	0.26
多様な情報発信手段の利活用	-0.41	-0.13	0.27
館山港・館山湾の利活用	-0.25	0.03	0.29
検診や予防等の保健活動の充実	0.03	0.32	0.29
海上交通の開設など多様な交通	-0.48	-0.15	0.34
図書館・公民館・博物館等の整備	-0.20	0.14	0.34
医療の充実	-0.41	-0.05	0.36
救急救命体制の充実	0.12	0.51	0.39
消防体制の充実	0.17	0.57	0.41
治安や防犯対策	-0.20	0.21	0.41
防災対策	-0.18	0.31	0.49
交通安全対策	-0.47	0.27	0.74

<那古地区>

那古地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「交通安全対策」、「街並みの美しさや景観の形成」、「治安や防犯対策」「緑地の保全や緑化の推進」では、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査でも「不満」であり、今回さらに満足度が低下した施策は「図書館・公民館・博物館等の整備」や「鉄道や生活バス路線の維持」、「子育て支援施策」など 10 施策となった。

図表番号 56 満足度指数(前回調査との比較:那古地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
ごみやし尿の収集の改善	0.16	-0.05	▲ 0.21
幼稚園、小・中・高校の教育環境	0.06	-0.08	▲ 0.14
図書館・公民館・博物館等の整備	-0.05	-0.19	▲ 0.14
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	0.02	-0.11	▲ 0.13
鉄道や生活バス路線の維持	-0.50	-0.63	▲ 0.13
子育て支援施策	-0.07	-0.18	▲ 0.12
商業の振興	-0.58	-0.68	▲ 0.10
障がい者の福祉施策	-0.11	-0.20	▲ 0.09
高齢者の福祉施策	-0.20	-0.24	▲ 0.03
医療の充実	-0.27	-0.30	▲ 0.03
文化・芸能の継承と振興	-0.02	-0.04	▲ 0.01
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.30	-0.30	▲ 0.00
救急救命体制の充実	0.20	0.21	0.00
周辺の道路や排水路等の整備	-0.39	-0.38	0.02
生涯学習や体験活動の推進	0.00	0.02	0.02
消防体制の充実	0.28	0.31	0.03
検診や予防等の保健活動の充実	0.23	0.28	0.05
市民と行政の協働の推進	-0.20	-0.14	0.06
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.01	0.05	0.06
行財政改革	-0.26	-0.20	0.06
高速道路や高速バス網の整備	0.54	0.60	0.07
水産・水産加工業の振興	-0.43	-0.35	0.08
農林業の振興	-0.52	-0.43	0.08
防災対策	-0.16	-0.08	0.08
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.11	-0.02	0.09
市民の声の市政への反映	-0.30	-0.21	0.09
消費者問題への対応	-0.20	-0.09	0.10
雇用の創出	-1.11	-1.00	0.11
市からの情報提供	0.06	0.18	0.12
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.17	-0.05	0.12
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.29	-0.15	0.14
河川や海域等の浄化	-0.38	-0.24	0.14
館山市のPRの強化	-0.19	-0.01	0.18
工業の振興	-0.75	-0.57	0.18
緑地の保全や緑化の推進	-0.10	0.09	0.19
治安や防犯対策	-0.12	0.07	0.19
太陽光発電等エネルギー対策	-0.33	-0.14	0.19
街並みの美しさや景観の形成	-0.12	0.07	0.19
多様な情報発信手段の利活用	-0.25	-0.04	0.21
館山港・館山湾の利活用	-0.30	-0.06	0.24
海上交通の開設など多様な交通	-0.44	-0.06	0.37
交通安全対策	-0.55	0.03	0.58

<北条地区>

北条地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「交通安全対策」、「防災対策」、「治安や防犯対策」「救急救命体制の充実」では、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査でも「不満」であり、今回さらに満足度が低下した施策は「鉄道や生活バス路線の維持」「幼稚園・小・中・高校の教育環境」となった。

図表番号 57 満足度指数(前回調査との比較:北条地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
鉄道や生活バス路線の維持	-0.52	-0.62	▲ 0.10
幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.03	-0.10	▲ 0.07
ごみやし尿の収集の改善	0.11	0.07	▲ 0.04
館山市のPRの強化	-0.13	-0.13	▲ 0.01
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.21	-0.21	0.01
図書館・公民館・博物館等の整備	-0.08	-0.05	0.03
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.26	-0.23	0.03
生涯学習や体験活動の推進	-0.04	0.05	0.08
周辺の道路や排水路等の整備	-0.38	-0.29	0.09
河川や海域等の浄化	-0.37	-0.28	0.09
館山港・館山湾の利活用	-0.36	-0.26	0.10
文化・芸能の継承と振興	-0.06	0.05	0.11
市民の声の市政への反映	-0.38	-0.26	0.12
障がい者の福祉施策	-0.24	-0.12	0.12
市民と行政の協働の推進	-0.34	-0.22	0.12
子育て支援施策	-0.23	-0.11	0.13
行財政改革	-0.43	-0.30	0.13
高速道路や高速バス網の整備	0.50	0.63	0.13
太陽光発電等エネルギー対策	-0.32	-0.19	0.13
緑地の保全や緑化の推進	-0.14	0.00	0.15
海上交通の開設など多様な交通	-0.37	-0.22	0.15
消費者問題への対応	-0.20	-0.04	0.15
商業の振興	-0.90	-0.74	0.16
高齢者の福祉施策	-0.29	-0.12	0.17
農林業の振興	-0.60	-0.42	0.18
多様な情報発信手段の利活用	-0.25	-0.07	0.18
街並みの美しさや景観の形成	-0.28	-0.10	0.19
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.10	0.09	0.19
水産・水産加工業の振興	-0.54	-0.32	0.21
市からの情報提供	-0.04	0.18	0.22
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.22	0.00	0.22
工業の振興	-0.92	-0.69	0.22
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.18	0.05	0.23
雇用の創出	-1.22	-0.98	0.24
検診や予防等の保健活動の充実	0.05	0.28	0.24
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.45	-0.21	0.24
治安や防犯対策	-0.18	0.09	0.27
消防体制の充実	0.16	0.45	0.28
医療の充実	-0.38	-0.10	0.29
救急救命体制の充実	-0.08	0.24	0.32
防災対策	-0.27	0.08	0.34
交通安全対策	-0.47	0.07	0.54

<館山地区>

館山地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「防災対策」、「街並みの美しさや景観の形成」、「救急救命体制の充実」では、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査でも「不満」であり、今回さらに満足度が低下した施策は「鉄道や生活バス路線の維持」のみであった。

前回調査より満足度が低下したのは2施策のみとなった。

図表番号 58 満足度指数(前回調査との比較:館山地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
鉄道や生活バス路線の維持	-0.40	-0.56	▲ 0.15
ごみやし尿の収集の改善	0.06	0.01	▲ 0.05
図書館・公民館・博物館等の整備	-0.12	-0.07	0.04
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.38	-0.34	0.04
子育て支援施策	-0.25	-0.19	0.06
館山市のPRの強化	-0.09	-0.04	0.06
行財政改革	-0.38	-0.32	0.06
農林業の振興	-0.49	-0.43	0.06
多様な情報発信手段の利活用	-0.16	-0.10	0.06
幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.07	-0.01	0.06
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.13	-0.05	0.08
文化・芸能の継承と振興	-0.06	0.03	0.08
市民の声の市政への反映	-0.36	-0.26	0.09
海上交通の開設など多様な交通	-0.29	-0.19	0.10
障がい者の福祉施策	-0.26	-0.16	0.10
商業の振興	-0.74	-0.64	0.10
生涯学習や体験活動の推進	-0.07	0.04	0.11
周辺の道路や排水路等の整備	-0.43	-0.32	0.11
市民と行政の協働の推進	-0.33	-0.22	0.11
消費者問題への対応	-0.23	-0.12	0.12
水産・水産加工業の振興	-0.45	-0.33	0.13
緑地の保全や緑化の推進	-0.17	-0.03	0.14
館山港・館山湾の利活用	-0.25	-0.10	0.15
高齢者の福祉施策	-0.38	-0.21	0.17
工業の振興	-0.85	-0.68	0.18
太陽光発電等エネルギー対策	-0.34	-0.15	0.20
市からの情報提供	-0.13	0.07	0.20
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.14	0.08	0.21
消防体制の充実	0.12	0.34	0.22
河川や海域等の浄化	-0.52	-0.29	0.23
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.21	0.03	0.23
検診や予防等の保健活動の充実	-0.05	0.19	0.24
高速道路や高速バス網の整備	0.43	0.67	0.24
医療の充実	-0.45	-0.20	0.24
治安や防犯対策	-0.26	0.00	0.26
雇用の創出	-1.22	-0.96	0.27
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.34	-0.07	0.27
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.29	-0.02	0.27
救急救命体制の充実	-0.04	0.23	0.28
街並みの美しさや景観の形成	-0.28	0.00	0.28
防災対策	-0.31	0.04	0.35
交通安全対策	-0.56	-0.05	0.51

<西岬地区>

西岬地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「防災対策」、「緑地の保全や緑化の推進」では、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査でも「不満」であり、今回さらに満足度が低下した施策は「鉄道や生活バス路線の維持」や「スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興」、「通勤や通学、通院等の交通環境」など6施策となった。

図表番号 59 満足度指数(前回調査との比較:西岬地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
ごみやし尿の収集の改善	0.19	-0.14	▲ 0.33
鉄道や生活バス路線の維持	-0.59	-0.80	▲ 0.21
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.05	-0.24	▲ 0.19
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.56	-0.69	▲ 0.13
海上交通の開設など多様な交通	-0.15	-0.27	▲ 0.13
高齢者の福祉施策	-0.23	-0.25	▲ 0.02
市民の声の市政への反映	-0.33	-0.33	▲ 0.01
市からの情報提供	0.16	0.17	0.01
治安や防犯対策	-0.03	-0.02	0.02
図書館・公民館・博物館等の整備	-0.07	-0.05	0.02
行財政改革	-0.36	-0.33	0.03
生涯学習や体験活動の推進	0.00	0.03	0.03
医療の充実	-0.38	-0.34	0.04
子育て支援施策	-0.21	-0.16	0.05
館山市のPRの強化	-0.24	-0.19	0.05
雇用の創出	-1.05	-0.98	0.06
文化・芸能の継承と振興	-0.02	0.05	0.07
商業の振興	-0.74	-0.66	0.09
河川や海域等の浄化	-0.55	-0.44	0.11
消費者問題への対応	-0.17	-0.05	0.12
周辺の道路や排水路等の整備	-0.66	-0.53	0.13
館山港・館山湾の利活用	-0.33	-0.19	0.15
市民と行政の協働の推進	-0.31	-0.16	0.15
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.17	-0.02	0.16
太陽光発電等エネルギー対策	-0.41	-0.25	0.16
幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.12	0.06	0.19
農林業の振興	-0.70	-0.50	0.20
多様な情報発信手段の利活用	-0.33	-0.12	0.21
消防体制の充実	0.22	0.45	0.24
検診や予防等の保健活動の充実	0.10	0.34	0.24
救急救命体制の充実	0.00	0.24	0.24
工業の振興	-0.92	-0.63	0.28
街並みの美しさや景観の形成	-0.25	0.03	0.28
交通安全対策	-0.37	-0.06	0.30
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.34	-0.03	0.31
障がい者の福祉施策	-0.45	-0.14	0.31
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.34	-0.02	0.32
水産・水産加工業の振興	-0.69	-0.36	0.32
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.52	-0.19	0.33
緑地の保全や緑化の推進	-0.31	0.08	0.39
高速道路や高速バス網の整備	0.23	0.64	0.40
防災対策	-0.27	0.18	0.45

<神戸地区>

神戸地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「健診や予防等の保健活動の充実」や「防災対策」、「市からの情報提供」では、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査では「満足」であったが、今回「不満」に転じた施策は「ごみやし尿の収集の改善」であった。

また、「不満」が前回調査より高まった施策は「通勤や通学、通院等の交通環境」「鉄道や生活バス路線の維持」、など6施策となった。

図表番号 60 満足度指数(前回調査との比較:神戸地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
ごみやし尿の収集の改善	0.27	-0.06	▲ 0.33
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.32	-0.59	▲ 0.26
鉄道や生活バス路線の維持	-0.49	-0.64	▲ 0.15
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.08	-0.13	▲ 0.05
幼稚園、小・中・高校の教育環境	0.24	0.20	▲ 0.04
緑地の保全や緑化の推進	0.02	-0.01	▲ 0.03
子育て支援施策	-0.16	-0.17	▲ 0.01
障がい者の福祉施策	-0.19	-0.20	▲ 0.01
多様な情報発信手段の利活用	-0.20	-0.20	▲ 0.01
消防体制の充実	0.39	0.39	0.00
周辺の道路や排水路等の整備	-0.43	-0.42	0.00
図書館・公民館・博物館等の整備	0.11	0.12	0.01
河川や海域等の浄化	-0.39	-0.37	0.02
生涯学習や体験活動の推進	0.05	0.09	0.04
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.02	0.06	0.07
高速道路や高速バス網の整備	0.26	0.37	0.11
水産・水産加工業の振興	-0.50	-0.39	0.11
文化・芸能の継承と振興	0.02	0.13	0.11
行財政改革	-0.37	-0.25	0.12
館山市のPRの強化	-0.22	-0.09	0.13
治安や防犯対策	-0.05	0.10	0.15
太陽光発電等エネルギー対策	-0.31	-0.14	0.17
街並みの美しさや景観の形成	-0.22	-0.03	0.19
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.32	-0.12	0.21
高齢者の福祉施策	-0.35	-0.13	0.22
消費者問題への対応	-0.26	-0.04	0.22
市民と行政の協働の推進	-0.38	-0.13	0.25
海上交通の開設など多様な交通	-0.43	-0.18	0.25
館山港・館山湾の利活用	-0.31	-0.06	0.25
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.14	0.12	0.26
市民の声の市政への反映	-0.45	-0.18	0.27
救急救命体制の充実	-0.05	0.24	0.29
雇用の創出	-1.11	-0.82	0.29
市からの情報提供	-0.08	0.23	0.30
農林業の振興	-0.73	-0.42	0.31
防災対策	-0.23	0.10	0.33
工業の振興	-0.98	-0.64	0.35
交通安全対策	-0.38	-0.01	0.37
商業の振興	-1.00	-0.62	0.38
医療の充実	-0.49	-0.03	0.46
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.58	-0.10	0.48
検診や予防等の保健活動の充実	-0.05	0.46	0.50

<富崎地区>

富崎地区の満足度指数を前回調査と比較すると、すべての施策において前回調査より満足度が上昇している。

「不満」から「満足」に転じた施策も多く、特に、「防災対策」や「交通安全対策」などでは満足度が大きく上がった。

一方、「工業の振興」や「水産・水産加工業の振興」「農林業の振興」「商業の振興」といった産業関連施策では、大幅に指数が上がったものの、依然として「不満」となっている。

図表番号 61 満足度指数(前回調査との比較:富崎地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
鉄道や生活バス路線の維持	-0.81	-0.79	0.01
ごみやし尿の収集の改善	0.14	0.18	0.03
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.64	-0.58	0.06
生涯学習や体験活動の推進	-0.18	0.00	0.18
緑地の保全や緑化の推進	-0.40	-0.18	0.23
子育て支援施策	-0.29	-0.05	0.23
街並みの美しさや景観の形成	-0.12	0.16	0.28
図書館・公民館・博物館等の整備	-0.17	0.11	0.28
市民と行政の協働の推進	-0.35	-0.03	0.32
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.38	-0.05	0.33
周辺の道路や排水路等の整備	-0.78	-0.44	0.34
行財政改革	-0.43	-0.08	0.36
文化・芸能の継承と振興	-0.23	0.14	0.36
館山港・館山湾の利活用	-0.30	0.08	0.38
消費者問題への対応	-0.30	0.08	0.39
消防体制の充実	0.00	0.41	0.41
高齢者の福祉施策	-0.57	-0.15	0.41
市民の声の市政への反映	-0.52	-0.11	0.42
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.48	-0.05	0.43
幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.29	0.18	0.48
河川や海域等の浄化	-0.68	-0.20	0.48
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.54	-0.05	0.49
海上交通の開設など多様な交通	-0.50	0.00	0.50
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.32	0.22	0.53
市からの情報提供	-0.25	0.30	0.55
医療の充実	-0.62	-0.05	0.57
雇用の創出	-1.42	-0.84	0.57
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.56	0.03	0.59
高速道路や高速バス網の整備	-0.04	0.58	0.61
商業の振興	-1.19	-0.56	0.63
太陽光発電等エネルギー対策	-0.68	-0.05	0.63
治安や防犯対策	-0.38	0.28	0.66
救急救命体制の充実	-0.29	0.38	0.68
農林業の振興	-1.13	-0.45	0.68
検診や予防等の保健活動の充実	-0.17	0.51	0.69
障がい者の福祉施策	-0.67	0.03	0.69
館山市のPRの強化	-0.52	0.18	0.70
多様な情報発信手段の利活用	-0.64	0.13	0.76
水産・水産加工業の振興	-1.21	-0.34	0.87
交通安全対策	-0.79	0.16	0.95
防災対策	-0.75	0.21	0.96
工業の振興	-1.42	-0.45	0.97

<豊房地区>

豊房地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「文化・芸能の伝承と信仰」や「防災対策」、「海岸（ビーチ）の保全・利用」などでは、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査では「満足」であったが、今回「不満」に転じた施策は「ごみやし尿の収集の改善」となった。

また、「不満」が前回調査より高まった施策は「鉄道や生活バス路線の維持」「周辺の道路や排水路等の整備」など8施策となった。

図表番号 62 満足度指数(前回調査との比較:豊房地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
鉄道や生活バス路線の維持	-0.57	-0.73	▲ 0.16
周辺の道路や排水路等の整備	-0.68	-0.81	▲ 0.13
ごみやし尿の収集の改善	0.08	-0.04	▲ 0.11
市民と行政の協働の推進	-0.29	-0.36	▲ 0.07
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.58	-0.64	▲ 0.06
館山市のPRの強化	-0.22	-0.27	▲ 0.05
行財政改革	-0.40	-0.42	▲ 0.02
多様な情報発信手段の利活用	-0.26	-0.27	▲ 0.01
幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.04	-0.04	▲ 0.00
高齢者の福祉施策	-0.20	-0.20	0.00
検診や予防等の保健活動の充実	0.13	0.14	0.01
高速道路や高速バス網の整備	0.35	0.36	0.01
消防体制の充実	0.24	0.27	0.03
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.08	-0.04	0.04
商業の振興	-0.79	-0.73	0.06
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.15	-0.08	0.07
市からの情報提供	-0.11	-0.04	0.07
水産・水産加工業の振興	-0.55	-0.47	0.08
市民の声の市政への反映	-0.48	-0.40	0.08
農林業の振興	-0.77	-0.68	0.09
子育て支援施策	-0.21	-0.11	0.11
河川や海域等の浄化	-0.38	-0.25	0.12
緑地の保全や緑化の推進	-0.21	-0.08	0.13
生涯学習や体験活動の推進	-0.12	0.02	0.14
太陽光発電等エネルギー対策	-0.42	-0.24	0.18
街並みの美しさや景観の形成	-0.33	-0.14	0.19
雇用の創出	-1.23	-1.04	0.19
館山港・館山湾の利活用	-0.44	-0.24	0.20
海上交通の開設など多様な交通	-0.38	-0.18	0.20
消費者問題への対応	-0.31	-0.10	0.20
工業の振興	-0.91	-0.70	0.21
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.32	-0.10	0.22
治安や防犯対策	-0.25	-0.02	0.23
図書館・公民館・博物館等の整備	-0.21	0.02	0.23
救急救命体制の充実	-0.11	0.15	0.26
障がい者の福祉施策	-0.41	-0.15	0.27
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.19	0.08	0.28
防災対策	-0.26	0.02	0.28
文化・芸能の継承と振興	-0.25	0.06	0.31
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.47	-0.12	0.35
医療の充実	-0.56	-0.06	0.50
交通安全対策	-0.55	-0.04	0.51

<館野地区>

館野地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「医療の充実」や「交通安全対策」、「市からの情報提供」などでは、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査では「満足」であったが、今回「不満」に転じた施策は「館山市のPRの強化」となった。

また、「不満」が前回調査より高まった施策は「街並みの美しさや景観の形成」、「太陽光発電等エネルギー対策」など5施策となった。

図表番号 63 満足度指数(前回調査との比較:館野地区)

施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
館山市のPRの強化	0.05	-0.18	▲ 0.22
街並みの美しさや景観の形成	-0.17	-0.28	▲ 0.11
太陽光発電等エネルギー対策	-0.11	-0.22	▲ 0.10
鉄道や生活バス路線の維持	-0.31	-0.35	▲ 0.04
ごみやし尿の収集の改善	0.11	0.08	▲ 0.03
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.13	-0.12	0.01
障がい者の福祉施策	-0.22	-0.21	0.01
図書館・公民館・博物館等の整備	0.03	0.04	0.01
多様な情報発信手段の利活用	-0.15	-0.14	0.01
河川や海域等の浄化	-0.26	-0.24	0.02
行財政改革	-0.40	-0.37	0.03
子育て支援施策	-0.25	-0.20	0.04
農林業の振興	-0.42	-0.37	0.05
消費者問題への対応	-0.23	-0.17	0.07
生涯学習や体験活動の推進	0.00	0.07	0.07
水産・水産加工業の振興	-0.35	-0.26	0.09
市民と行政の協働の推進	-0.40	-0.30	0.10
海上交通の開設など多様な交通	-0.29	-0.18	0.11
高齢者の福祉施策	-0.21	-0.09	0.12
館山港・館山湾の利活用	-0.28	-0.16	0.12
文化・芸能の継承と振興	-0.07	0.05	0.12
市民の声の市政への反映	-0.31	-0.18	0.14
周辺の道路や排水路等の整備	-0.41	-0.25	0.16
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.04	0.12	0.17
工業の振興	-0.74	-0.57	0.18
幼稚園、小・中・高校の教育環境	-0.10	0.11	0.20
緑地の保全や緑化の推進	-0.13	0.08	0.21
治安や防犯対策	-0.17	0.04	0.21
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.42	-0.20	0.22
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.35	-0.12	0.23
雇用の創出	-1.11	-0.88	0.23
高速道路や高速バス網の整備	0.48	0.72	0.24
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.12	0.14	0.25
検診や予防等の保健活動の充実	0.06	0.32	0.26
防災対策	-0.16	0.11	0.27
商業の振興	-0.76	-0.47	0.29
救急救命体制の充実	0.04	0.34	0.30
市からの情報提供	-0.17	0.15	0.32
消防体制の充実	0.06	0.38	0.33
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.42	-0.09	0.33
交通安全対策	-0.30	0.08	0.38
医療の充実	-0.44	0.03	0.47

<九重地区>

九重地区の満足度指数を前回調査と比較すると、「観光の振興」や「交通安全対策」、「防災対策」などでは、前回調査で「不満（満足度指数がマイナス）」であったが、今回調査では指数が増加し「満足（満足度指数がプラス）」となった。

一方、前回調査では「満足」であったが、今回「不満」に転じた施策は「図書館・公民館・博物館等の整備」となった。

また、「不満」が前回調査より高まった施策は「鉄道や生活バス路線の維持」、「スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興」、「館山市のPRの強化」の3施策となった。

図表番号 64 満足度指数(前回調査との比較:九重地区)

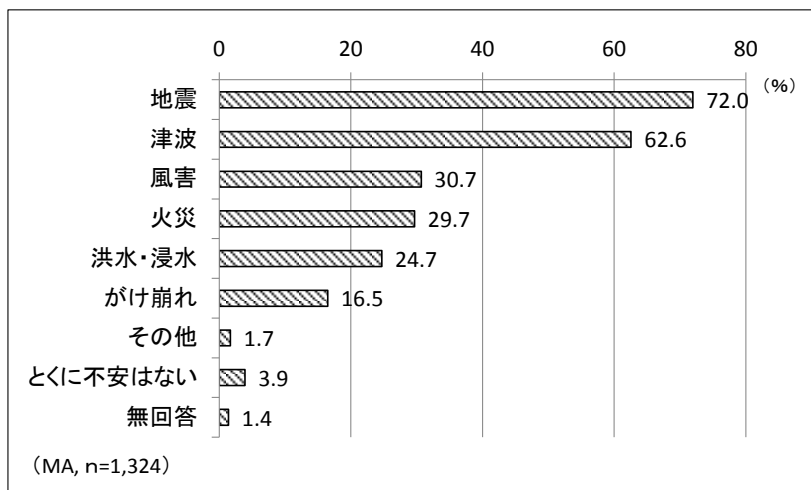
施策名	平成21年度	平成26年度	26年度 -21年度
鉄道や生活バス路線の維持	-0.36	-0.69	▲ 0.33
図書館・公民館・博物館等の整備	0.12	-0.21	▲ 0.32
文化・芸能の継承と振興	0.19	0.00	▲ 0.19
スポーツ施設の整備やスポーツ・レクリエーション活動の振興	-0.10	-0.17	▲ 0.07
幼稚園、小・中・高校の教育環境	0.14	0.08	▲ 0.05
館山市のPRの強化	-0.15	-0.17	▲ 0.02
ごみやし尿の収集の改善	0.16	0.15	▲ 0.00
市民と行政の協働の推進	-0.27	-0.24	0.03
生涯学習や体験活動の推進	-0.07	-0.03	0.04
地域(コミュニティ)活動の支援	-0.05	0.00	0.05
多様な情報発信手段の利活用	-0.28	-0.20	0.08
障がい者の福祉施策	-0.17	-0.08	0.08
子育て支援施策	-0.32	-0.22	0.09
行財政改革	-0.39	-0.29	0.10
周辺の道路や排水路等の整備	-0.48	-0.36	0.12
市民の声の市政への反映	-0.36	-0.21	0.16
高速道路や高速バス網の整備	0.41	0.59	0.18
医療の充実	-0.18	0.02	0.20
市からの情報提供	-0.14	0.07	0.20
海上交通の開設など多様な交通	-0.21	0.00	0.21
緑地の保全や緑化の推進	-0.10	0.12	0.22
河川や海域等の浄化	-0.45	-0.23	0.22
水産・水産加工業の振興	-0.51	-0.28	0.23
消費者問題への対応	-0.29	-0.05	0.24
高齢者の福祉施策	-0.33	-0.08	0.25
館山港・館山湾の利活用	-0.40	-0.14	0.26
工業の振興	-0.95	-0.66	0.30
通勤や通学、通院等の交通環境	-0.71	-0.41	0.30
消防体制の充実	0.11	0.42	0.31
太陽光発電等エネルギー対策	-0.53	-0.20	0.33
海岸(ビーチ)の保全・利用	-0.33	0.00	0.33
リサイクル推進等、ごみの減量化	-0.32	0.03	0.35
検診や予防等の保健活動の充実	0.02	0.40	0.38
商業の振興	-0.98	-0.55	0.43
治安や防犯対策	-0.30	0.14	0.44
救急救命体制の充実	-0.11	0.33	0.45
農林業の振興	-0.93	-0.46	0.48
街並みの美しさや景観の形成	-0.51	0.00	0.51
雇用の創出	-1.56	-0.98	0.58
防災対策	-0.42	0.20	0.62
交通安全対策	-0.61	0.10	0.71
観光の振興(体験観光・スポーツ観光など)	-0.70	0.07	0.78

(6) 館山市の防災について

① 災害の不安

災害の不安では、「地震」(72.0%)と「津波」(62.6%)に回答が集中した。

図表番号 65 災害の不安

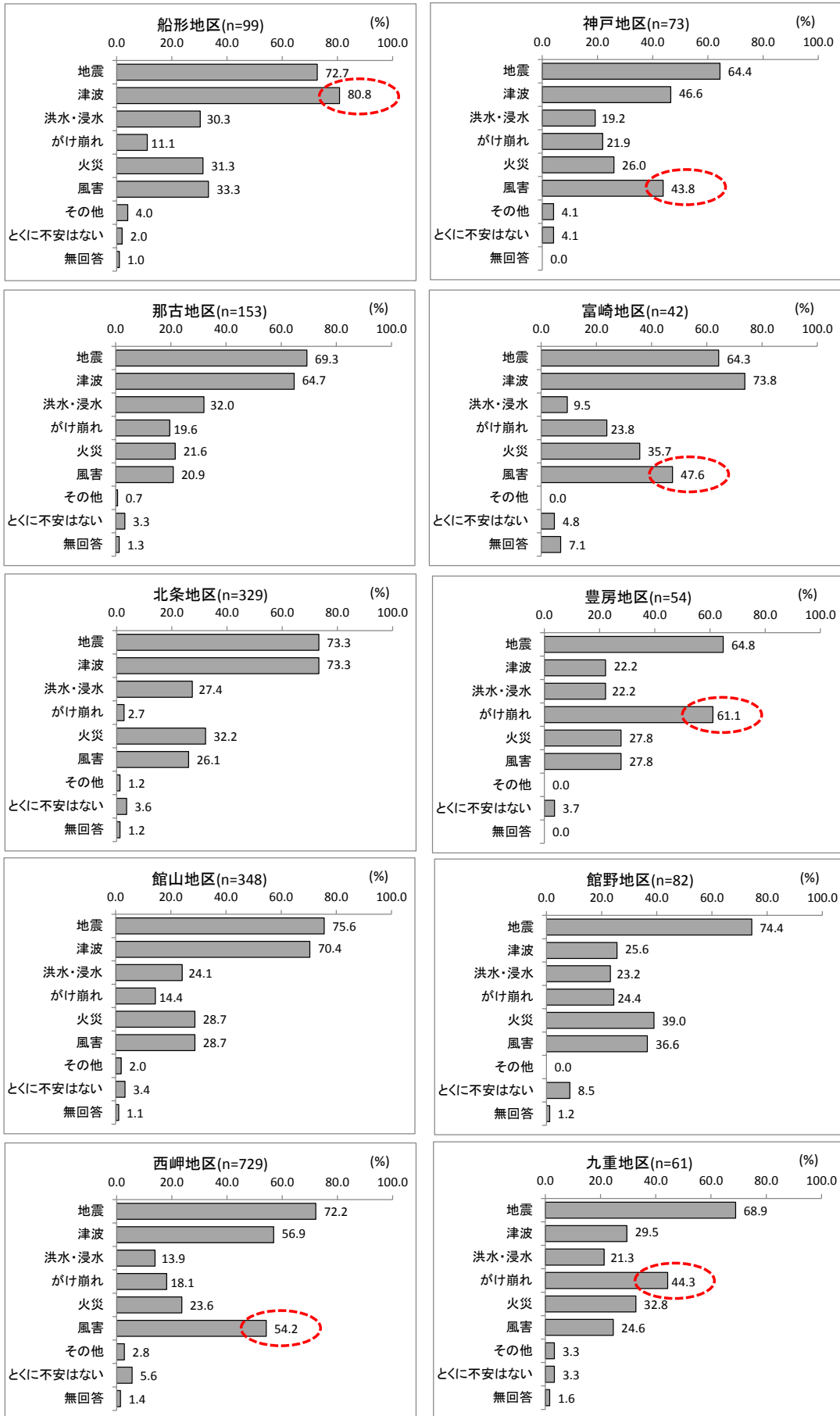


<地区別>

災害の不安を地区別にみると、「地震」はどの地区でも割合が高いが、那古地区では「津波」が最も高い。

また、西岬地区や神戸地区、富崎地区では「風害」の割合が高いことや、豊房地区や九重地区では「がけ崩れ」に対する不安が高いなど、地区によって不安な災害に違いがみられる。

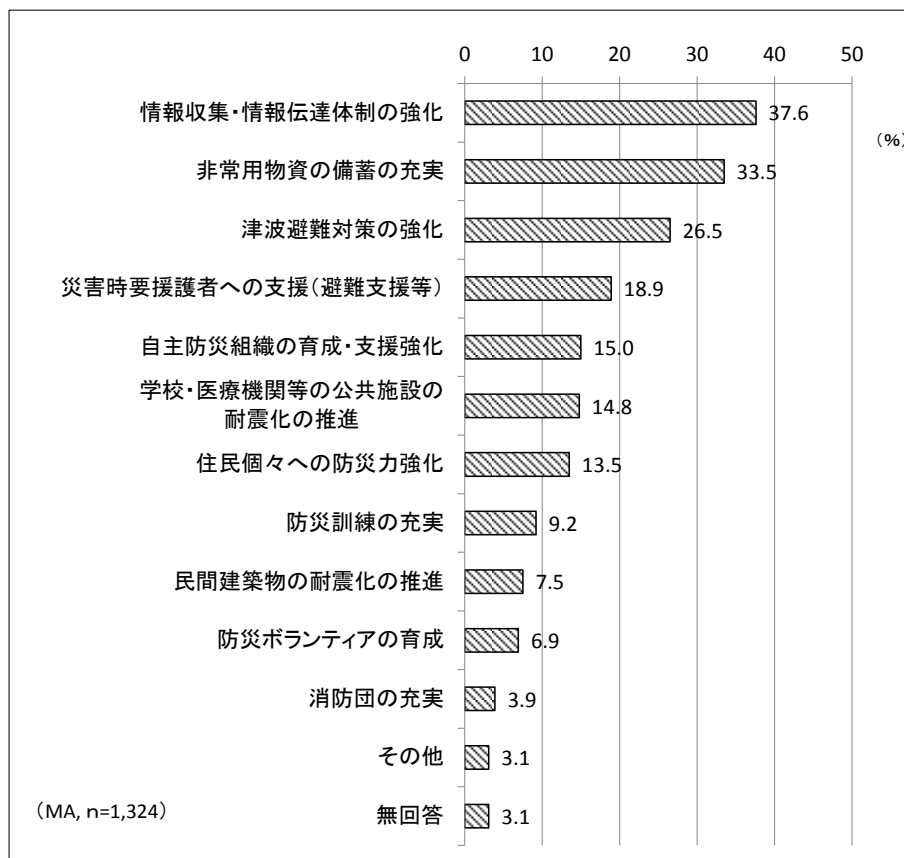
図表番号 66 災害の不安(地区別)



② 災害対策で重要な施策

災害に強いまちづくりで重要な施策は、「情報収集・情報伝達体制の強化」が最も割合が高く 37.6%、次いで「非常用物資の備蓄の充実」が 33.5%、「津波避難対策の強化」が 26.5% となった。

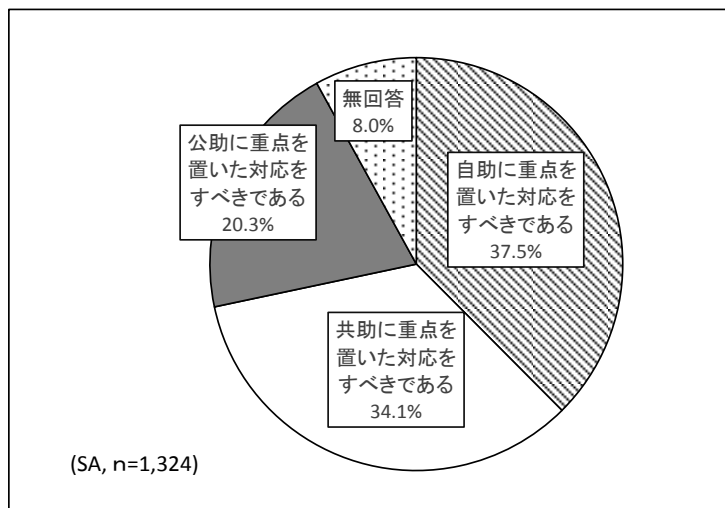
図表番号 67 災害対策で重要な施策



③ 「自助」「共助」「公助」について

最も重点を置くべきは「自助」(37.5%)次いで「共助」(34.1%)となったが、その差はわずかだった。「公助」は最も割合が低かった。

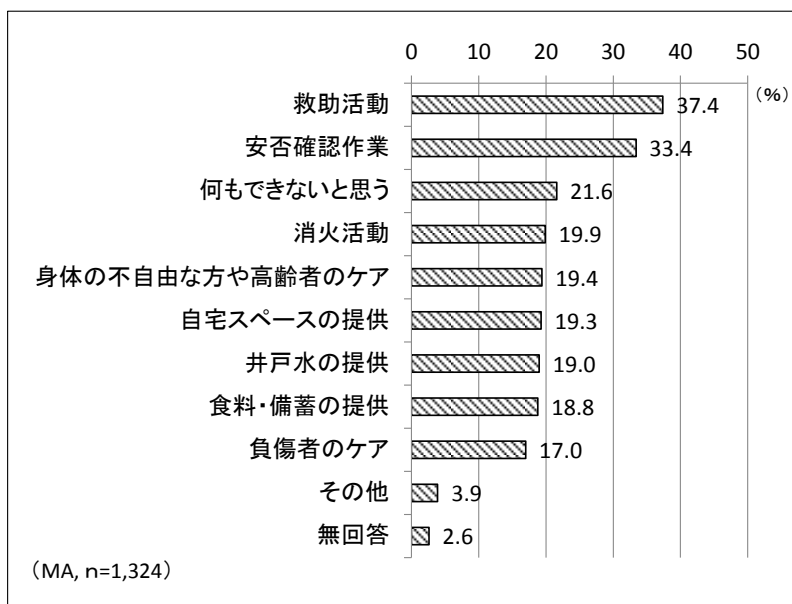
図表番号 68 重点を置くべき対応について(自助・共助・公助)



④ 災害時に自分にできる助け合い活動

災害時に自分にできる助け合い活動は「救助活動」が最も割合が高く 37.4%となり、「安否確認作業」が 33.4%と続いたが、「何もできないと思う」も 21.6%と3番目に高い割合となった。

図表番号 69 災害時に自分にできる助け合い活動



<地区別>

災害時に自分にできることを年代別にみると、60歳代までは「救助活動」や安否確認作業」が上位になるが、70歳以上では「何もできないと思う」が最も割合が高くなる。

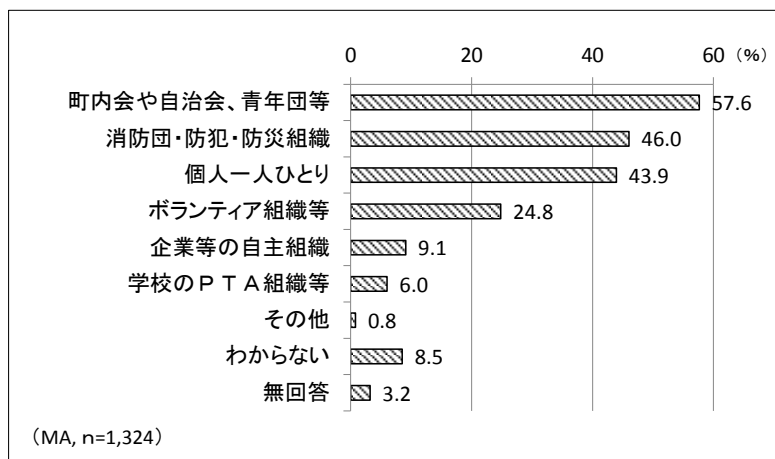
図表番号 70 災害時に自分にできること(年代別)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代(n=33)	安否確認作業	救助活動	負傷者のケア	消火活動	自宅スペースの提供
	42.4%	33.3%	21.2%	18.2%	15.2%
20歳代(n=70)	救助活動	安否確認作業	身体の不自由な方や高齢者のケア	負傷者のケア	消火活動
	50.0%	44.3%	34.3%	28.6%	25.7%
30歳代(n=134)	救助活動	安否確認作業	消火活動	負傷者のケア	何もできないと思う
	43.3%	32.8%	25.4%	21.6%	20.1%
40歳代(n=155)	救助活動	安否確認作業	消火活動	身体の不自由な方や高齢者のケア	負傷者のケア
	46.5%	42.6%	23.9%	19.4%	18.7%
50歳代(n=203)	救助活動	安否確認作業	食料・備蓄の提供	身体の不自由な方や高齢者のケア	井戸水の提供
	38.4%	27.6%	21.7%	21.7%	20.7%
60歳代(n=391)	救助活動	安否確認作業	消火活動	井戸水の提供	自宅スペースの提供
	38.6%	35.8%	22.5%	22.5%	22.3%
70歳代以上(n=323)	何もできないと思う	安否確認作業	救助活動	井戸水の提供	食料・備蓄の提供
	33.1%	26.9%	26.3%	21.4%	19.5%

⑤ 災害時に一翼を担う組織

災害時に一翼を担うべき組織としては、「町内会や自治会、青年団等」が最も割合が高く57.6%、次いで「消防団・防犯・防災組織」が46.0%となったが、「個人一人ひとり」も3番目に高い割合となった。

図表番号 71 災害時に一翼を担う組織



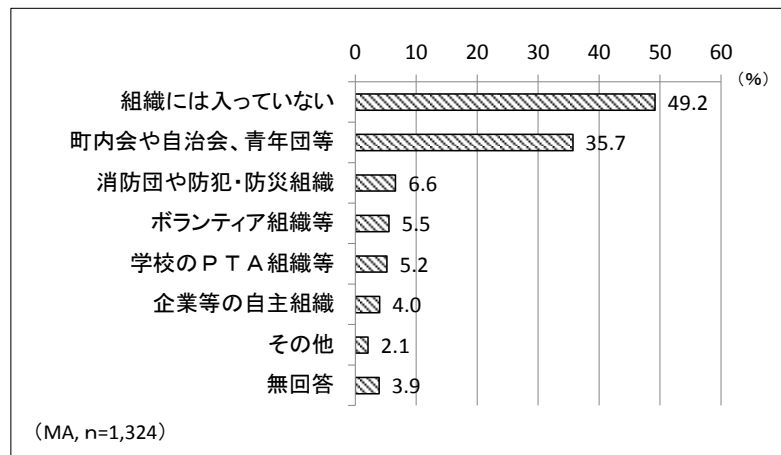
⑥ 災害時に一翼を担う組織への加入状況

災害時に一翼を担う組織への加入状況は、「組織には入っていない」が最も割合が高く49.2%、次いで「町内会や自治会、青年団等」が35.7%となった。

災害時に地域団体の活動を期待している一方、組織に加入していない割合は半数に近く、最も期待されている「町内会や自治会、青年団等」でも加入割合は半数に満たない。

3番目に期待されている「消防団や防犯、防災組織」では、加入割合は6.6%と低かった。

図表番号 72 災害時に一翼を担う組織への加入状況

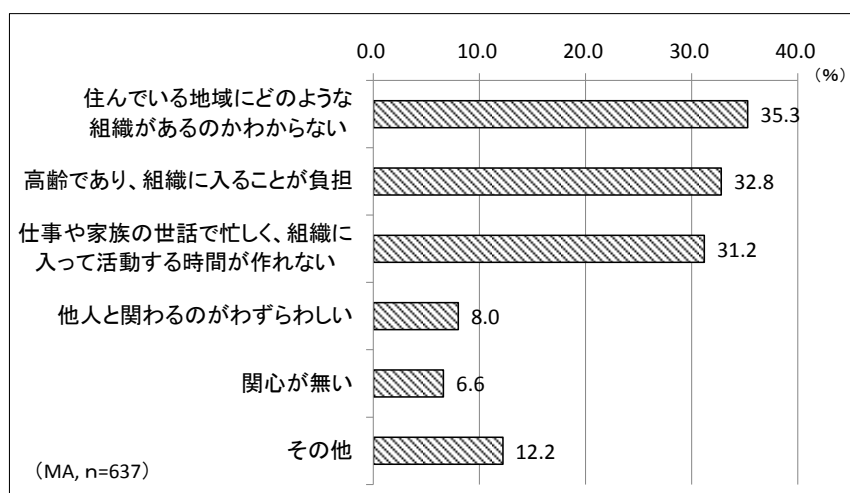


⑦ 組織に加入していない理由

「組織には入っていない」と回答した者の、組織に加入していない理由は、「住んでいる地域にどのような組織があるのかわからない」が最も割合が高く35.3%、次いで「高齢であり、組織に入ることが負担」が32.8%、仕事や家族の世話で忙しく、組織に入って活動する時間が作れない」が31.2%などとなった。

「他人とかかわるのが煩わしい」や「関心がない」などの回答は低い割合だが、両者を合わせると14.6%となった。

図表番号 73 組織に加入していない理由



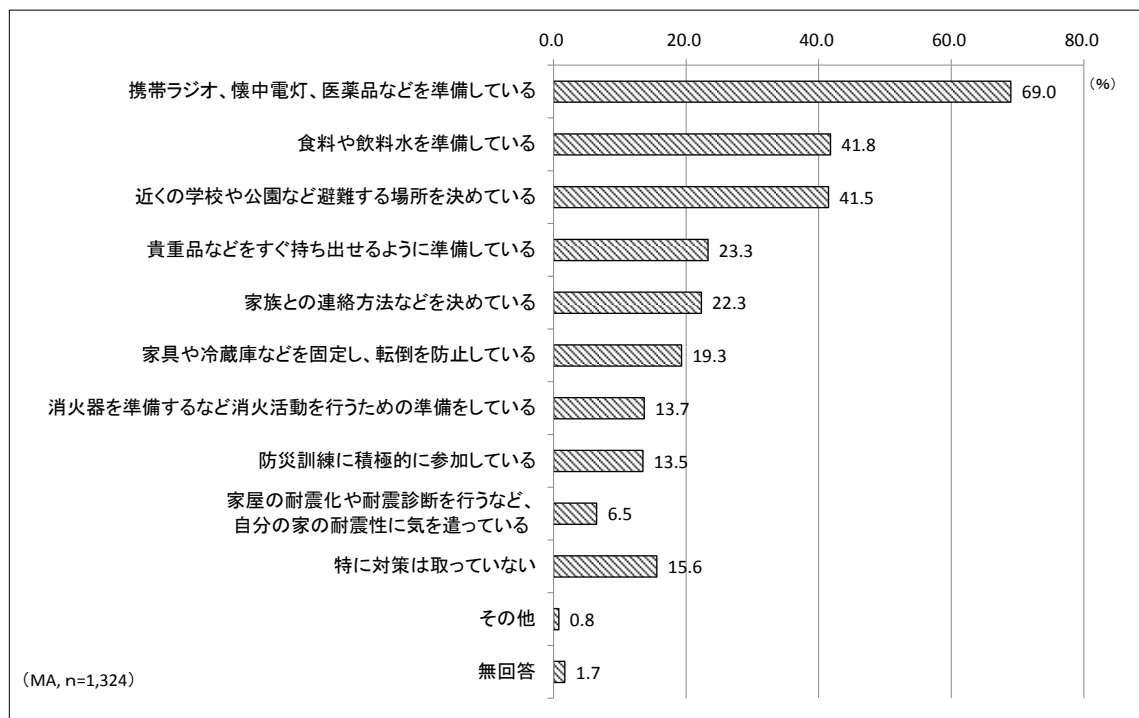
⑧ 災害対策として行っていること

災害対策として行っていることでは、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が最も割合が高く69.0%、次いで「食料や飲料水を準備している」が41.8%、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」が41.5%となった。

「特に対策は取っていない」は15.6%となった。

なお、「特に対策は取っていない」は15.6%となったが、年代別に比較しても、割合はほぼ同じであり、年齢に関係なく何も対策を行っていない者は一定数みられる。

図表番号 74 災害対策として行っていること

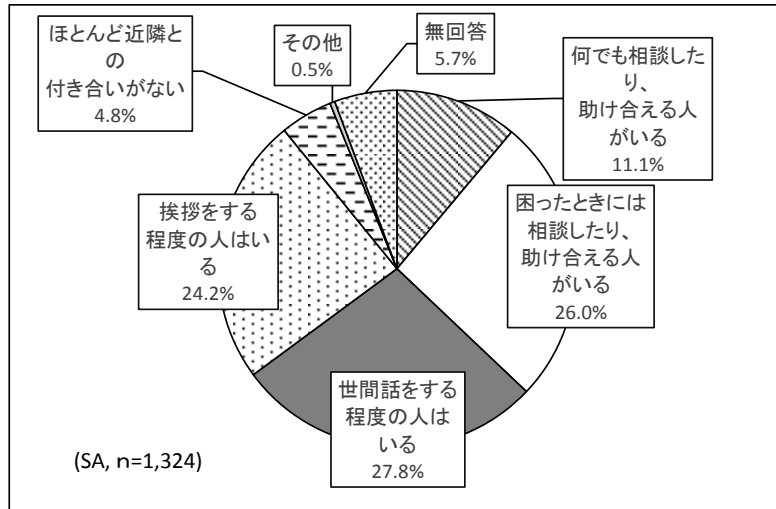


(7) 近所づきあいについて

近所づきあいでは、「世間話をする程度の人はいる」(27.8%)と「困ったときには相談したり、助け合える人がある」(26.0%)、「挨拶をする程度の人はいる」(24.2%)が、同じくらいの割合となり、状況が分かれている。

「何でも相談したり、助け合える人がある」は11.1%にとどまった。

図表番号 75 近所づきあい

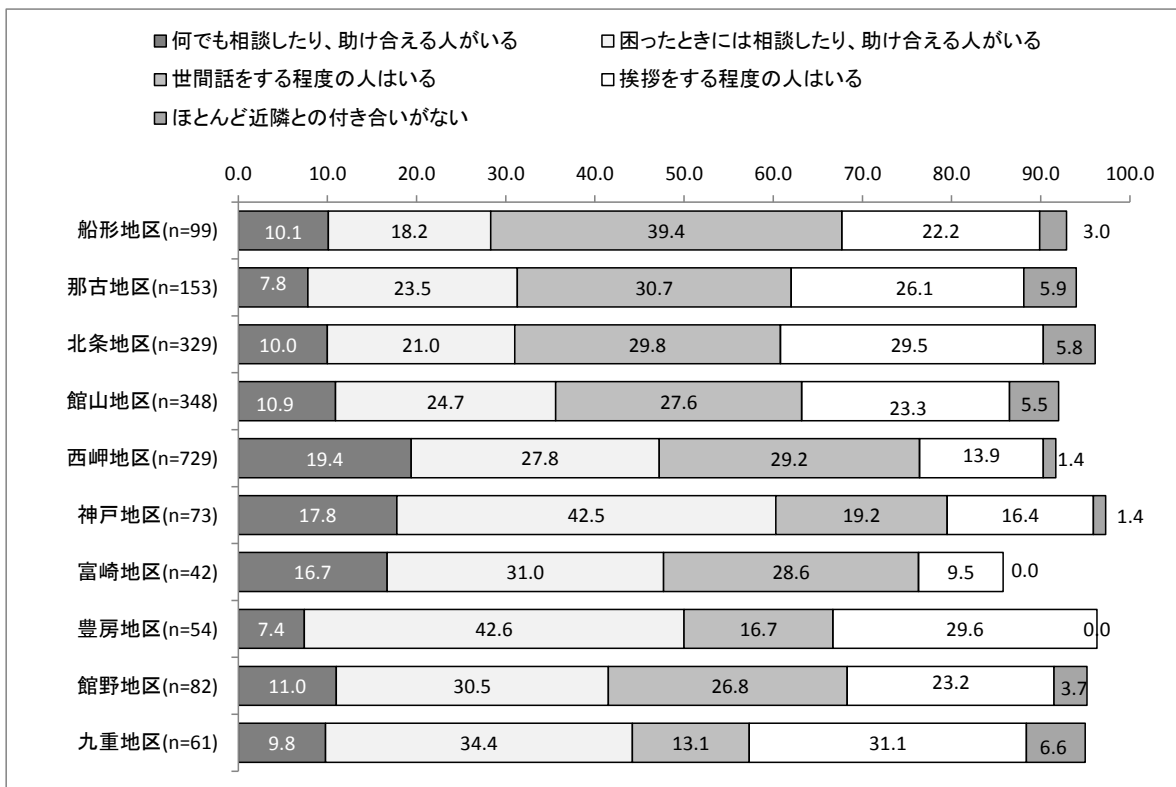


<地区別>

近所づきあいを地区別にみると、西岬地区や神戸地区、富崎地区では「何でも相談できる人がある」や「困ったときは助け合える人がある」の割合が高く、特に神戸地区では両者を合わせると半数を超える。

一方、「挨拶する程度」の割合が高いのは九重地区 (31.1%) や豊房地区 (29.6%)、北条地区 (29.5%) などとなった。

図表番号 76 近所づきあい(地区別:その他、無回答を除く)

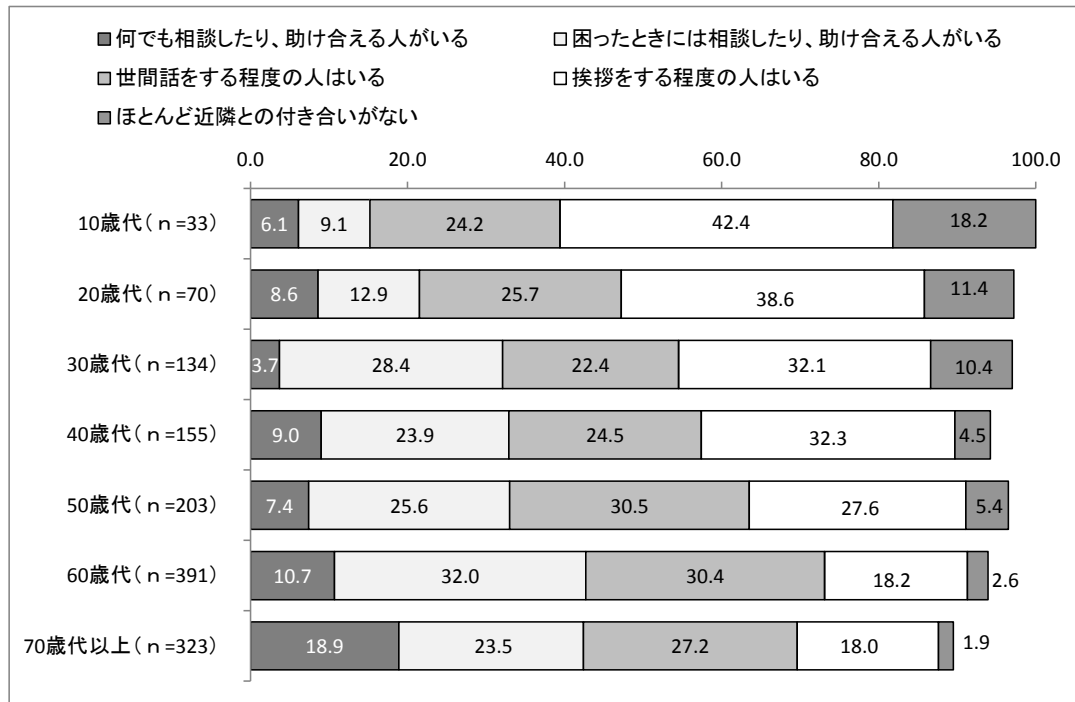


<年代別>

近所づきあいを年代別にみると、「なんでも相談できる人がいる」や「困ったときには助け合える人がいる」を合わせた割合は、20歳代では2割程度で、30～50歳代の働き盛り世代では3割程度、60歳代以上では4割程度と、年代が上がるにつれて割合は高くなっている。

しかし、「世間話をする程度の人はいらる」は年代に関わらず3割前後みられ、「挨拶をする程度の人はいらる」は60歳代以上でも2割程度みられる。

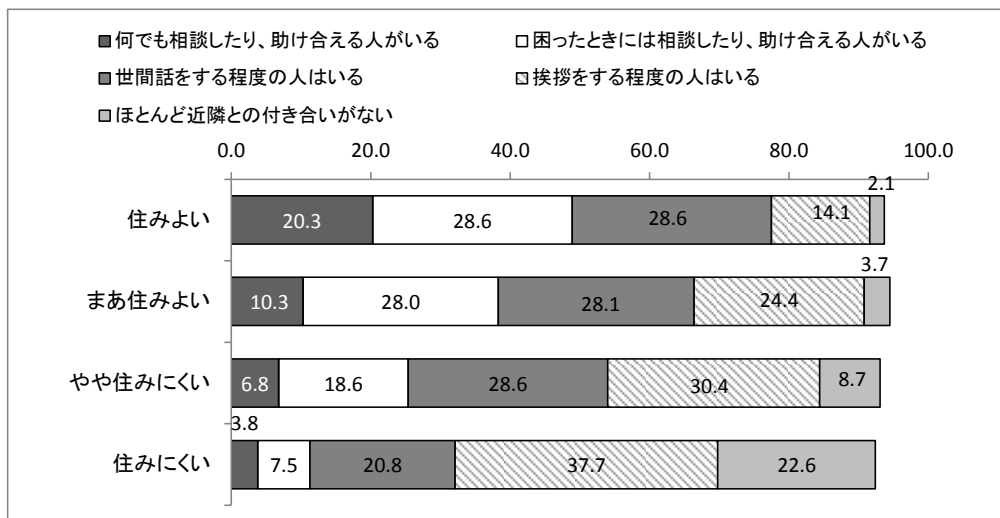
図表番号 77 近所づきあい(年代別:無回答を除く)



<住みごころ別>

近所づきあいを住みごころ別にみると、「なんでも相談できる人がいる」や「困ったときには助け合える人がいる」は、「住みよい」と回答した者で最も割合が高く、「住みにくい」では最も低くなった。

図表番号 78 近所づきあい(住みごころ別)



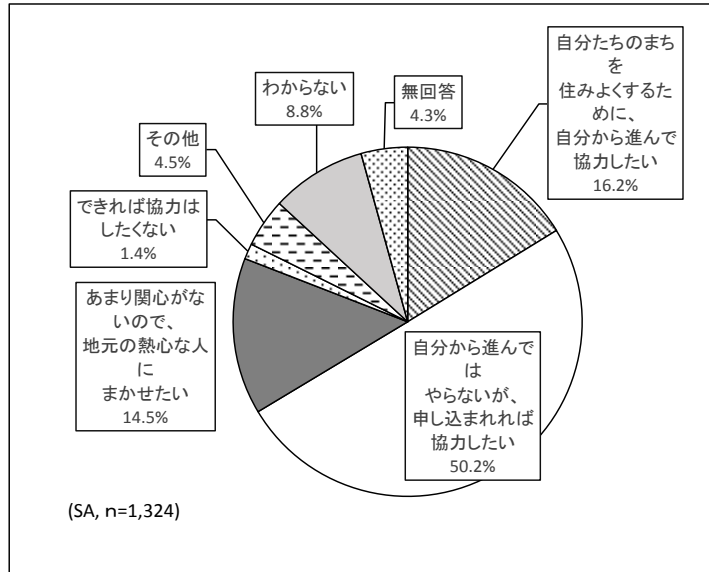
(8) 市民参加について

① まちづくりへの参加意向

まちづくりへの参加については、「自分から進んではやらないが、申し込まれれば協力したい」が最も割合が高く 50.2%と半数を占めた。次いで、「自分たちのまちを住みよくするために、自分から進んで協力したい」が 16.2% となり、両者を合わせた“協力したい”は、66.4%となった。

一方、「あまり関心がないので、地元の熱心な人にまかせたい」が 14.5%、「できれば協力したくない」はわずかだった。

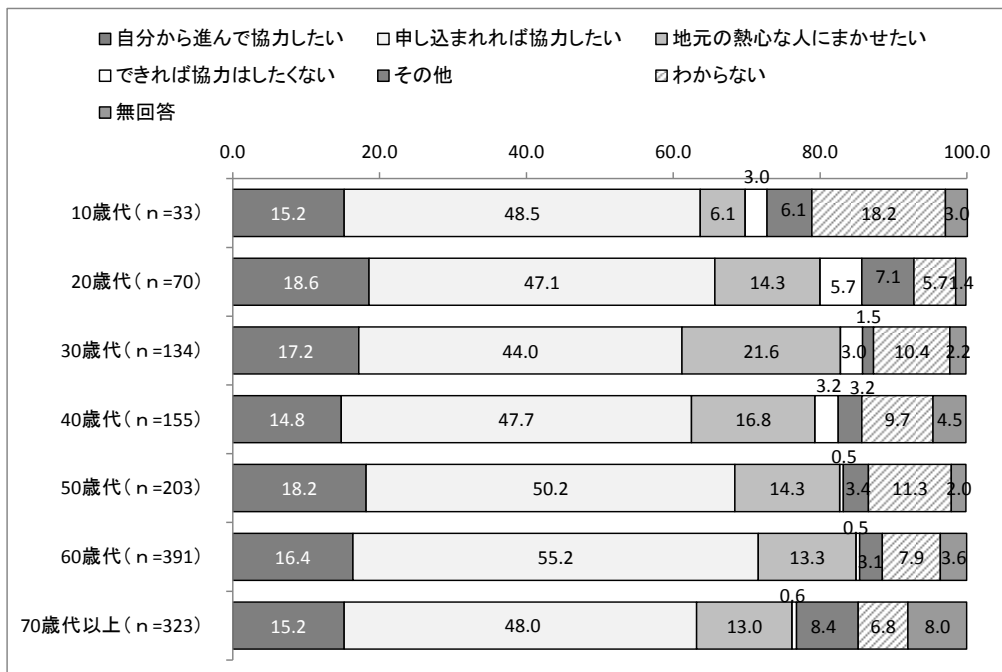
図表番号 79 まちづくりへの参加意向



<年代別>

まちづくりへの参加意向を年代別にみると、「協力したい」の割合は年代に関係なく 6 割程度みられているが、30～40 歳代では「地元の熱心な人に任せたい」の割合がやや高くなっている。

図表番号 80 まちづくりへの参加意向(年代別)

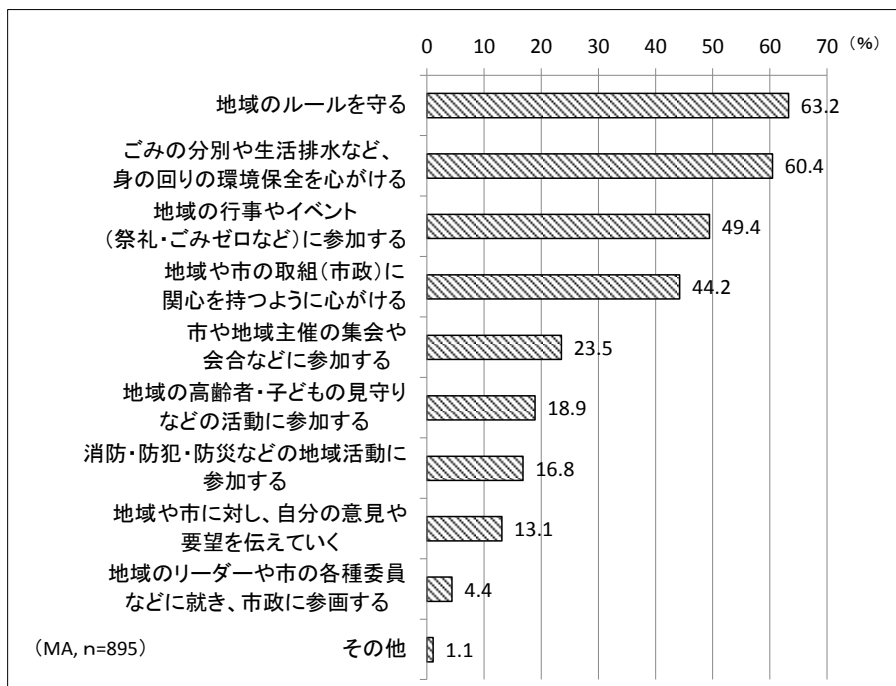


② 協力したい地域活動

協力したい地域活動は、「地域のルールを守る」(63.2%)や「ごみの分別や生活排水など、身の回りの環境保全を心がける」(60.4%)が6割を超え、「地域の行事やイベントに参加する」(49.4%)も約半数となった。

一方、「市や地域主催の集会や会合などに参加する」「地域の高齢者・子どもの見守りなどの活動に参加する」「消防・防犯・防災などの地域活動に参加する」はいずれも2割程度みられるものの、「自分の意見や要望を伝えていく」(13.1%)や「地域のリーダーや市の各種委員などに就き、市政に参画する」(4.4%)などは少数だった。

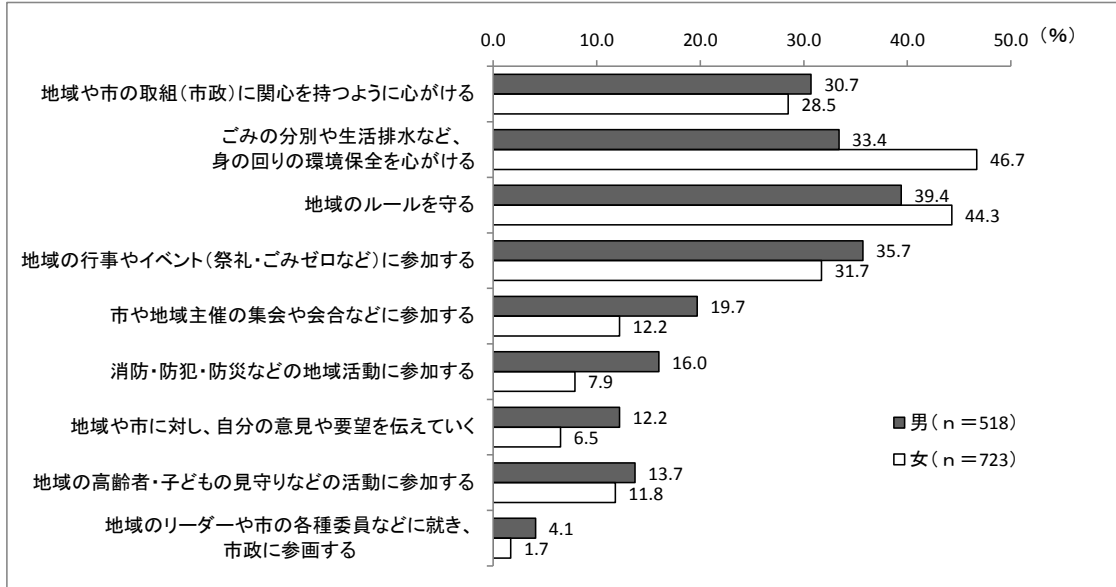
図表番号 81 協力したい地域活動



<性別>

協力したい活動を性別にみると、女性では「ごみの分別等環境保全」(46.7%)や「地域のルールを守る」(44.3%)に回答が集中したが、男性では、「集会や会合に参加する」や「消防・防犯・防災活動に参加する」、「自分の意見や要望を伝える」などの、積極的な参加活動において女性より割合が高くなった。

図表番号 82 協力したい活動(性別)



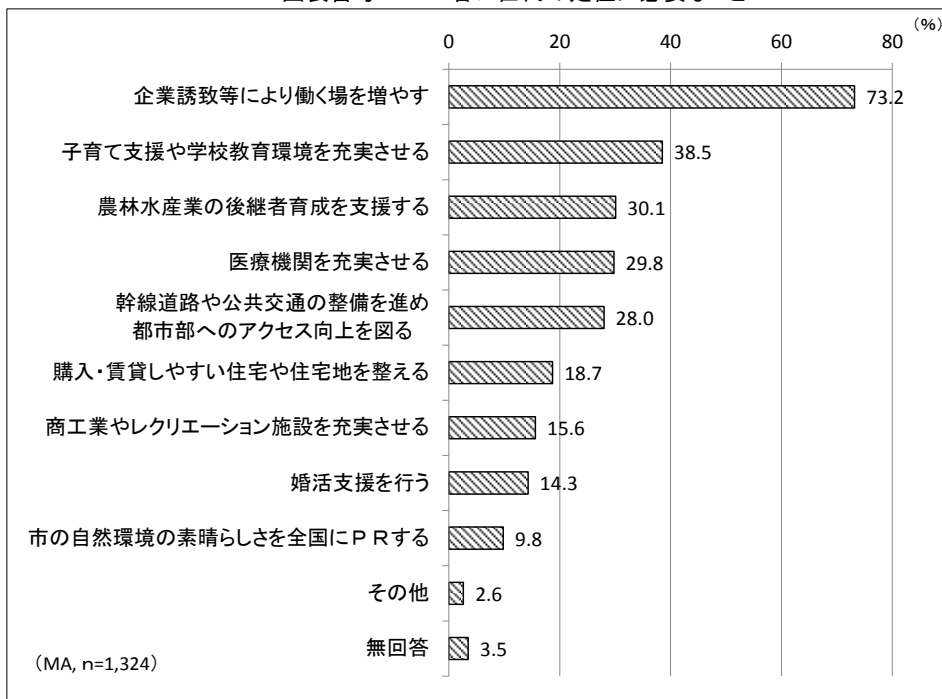
(9) 館山市の少子・高齢化対策について

① 若い世代の定住に必要なこと

若い世代の定住に必要なことでは、「企業誘致等により働く場を増やす」が最も割合が高く73.2%と、回答が集中した。

次いで「子育て支援や学校教育環境を充実させる」が38.5%、「農林水産業の後継者育成を支援する」が30.1%となった。

図表番号 83 若い世代の定住に必要なこと



<年代別>

若い世代の定住に必要なことを年代別にみると、「働く場を増やす」は、どの年代でも高い割合だが、「子育て支援」は50歳代までの年代では2番目に高いが、60歳代以上では順位が下がり、「農林水産業の後継者育成」が2番目に高くなる。

若い世代で上位になっている項目としては、「都市部へのアクセス向上」は10歳代では4割を超えているほか、20歳代と40歳代でも3割を超えている。

また、「購入しやすい住宅」は、10～30歳代までで上位5位に入っており、20歳代では3割を超えている。

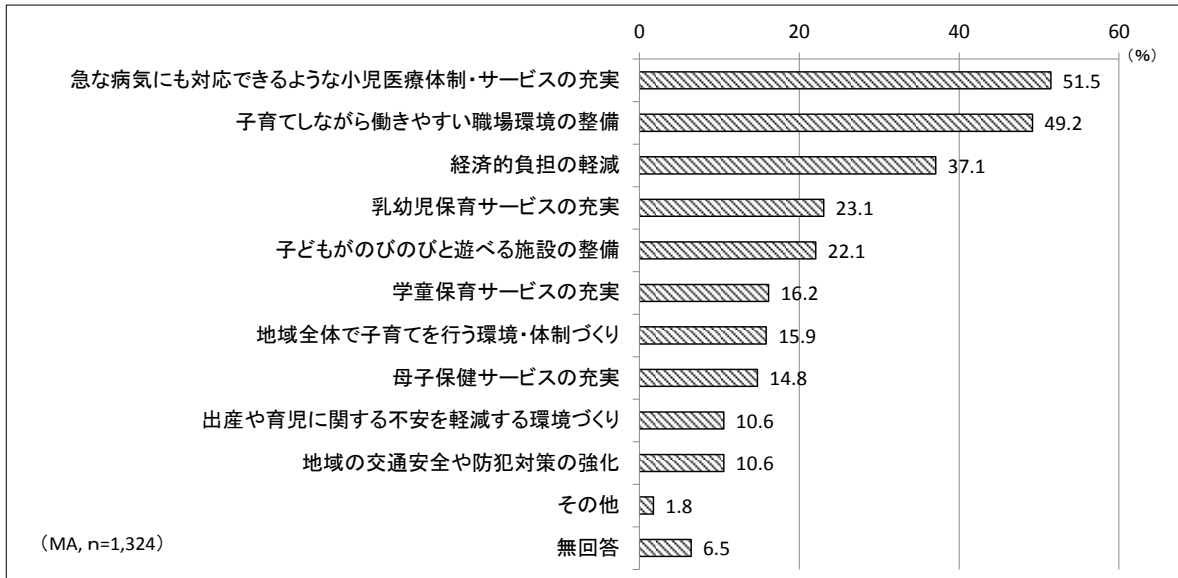
図表番号 84 若い世代の定住に必要なこと(年代別)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=33)	企業誘致等により働く場を増やす	子育て支援や学校教育環境を充実させる	幹線道路や公共交通の整備を進め都市部へのアクセス向上を図る	医療機関を充実させる	購入・賃貸しやすい住宅や住宅地を整える
	54.5%	51.5%	42.4%	21.2%	21.2%
20歳代 (n=70)	企業誘致等により働く場を増やす	子育て支援や学校教育環境を充実させる	幹線道路や公共交通の整備を進め都市部へのアクセス向上を図る	購入・賃貸しやすい住宅や住宅地を整える	農林水産業の後継者育成を支援する
	64.3%	54.3%	31.4%	31.4%	25.7%
30歳代 (n=134)	企業誘致等により働く場を増やす	子育て支援や学校教育環境を充実させる	医療機関を充実させる	購入・賃貸しやすい住宅や住宅地を整える	幹線道路や公共交通の整備を進め都市部へのアクセス向上を図る
	62.7%	56.7%	38.8%	26.1%	23.9%
40歳代 (n=155)	企業誘致等により働く場を増やす	子育て支援や学校教育環境を充実させる	幹線道路や公共交通の整備を進め都市部へのアクセス向上を図る	医療機関を充実させる	農林水産業の後継者育成を支援する
	73.5%	45.8%	31.6%	31.6%	22.6%
50歳代 (n=203)	企業誘致等により働く場を増やす	子育て支援や学校教育環境を充実させる	医療機関を充実させる	幹線道路や公共交通の整備を進め都市部へのアクセス向上を図る	農林水産業の後継者育成を支援する
	73.4%	37.9%	36.0%	30.5%	24.1%
60歳代 (n=391)	企業誘致等により働く場を増やす	農林水産業の後継者育成を支援する	子育て支援や学校教育環境を充実させる	幹線道路や公共交通の整備を進め都市部へのアクセス向上を図る	医療機関を充実させる
	77.2%	35.8%	34.5%	29.2%	26.6%
70歳代以上 (n=323)	企業誘致等により働く場を増やす	農林水産業の後継者育成を支援する	医療機関を充実させる	子育て支援や学校教育環境を充実させる	幹線道路や公共交通の整備を進め都市部へのアクセス向上を図る
	76.2%	36.8%	29.7%	28.2%	23.2%

② 出産・子育て支援で重要な施策

出産・子育て支援で重要な施策は、「急な病気にも対応できるような小児医療体制・サービスの充実」が最も割合が高く 51.5%、次いで「子育てしながら働きやすい職場環境の整備」が 49.2%、「経済的負担の軽減」が 37.1%となった。

図表番号 85 出産・子育て支援で重要な施策

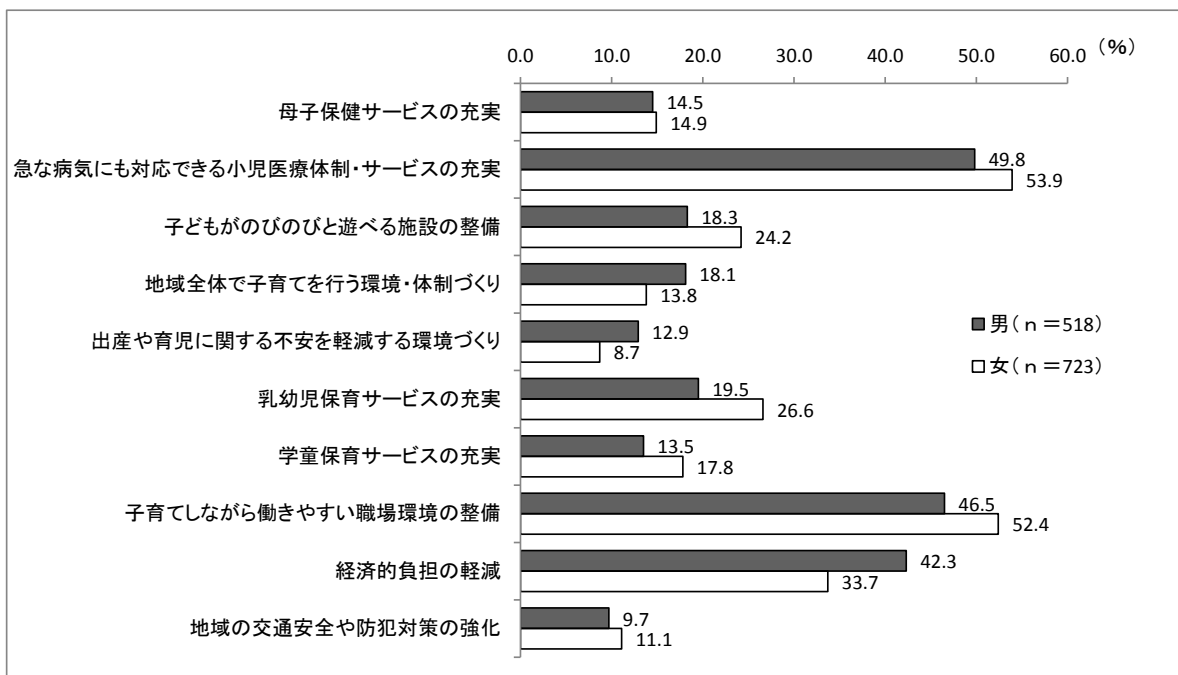


<性別>

出産・子育て支援で重要な施策を性別にみると、「経済的負担の軽減」では男性が女性の割合を大きく上回った。

また、「小児医療体制・サービスの充実」と「子育てしながら働きやすい職場環境の整備」は女性で半数を超えた。

図表番号 86 出産・子育て支援で重要な施策(性別)

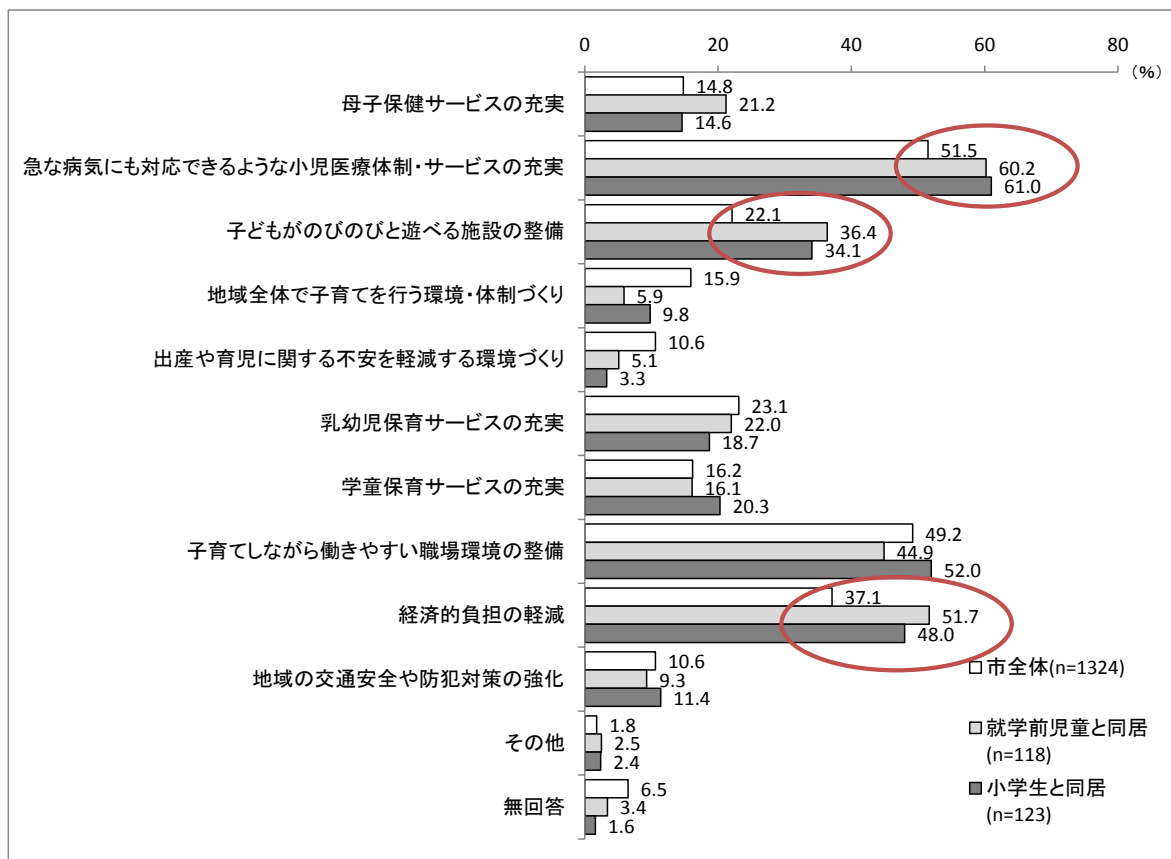


<「小学生以下の家族と同居」との比較>

出産・子育て支援で重要な施策を、就学前児童や小学生と同居している者と市民全体で比較すると、「小児医療体制の充実」では6割を超え、市民全体の割合より高くなった。また、「経済的負担の軽減」も就学前児童と同居の場合は5割を超え、小学生でも48.0%と半数近い割合となっている。

全体として、市民全体の割合より高い割合を示しており、「地域全体で子育てを行う環境・体制づくり」や「出産や育児に関する不安を軽減する環境づくり」といった項目は低く、より具体的な施策において割合が高い傾向がみられる。

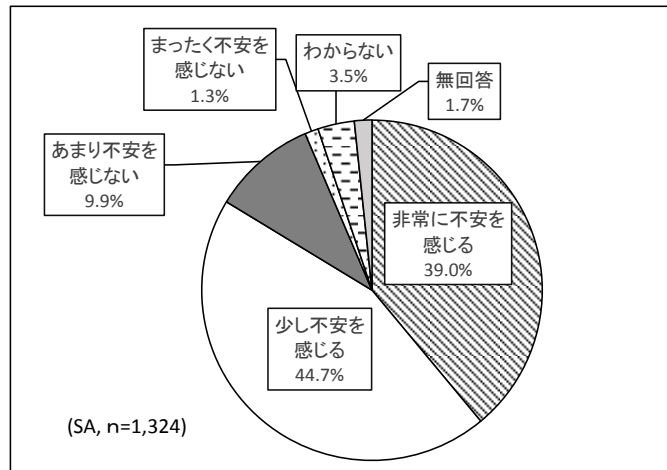
図表番号 87 出産・子育て支援で重要な施策(小学生以下の家族と同居)



③ 高齢期の生活に対する不安

高齢期になったときの生活に対する不安では、「非常に不安を感じる」が39.0%、「少し不安を感じる」が44.7%で、両者を合わせた“不安を感じる”は83.7%となった。

図表番号 88 高齢期の生活に対する不安

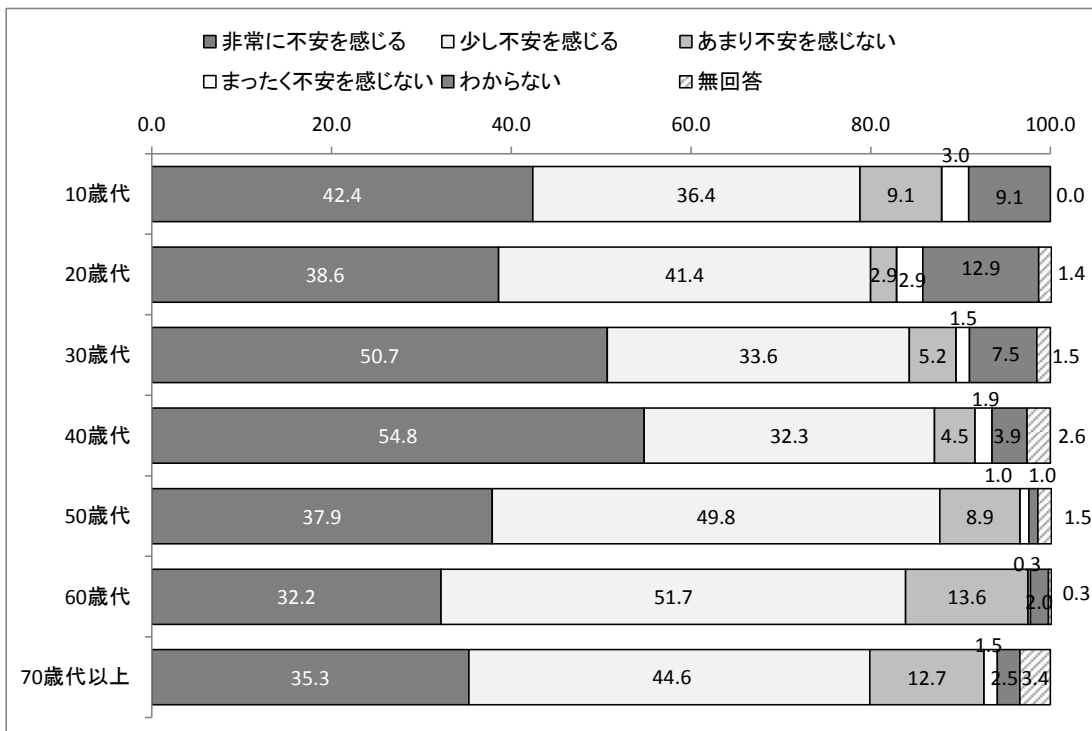


<年代別>

高齢期になったときの不安を年代別にみると、「非常に不安を感じる」は40歳代で最も高く、次いで30歳代、10歳代、となり、10歳代でも4割が「非常に不安」と回答した。

「少し不安を感じる」も合わせた“不安を感じる”では、50歳代(87.7%)と40歳代(87.1%)で高くなった。

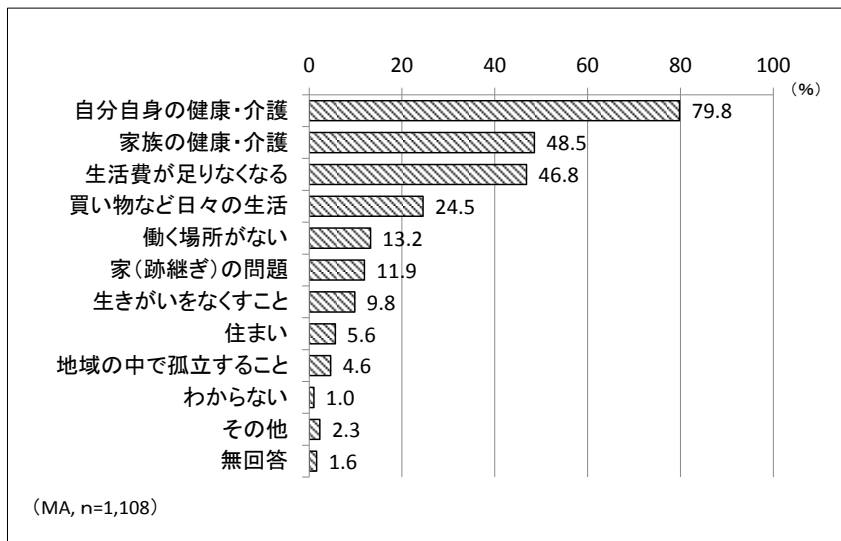
図表番号 89 高齢期の生活に対する不安(年代別)



④ 高齢期の不安要因

高齢期の不安要因では、「自分自身の健康・介護」が最も割合が高く79.8%、次いで「家族の健康・介護」が48.5%、「生活費が足りなくなる」が46.8%となった。

図表番号 90 高齢期の不安要因



<年代別>

高齢期の不安要因を年代別にみると、「生活費が足りなくなる」は20～50歳代では半数を超え、特に30歳代では第1位になっている。

また、60歳代以上では「家(跡継ぎ)の問題」が上位5位に入っている。

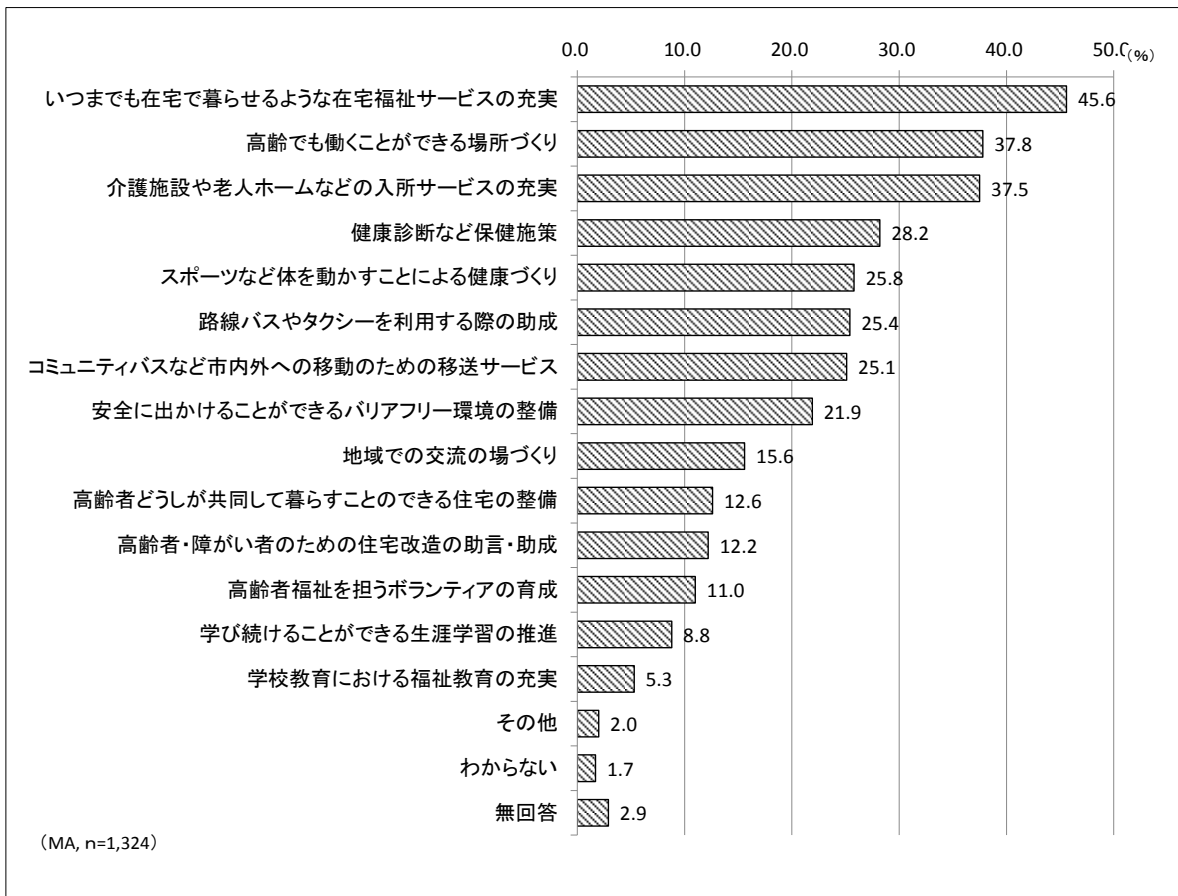
図表番号 91 高齢期の不安要因(年代別)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=26)	自分自身の健康・介護 65.4%	生活費が足りなくなる 42.3%	家族の健康・介護 34.6%	働く場所がない 34.6%	買い物など日々の生活 23.1%
20歳代 (n=56)	自分自身の健康・介護 76.8%	生活費が足りなくなる 55.4%	家族の健康・介護 44.6%	働く場所がない 21.4%	買い物など日々の生活 21.4%
30歳代 (n=113)	生活費が足りなくなる 65.5%	自分自身の健康・介護 63.7%	家族の健康・介護 41.6%	買い物など日々の生活 32.7%	働く場所がない 24.8%
40歳代 (n=135)	自分自身の健康・介護 72.6%	生活費が足りなくなる 60.7%	家族の健康・介護 48.1%	働く場所がない 23.7%	買い物など日々の生活 18.5%
50歳代 (n=178)	自分自身の健康・介護 79.8%	生活費が足りなくなる 55.6%	家族の健康・介護 48.3%	働く場所がない 19.7%	買い物など日々の生活 14.0%
60歳代 (n=328)	自分自身の健康・介護 84.1%	家族の健康・介護 49.1%	生活費が足りなくなる 40.2%	買い物など日々の生活 24.7%	家(跡継ぎ)の問題 16.2%
70歳代以上 (n=258)	自分自身の健康・介護 88.0%	家族の健康・介護 52.7%	生活費が足りなくなる 32.6%	買い物など日々の生活 31.8%	家(跡継ぎ)の問題 14.3%

⑤ 重要な高齢者施策

重要な高齢者施策では、「いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実」が最も割合が高く45.6%、次いで「高齢でも働くことができる場所づくり」が37.8%、「介護施設や老人ホームなどの入所サービス」が37.5%となった。

図表番号 92 重要な高齢者施策



<年代別>

重要な高齢者施策を年代別にみると、10～50歳代では「高齢でも働くことができる場所づくり」が最も割合が高く、10～30歳代では「健康診断など保健施策」が2番目に高いなど、60歳以上の年代と違いがみられた。

「高齢でも働くことができる場所づくり」は、60歳代でも3割に達しており、就労ニーズは高い。

また、30歳以上では「コミュニティバスなど市内外への移動のための移送」が上位となっており、70歳以上では「路線バスやタクシーを利用する際の助成」が4番目に高いなど、移動に関する支援が上位となっている。

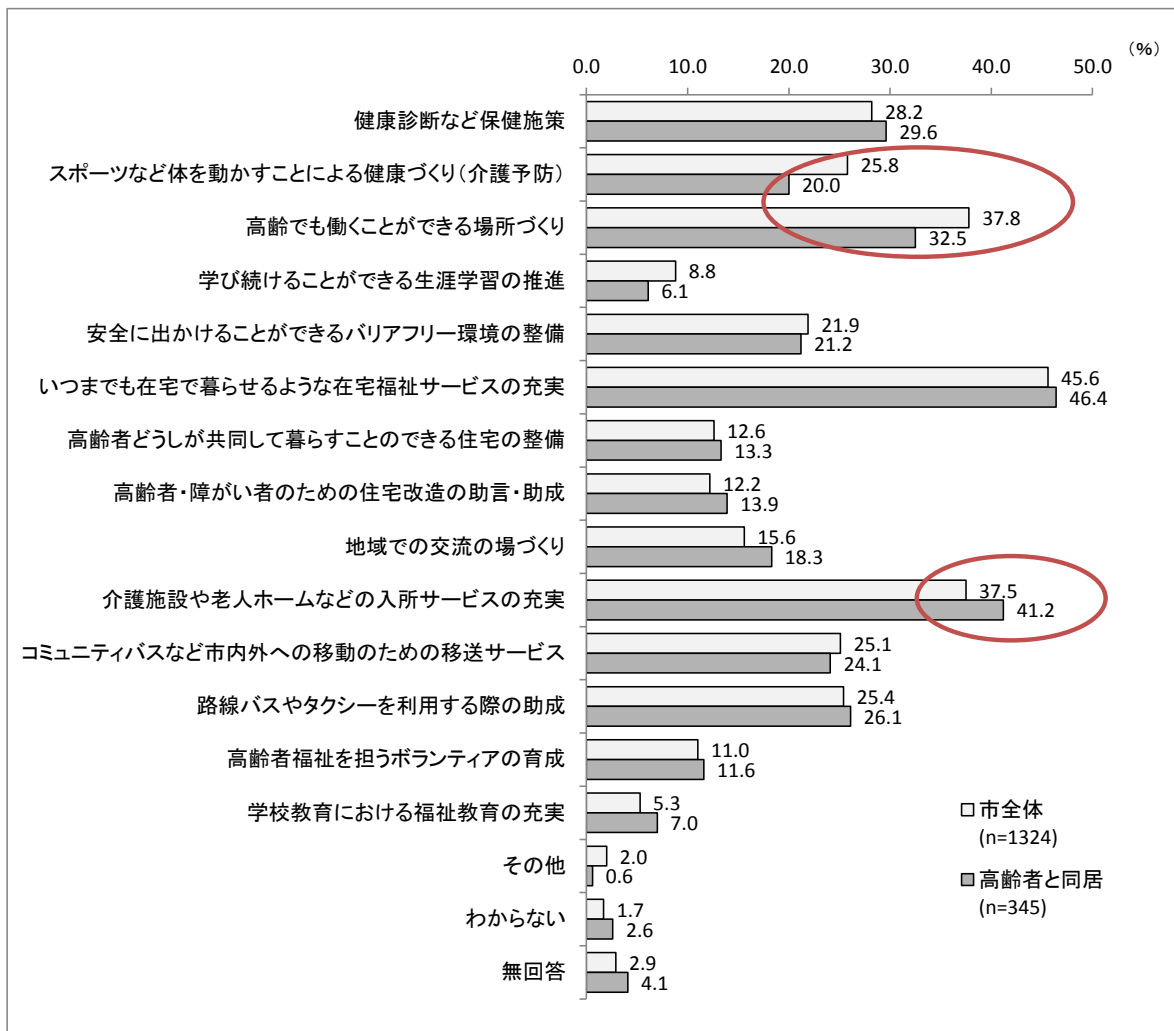
図表番号 93 重要な高齢者施策(年代別)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=33)	高齢でも働くことができる場所づくり 39.4%	健康診断など保健施策 36.4%	スポーツなど体を動かすことによる健康づくり(介護予防) 36.4%	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実 33.3%	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実 27.3%
20歳代 (n=70)	高齢でも働くことができる場所づくり 44.3%	健康診断など保健施策 40.0%	安全に出かけることができるバリアフリー環境の整備 34.3%	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実 34.3%	スポーツなど体を動かすことによる健康づくり(介護予防) 30.0%
30歳代 (n=134)	高齢でも働くことができる場所づくり 48.5%	健康診断など保健施策 34.3%	スポーツなど体を動かすことによる健康づくり(介護予防) 24.6%	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実 26.9%	学び続けることができる生涯学習の推進 9.7%
40歳代 (n=155)	高齢でも働くことができる場所づくり 56.8%	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実 42.6%	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス 26.5%	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実 25.2%	健康診断など保健施策 24.5%
50歳代 (n=203)	高齢でも働くことができる場所づくり 52.2%	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実 46.3%	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実 38.9%	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス 29.1%	スポーツなど体を動かすことによる健康づくり(介護予防) 23.2%
60歳代 (n=391)	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実 54.5%	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実 36.6%	高齢でも働くことができる場所づくり 30.9%	スポーツなど体を動かすことによる健康づくり(介護予防) 26.9%	コミュニティバスなど市内外への移動のための移送サービス 26.9%
70歳代以上 (n=323)	いつまでも在宅で暮らせるような在宅福祉サービスの充実 57.3%	介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実 38.1%	健康診断など保健施策 30.7%	路線バスやタクシーを利用する際の助成 29.4%	スポーツなど体を動かすことによる健康づくり(介護予防) 25.7%

<「75歳以上の高齢者と同居」との比較>

重要な高齢者施策を「75歳以上の高齢者と同居」している者と市民全体で比較すると、「介護施設や老人ホームなどの入所サービスの充実」が2番目に高くなる一方、「高齢でも働くことができる場所づくり」や「スポーツなど体を動かすことによる健康づくり」は割合が低くなった。

図表番号 94 重要な高齢者施策(75歳以上の高齢者と同居)



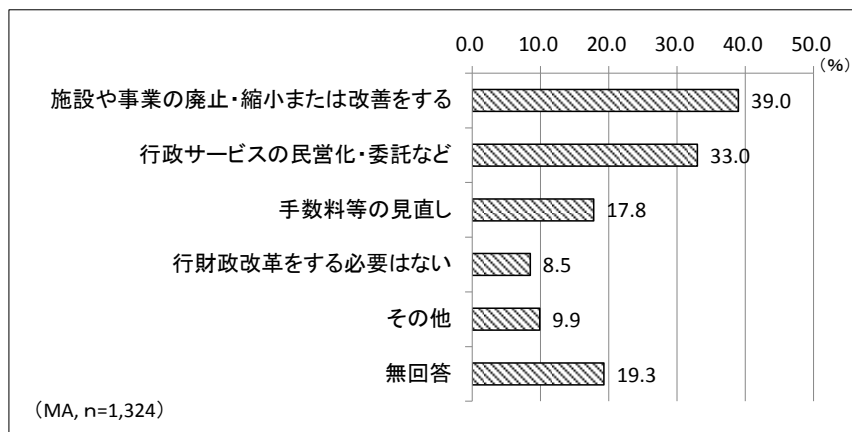
(10) 行財政改革について

① 行財政改革で必要なこと

行財政改革で必要なことでは、「施設や事業の廃止・縮小または改善をする」が最も割合が高く 39.0%、次いで「行政サービスの民営化・委託など」が 33.0%となった。

「行財政改革をする必要はない」は 8.5%だった。

図表番号 95 行財政改革で必要なこと



(7) 見直しを行うべき施設や事業

行財政改革で必要なことについて「施設や事業の廃止・縮小または改善をする」と回答した方に、見直しが必要な施設や事業について自由記述で回答してもらったところ、274 件の記入があった。

「市役所・施設職員の人数」に関連した意見が最も多く 20 件、次いで「渚の駅たてやま」が 18 件、「館山夕日栈橋」が 13 件などとなった。

図表番号 96 見直しを行うべき施設や事業(主な意見)

見直しを行うべき施設や事業	意見件数
市役所・施設職員の人数	20
渚の駅たてやま	18
館山夕日栈橋	13
施設全般	10
特別養護老人ホーム・介護施設の増設・効率的利用	8
館山市立博物館	8
学校施設	8
ごみ焼却場 収集事業	6
温水プール	6
広報「だん暖たてやま」	6
市議会議員の数	6
図書館	6

(イ) 見直しを行うべき手数料

行財政改革で必要なことについて「手数料等の見直し」と回答した方に、見直しが必要な手数料等について自由記述で回答してもらったところ、98件の記入があった。

「各種公的証明書発行手数料」が最も多く13件、次いで「手数料全般」が11件、「ごみ処理手数料等」が8件などとなった。

図表番号 97 手数料の見直し(主な意見)

見直しを行うべき手数料(主な意見)	意見件数
各種公的証明書発行手数料	13
手数料全般	11
ごみ処理手数料等	8
公的施設使用料	6
窓口での各種手数料	5
住民票発行手数料	5
駐車場代	2
公民館使用料	2

(ウ) 民営化・委託すべき行政サービス

行財政改革で必要なことについて「行政サービスの民営化・委託など」と回答した方に、民営化・委託が必要な行政サービスについて自由記述で回答してもらったところ、168件の記入があった。

「行政サービス全般」が最も多く30件、次いで「窓口業務」が22件、「ごみ処理関連」が10件などとなった。

図表番号 98 民営化・委託すべき行政サービス(主な意見)

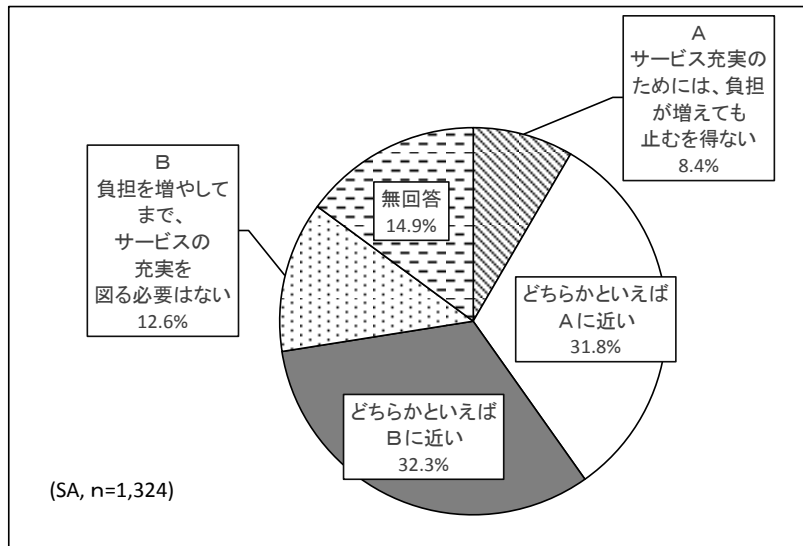
民営化・委託すべき行政サービス	意見件数
行政サービス全般	30
窓口業務	22
ごみ処理関連	10
博物館	8
高齢者サービス	6
公民館	3
介護施設・訪問介護	3
保育所・幼稚園	3

② 行政サービスと負担のバランス

行政サービスと負担のバランスでは、「負担を増やしてまで、サービスの充実を図る必要はない」は44.9%、「サービス充実のためには、負担が増えても止むを得ない」は40.2%と、回答はほぼ二分した。

無回答は14.9%となった。

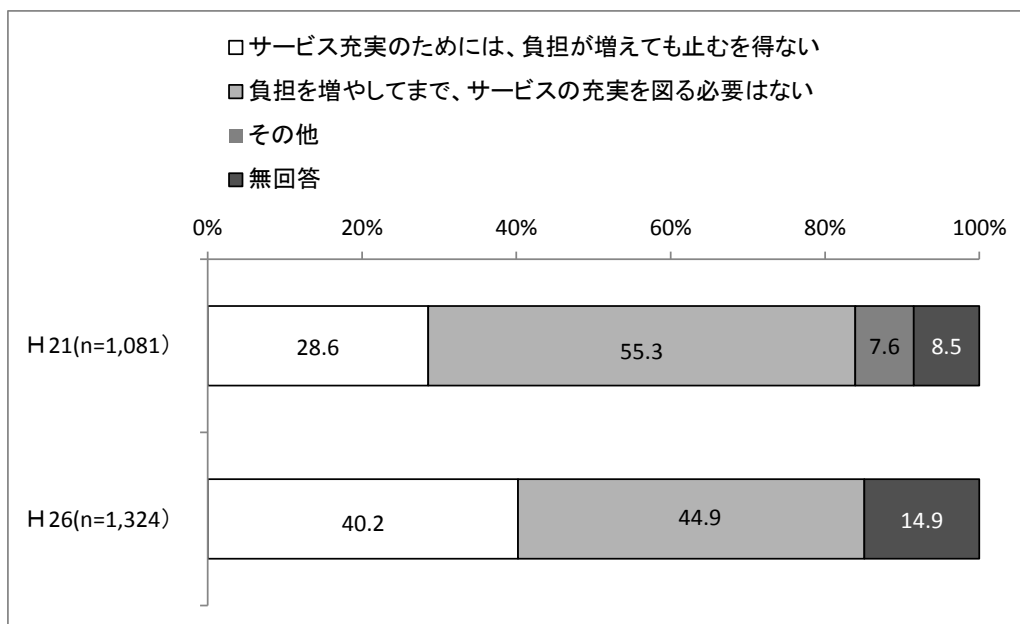
図表番号 99 行政サービスと負担のバランス



<前回調査との比較>

行政サービスと負担のバランスを前回調査と比較すると、「サービス充実のためには、負担が増えても止むを得ない」が前回に比べ増加し、「負担を増やしてまで、サービスの充実を図る必要はない」が減少した。

図表番号100 行政サービスと負担のバランス(前回調査との比較)



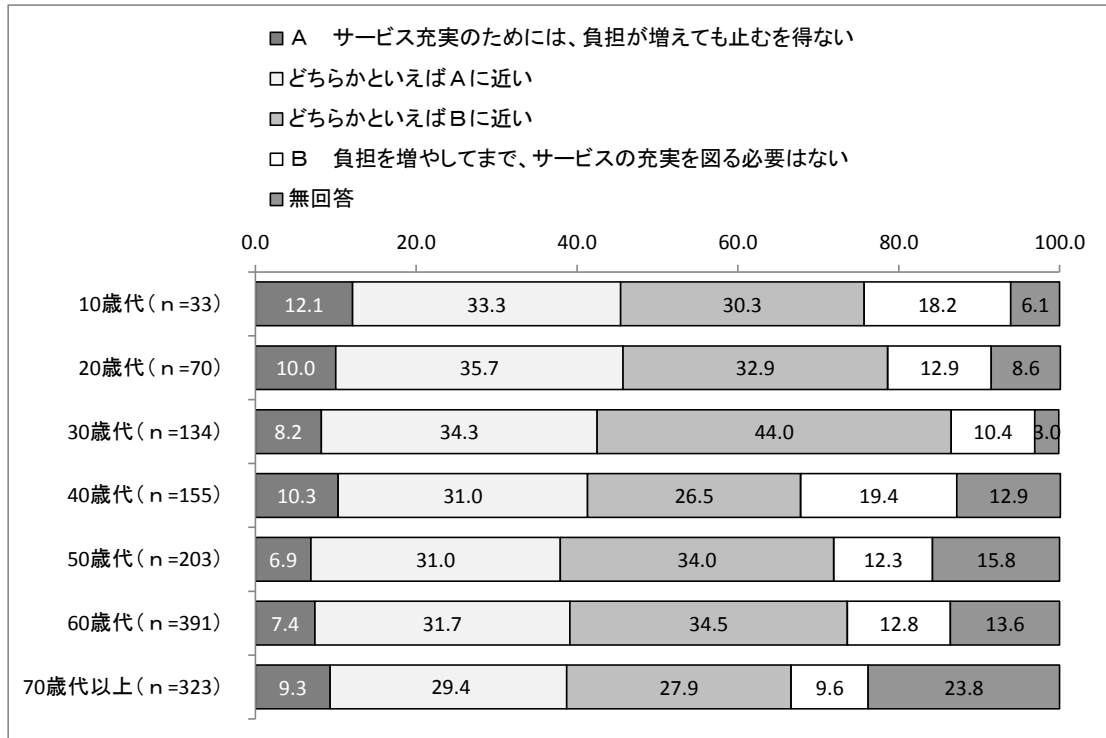
※同様の趣旨の回答は合算して比較した

<年代別>

行政サービスと負担のバランスを年代別に比較すると、「サービス充実のためには、負担が増えてもやむを得ない」は若い世代ほど割合が高い。

また、「負担を増やしてまで、サービスの充実を図る必要はない」は、30歳代で最も割合が高く54.4%と半数を超え、その他の世代では半数には満たなかった。

図表番号101 行政サービスと負担のバランス(年代別)

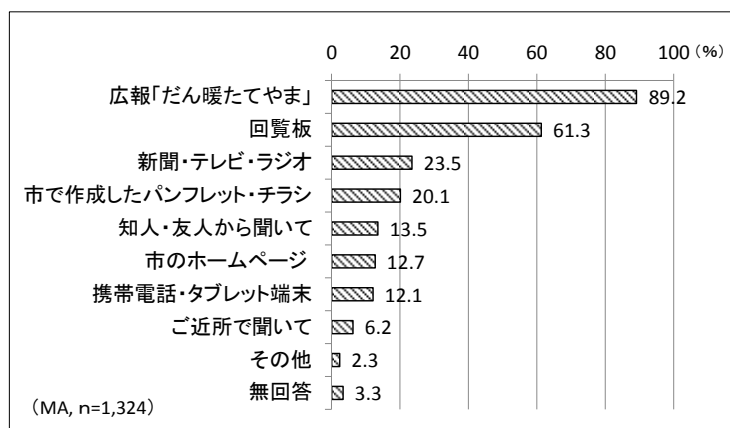


(11) 広報・情報発信について

① 市の情報の入手方法

市の情報の入手方法では「だん暖たてやま」が最も割合が高く89.2%、次いで「回覧板」が61.3%となった。「市のホームページ」(12.7%)「携帯電話・タブレット端末」(12.1%)などの電子媒体は割合が低かった。

図表番号 102 市の情報の入手方法



<年代別>

市の情報の入手方法を年代別にみると、「だん暖たてやま」はどの年代でも割合が高く、年齢が高くなるにつれて割合も高くなっている。

また、「携帯電話・タブレット端末」は10歳代、20歳代、40歳代では上位になっているほか、「市のホームページ」では30～50歳代で2割程度みられるが、60歳代以上では紙媒体が上位の項目となっている。

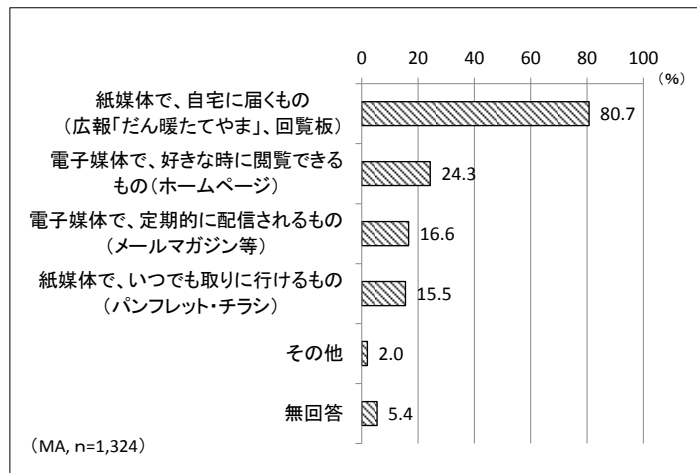
図表番号103 市の情報入手方法(年代別)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代 (n=33)	広報「だん暖たてやま」 69.7%	回覧板 39.4%	知人・友人から聞いて 18.2%	新聞・テレビ・ラジオ 15.2%	携帯電話・タブレット端末 12.1%
20歳代 (n=70)	広報「だん暖たてやま」 74.3%	回覧板 48.6%	知人・友人から聞いて 24.3%	新聞・テレビ・ラジオ 20.0%	携帯電話・タブレット端末 18.6%
30歳代 (n=134)	広報「だん暖たてやま」 91.0%	回覧板 51.5%	市のホームページ 23.1%	知人・友人から聞いて 17.9%	市で作成したパンフレット・チラシ 13.4%
40歳代 (n=155)	広報「だん暖たてやま」 89.0%	回覧板 49.0%	新聞・テレビ・ラジオ 18.7%	市のホームページ 18.7%	携帯電話・タブレット端末 13.5%
50歳代 (n=203)	広報「だん暖たてやま」 91.1%	回覧板 53.7%	市で作成したパンフレット・チラシ 20.7%	新聞・テレビ・ラジオ 18.7%	市のホームページ 18.7%
60歳代 (n=391)	広報「だん暖たてやま」 92.6%	回覧板 70.6%	市で作成したパンフレット・チラシ 29.2%	新聞・テレビ・ラジオ 25.1%	知人・友人から聞いて 12.5%
70歳代以上 (n=323)	広報「だん暖たてやま」 89.2%	回覧板 70.0%	新聞・テレビ・ラジオ 32.8%	市で作成したパンフレット・チラシ 19.2%	知人・友人から聞いて 15.2%

② 情報入手したい手段・媒体

市の情報入手したい手段・媒体では、「紙媒体で自宅に届くもの」が最も割合が高く80.7%と、回答が集中した。

図表番号 104 情報入手したい手段・媒体



<年代別>

市の情報入手したい手段・媒体を年代別にみると、「紙媒体で自宅に届くもの」はいずれの年代でも最も割合が高いが、年齢が上がるにつれて割合も高くなっている。

また、ホームページ等の“電子媒体”は50歳代までは2~3割程度みられるが、60歳代以上では割合は少なくなっている。

図表番号 105 情報入手したい手段・媒体(年代別)

	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代(n=33)	紙媒体で、自宅に届くもの(広報「だん暖たてやま」、回覧板) 66.7%	電子媒体で、定期的に配信されるもの(メールマガジン等) 30.3%	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの(ホームページ) 27.3%	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの(パンフレット・チラシ) 9.1%	無回答 6.1%
20歳代(n=70)	紙媒体で、自宅に届くもの(広報「だん暖たてやま」、回覧板) 67.1%	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの(ホームページ) 30.0%	電子媒体で、定期的に配信されるもの(メールマガジン等) 28.6%	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの(パンフレット・チラシ) 12.9%	その他 2.9%
30歳代(n=134)	紙媒体で、自宅に届くもの(広報「だん暖たてやま」、回覧板) 69.4%	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの(ホームページ) 44.0%	電子媒体で、定期的に配信されるもの(メールマガジン等) 27.6%	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの(パンフレット・チラシ) 14.9%	その他 6.0%
40歳代(n=155)	紙媒体で、自宅に届くもの(広報「だん暖たてやま」、回覧板) 74.2%	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの(ホームページ) 30.3%	電子媒体で、定期的に配信されるもの(メールマガジン等) 27.7%	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの(パンフレット・チラシ) 12.9%	無回答 7.1%
50歳代(n=203)	紙媒体で、自宅に届くもの(広報「だん暖たてやま」、回覧板) 77.3%	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの(ホームページ) 30.0%	電子媒体で、定期的に配信されるもの(メールマガジン等) 22.2%	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの(パンフレット・チラシ) 13.3%	無回答 3.0%
60歳代(n=391)	紙媒体で、自宅に届くもの(広報「だん暖たてやま」、回覧板) 88.7%	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの(ホームページ) 23.0%	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの(パンフレット・チラシ) 17.4%	電子媒体で、定期的に配信されるもの(メールマガジン等) 12.3%	無回答 3.8%
70歳代以上(n=323)	紙媒体で、自宅に届くもの(広報「だん暖たてやま」、回覧板) 85.8%	紙媒体で、いつでも取りに行けるもの(パンフレット・チラシ) 16.7%	電子媒体で、好きな時に閲覧できるもの(ホームページ) 9.9%	電子媒体で、定期的に配信されるもの(メールマガジン等) 5.0%	その他 1.9%